退職記念特別寄稿

受難の歳月　求道の歴程（1）

夏　　剛

前口上（プロローグ）

本稿は筆者の定年退職記念講演（同題，2020年1月14日，於・立命館大学恒心館209号教室）の要点を基に，大幅に膨らませた**回顧録**である。在籍の国際関係学部で担当している「東アジア文化関係論」（例年の受講者数は130～200人）の最終講義を利用したので，科目の内容に合せて**文化・言語・社会・政治等に関する日・中比較**の内容を多く入れている。学生（特に留学生）や非漢字圏国家・地域の読者に読み易い様に，振り仮名を多く付けている。

先輩同僚のこの種の講演には，自身の学者としての道程や研究成果の紹介が多いが，筆者の場合は日本に於ける中国理解や若者の人生に寄与す当く，同様の内容を盛り込む一方，演題の通り**母国及び自分の受難を歴史の証言として語り，来日後の本格的な学術研究の探求・達成を点検し，中国の改革・開放と科学・民主化の追求を思慮する事**にした。

更に憲法の保障が実行されている**平和国家の思想・表現の自由**を以て，今の**中国で闊達な議論が超法規的に封殺された中共政権の若干の歴史問題**に関して認識を示したい。川端康成のノーベル文学賞受賞記念講演『美しい日本の私――その序説』（1968.12.12，士篤恒・瑞典学士院（ストックホルムスウェーデン・アカデミー））の題を捩って言えば，**冷厳な中国に生きる人々の有り形を点描する叙説**にしたい。

江沢民・胡錦涛・習近平政権の理論構築を担う「3朝帝師」王滬寧は，［上海］復旦大学国際政治学部教授から党中央政治局常務委員（序列5位）に昇り，建国後初の学者の最高指導部入りを果したが，皮肉にも2年後の2019年12月に復旦の憲章から思想の自由と学問の独立が削除され，大学は共産党の指導に従い党の方針に奉仕し習時代の思想で教職員・学生の頭脳を武装すると規定された。講義で当局の禁忌に触れた大学教員が学生に密告され追放される破目に陥る様な新常態（ニュー・ノーマル）は，**「反右派闘争」（1957）・「文化大革命」（'66～76）以来の知識人の受難**の現れと見て可い。

中共・毛沢東の絶対的な集権・専制が確立した「'57年体制」→胡耀邦総書記失脚・鄧小平中央軍事委員会主席続投に由る改革・開放が変質した「'87年体制」→習近平「（党中央の）核心」称号獲得・習「思想・新時代」発足の「'17年体制」の変容を見出すと共に，自分も含む**「狼の乳を飲んで育った世代」の悲劇的な欠陥を正視し，毛時代への回帰の兆候と危険性に警鐘を鳴らす**のが，筆者の意図

と近年の研究の深化である。

1954 年生れ～87 年来日を第 1 の人生，2020 年定年退職までの同じ 33 年間を第 2 の人生として振り返る際，**台湾戒厳令の解除と韓国民主化の勃興も有った '87 年は歴史の転換点**に当ると再認識した。**政治改革の頓挫に由る「失われた 1/3 世紀」を惜しむ挽歌**と表裏一体で，**'84～86 年の社会・文学等の空前の活気や対日関係の史上最良に見る 20 世紀中の黄金期への讃歌**を捧げる。3 年中に中国文学の評論や小説家山崎豊子の『大地の子』中国取材の主な随行通訳を行った体験に基づいて，**日中関係の善悪と中国政治の開明度の高低との相関・連動**を指摘し，国際関係に於ける求道（然る当き在り方を実現する道筋への追求）を試みたい。

筆者の受難・求道の個人史は全然取るに足らないが，中国の現最高指導部の政治局常委会 7 人の平均と同じ年齢だけに，**初老の「"文革" 少年」世代の 1 典型**に為ろう。講演は**当代中国で「驚変・凶変」が多い「魔」の 1 月中旬**に行ったが，20 日に人から人への感染が公表された武漢発の新型病毒肺炎が世人の心胆を寒からしめる展開は，中国政治に関する 10 数年来の論文で指摘した**天命・天数・天意の働き**を証明した。本稿では不遜ながら**時代の証言者**だけでなく，**天声の代弁者や歴史の預見者としての使命感**も持ち合せたい。

数十年に亘る往事の追憶は細部まで 100％正確である事が難しく，事実と少し出入りが有る事も免れないが，文献の調査や関係者への問い合せ等で極力精度を高め，多少の差で**本質的な真実**を損なわない様に努める。

必要に応じて書き留めた見聞の内に匿名扱いの伝聞も有り，その内容の信憑性は保証しかねるが，筆者の体験と同様に虚構や脚色はしない。

本稿では私情を排して客観的な見方を貫く為に，敬意や恩義を感じる人物に就いての記述でも敬称・敬語表現を用いない。

人物の年齢・肩書等の基本情報は原則的に，記述事項の時点のものである。

参考文献は連載完結か書籍化の際に一括で掲載する予定であるが，毛沢東（の大半）・李賀・岳飛・鄭板橋の詩・詞は竹内實（中国研究の泰斗，本学部元学部長）訳（毛の『水調歌頭　重上井岡山』『念奴嬌　鳥児問答』は碇豊長訳，『西江月　秋収起義』『八連頌』は筆者訳），『唐詩三百首』（［清］蘅塘退士編）所収の詩作は目加田誠訳，曹植の詩は小川環樹・金田純一郎訳，『論語』語録は金谷治訳に依拠し，他の唐詩と魯迅の詩，『易経』『書経』『左氏春秋伝』『戦国策』『孟子』『荘子』『孫子』『史記』等の漢籍，マルクス『ヘーゲル法哲学批判序説』等の語録は，複数の訳本（後掲）を参照し，表現・表記を僅かに変えた処が有る事を明記して置く。

連載第 1 回分の提出日（2.3）は**京都の現住所への入居の 20 周年**に巡り合せ，本誌の退職記念論集の冒頭を飾る筆者の近影も当日に撮った物である。自宅は平安京跡の図書寮に位置し京都中央図書館の近くに在るが，図書好きの性分から撮影の構図で学部の会議室の掛け軸を背景に選んだ。

その盛唐の「詩聖」杜甫の律詩の絶唱と為る五律『登岳陽楼』（岳陽楼に登る）は，**「文革」中「全**

面内戦」の頂点の1 200年前（768）の作品である。本稿で振り返る**老大国の受難の歳月**とも関連するので，原文及び目加田誠（九州大学名誉教授，平成への改元時に年号の最終3案に残った「修文」の考案者）訳を掲げて置こう。

昔聞洞庭水，今上岳陽楼。呉楚東南坼，乾坤日夜浮。親朋無一字，老病有孤舟。戎馬関山北，憑軒涕泗流。（昔聞く洞庭の水，今上る岳陽楼。呉楚東南に坼け，乾坤日夜浮かぶ。親朋一字無く，老病孤舟有り。戎馬関山の北，軒に憑って涕泗流る。）

第1章　原点：「一窮二白」
――「'57年体制」下の「狼の乳を飲んで育った世代」の特質

1. 父の「背影」の薫陶と「国父」の失政の影響

「光陰似箭 / 光陰矢の如し」という中国･日本の成語の通り，何時の間にか日本基準の「前期高齢者」の部類に入り，勤続27年間の立命館大学で定年退職と為った。此処で**中国出身の学者として歩んで来た道程**や研究・教育活動を顧み，**人生の中間決算や後進への経験提供**としたい。中国思想の根幹を為す『易経』は**天・地・人「三才」**の概念を提起し，儒教の亜聖孟子は「天時不如地利，地利不如人和」（天の時は地の利に如かず，地の利は人の和に如かず）と説いたが，この**3つの「才」**に即して**原点と成長・変容**を確認してみる。

私の**出生**（1954年7月25日）は奇しくも**日清戦争勃発**（宣戦布告は8月1日）**の60周年**に当り，30歳代に気付いたこの**巡り合せ**は，文化・政治等の日・中比較研究に従事する**運命**を感じさせ，**歴史に秘めた天数・天意への探求**を促している。中国最大の国際都市**上海で生れ育ち，同済大学の教職員居住区**で**未成年時代**（～18歳）**を過した**事に由って，**開けた文明と文化の香り･教育熱心の風習に染まり，「底色」（素地と為る本色。潜在的な素質）が形成**された。

父夏正行（1922～73，四川省合江県出身）は同済大学の校長辦公室副主任（学長室副室長［室長は空席］，'59～66），母翟子庚（1932～　，遼寧省都瀋陽市出身）は打虎山路第1小学の副校長（'58年前任校同職［'54～］より転任）→校長（'64～89）で，両親から**西南＋東北広域の複合文化**や**教育畑への関心**が育まれた。**「子供は父親の背中を見て育つ」**という日本の熟語の通り，**常に深夜まで**業務の文書作成や翻訳・映画脚本の創作等で**筆を走らせる後ろ姿**に接した末，**毎日長時間･大量に書かないと気が済まない習性**が自ずと出来た。

母語・外国語能力の向上に熱心な父は時々無線放送の標準語講座を聴き，独逸語・露西亜

語が堪能で建築関係の専門書・教科書を共訳・公刊した事が有る。私が中国語教育や日中言語の翻訳・比較を行うに至ったのは，**標準語と外国語の学習・研究に熱心な父の薫陶**にも負う。母は学力順位の低い2流校を名門に作り上げた実績の持主であるが，**日記を付ける事や古詩の暗記を要求する幼少期の家庭教育**は，**読書・表現を含む国語力の向上**に繋がった。聞かせてくれた**史実・寓話・格言・警句**には，**心性の深層や中核の一部**と化す処が多い。

母方の祖父翟立林（1915～2003）は同済大学建築工程学部副教授（材料力学，'56～78）→教授（工程経済，～'85）で，国内初の経済・管理学院設立（'84）時の名誉学院長を担当し，生誕100周年の際に同学院校舎（23階建て）の15階に胸像が設置された。喜安善市・池野信一著『自動制御理論』（岩波書店，'57）を訳し（上海科技出版社，'62），『徳漢（独逸語・中国語）辞典』（上海訳文出版社，'82）の同済大学編輯組の主幹を務め，**外国語・海外の学説に幅広く接し**たが，私が受けた影響は寧ろ**専門以外に向けた雑学的な関心**に在る。

住まいの同済新村（教職・従業員集合住宅）の**職位格差**で名称に因む4区画と為り，家は父が幹部職員に昇進した後，一般教職員が多い「同楼」から教授陣が住む「村楼」に移った。**建国後の属性区分で「高級知識分子」（高等知識人）と称される教授**は，「知識が多い程反動的だ」と言う**荒唐無稽の論調の罷り通った「文革」を除いて**，党・政・軍の「高級幹部」（高官）に及ばないものの**優遇対象**である。「中層幹部」の父も同じ教育機関管理職の母も**知的な生産に従事する社会層の中位者**として，あの**乱世の前には高給・好待遇**を受けていた。

孟子が「天下之通義」とした**「労心者治人，労力者治於人」（心を労する者は人を治め，力を労する者は人に治められる）**は，「文革」中でも全く世間一般に通ずる道理・意義でなくなった事が無い。共産党は労働者と農民を革命の指導的な先鋒（前衛）部隊と主要な同盟軍に位置付けているが，**都市と農村，労働者と農民，頭脳労働者と肉体労働者の間の「3大差別（格差）」は未だに解消できない**。同済新村でも主に用務員が住む「済楼」は暗黙裡に最下位と見られ，事務労働者や若手・独身教員等が多い「新楼」はその1つ格上とされた。

同済大学は中国の建築・土木工学が理工科最高学府の［北京］清華大学と並び，国内大学序列で現在10位に在る。独逸人が1907年に創った同済徳文医学堂から発足した大学の名は，校訓「同舟共済」（同じ舟に乗り共に川を渡る）の略である。中国兵法の開祖孫子の「呉人与越人相悪也，当其同舟而済，遇風，其相救也如左右手」（呉人と越人とは相悪む也，其の舟を同じくして済り，風に遇うに当りて，其の相救う也左右の手の如し）は，日本語の「呉越同舟」「同舟相救う」「共済」の語源で，**両国共通の互助・互恵の美徳**を表す。

中共治下の団地に冠する**「新村」**は「国父」**毛沢東の大同（無私・互助）共生理念**に由り，同じ'76年に歿した**武者小路実篤の「新しき村」の影響が由来**である。人間信頼・社会調和を目指す彼の小説家の村落共同体建設（'18・39）と違って，毛は**階級闘争の無い理想郷を求めず無産階級専政（専制政治）下の革命を進めた**。党名に1字を含む「共済」とは逆の**不**

平等は**異端階級 / 者への抑圧**だけでなく，**特権享受者と一般人の懸隔**にも現れる。同済新村の各区画の芝生等の緑化面積の大差からも，同舟の呉越の様な**対立関係**が見て取れる。

上村幸治（獨協大学教授）訳『周恩来秘録　党機密文書は語る』（文藝春秋，'07）には，毛沢東の妻江青を指す「十一楼」を「十一階」とした誤訳が有る。江が「文革」初期に住んでいた釣魚台国賓館 11 号楼に因んだ関係者の呼称で，「楼」の多義中の「棟」が正しい。中南海（党中央・国務院所在地と指導者居住区）が覗かれない様に周辺の建物は規制され，国賓館の最上級棟の 18 どころか階数が 11 も有るのは皆無であった。元毎日新聞社中国総局長の**意外な不案内**は，**中国理解に必要な歴史鑑・土地勘・言語感の重要性**を思わせた。

両親結婚（'52.11.7）時の同 15 楼 118 号の 2DK 住宅は，私の 1 歳時に弟の出生に備えて隣の 119 号（3DK）に変った。次に同規格の同 9 楼 66 号（'60.4～61.5）を経て，父の栄転で村 3 楼 351 号 5 室（3LDK）に転出した。其々 1・2 階建ての「済 / 同楼」に対し「村楼」は 3 階建てと為り，3 階の新居に入ったのは盛唐の王之渙の五言絶句『登鸛鵲楼』（鸛鵲楼に登る）の**「更上一層楼」（更に上る一層の楼）**の感じがする。役職柄その時代に珍しい電話も引いてあり，隣人の設計専門家の家族が電話を借りに来た時**優越感**を覚えた事も有る。

小学 1 年は母の勤務先に通い，往復とも一緒で帰りは街灯が点いた遅い頃が多い。校長の息子と見られる不都合から同済新村内の四平路第 2 小学に転校したが，**小学時代の深い思い出は毎日の国歌放送付きの国旗掲揚式**である。教科書の内容で目に焼き付いたのは地理と共に得意な国語の，4 年（？）時の冒頭の代（暫定）国歌『義勇軍行進曲』の歌詞（田漢作）である。自宅で有線放送の古典名著の「評書」（講談）を聴いてから走って行く為可く遅刻し，頭も成績も良いが**自分の自由な進度で事を進め集団・紀律を軽んじる**と評された。

教職工員団地は大学の校園の隣に在り，教育関係者が密集する故に**子女の向学心も概ね強く**，今も他所からの**「孟母三遷」の定住先**として地価が高い程である。両親は残業で家庭を顧みる時間が少ないし，子供に**自主的な進路選択を任せる方針**も有って，母が 1 度「医者に為るのも良いね」と呟いた事を除いて口出しは無かった。私は小学校の高学年でも将来の夢を持っていなかったが，**良い環境に恵まれた**上で**順調な人生が許されるなら**，文系の大学に入って研究職を目指したに違い無い。

母親の計らいで墓所の近く→市場の近く→学校の近くにと 3 度遷し変えた孟子は，「人和＞地利＞天時」の**価値順位**を唱えたが，俗諺の「人算不如天算」（人の算は天の算に如ばず）が示唆する様に，**人が天（造物主。運命）や時に勝てない**場合も間々有る。英国の牛津大学出版部の調査（'06）に拠ると，当代の英語で最も使われている名詞は **time**（時）である。多義中の**「歳月・時代・時勢」**に即して言えば，**毛沢東時代の「天」（主宰者）が作った時流は，数億の中国人の力の総和を以てでも太刀打ちできなかった。**

私が**経験した第 1 の国難は「大躍進」**（'58～59）**の失敗に由る大飢饉**（'59～61）で，比

較的裕福な家庭なので**約３千万人が餓死**して行く中で事無きを得たが，親が高価で買ってくれた兎肉入りの饅頭は今も人生最高の御馳走として憶えている。**次の大難は「文化大革命」**（'66.5.16～76.10.6）に他ならず，初期に政治運動に専念する為の**大学入試延期→停止**の党中央・国務院決定（6.13，7.24）を聞いた時，**人生最大級の落胆**を覚えた。**暗い予感**が当り以来**11年も試験選抜に由る大学進学の道は閉ざされ，青春の空費**を強いられた。

2.「'57/87/17年体制」の３朝を貫く暗流と禁忌

'00年10月14日，朱鎔基総理は東京でTBSテレビ『筑紫哲也News23』の特別番組に出演し，中国の指導者として初めて多数（100人）の日本市民と直接対話を行った。その中で日中戦争を巡る両国の**歴史認識の差**に就いて，如何なる人も歴史を忘れては行けない，歴史を忘れる事は過去を裏切る事を意味する，未来に目を向けながら歴史と向き合い，歴史から教訓を汲み取り，過ちを２度と繰り返さない様にす当きだ，と語った。**立派な正論は自国の暗部にも適用しなければ為らない**が，彼の言行には**二重基準の矛盾**も散見された。

朱鎔基は引退（'03）後に清華大学経済管理学院名誉院長を務めた事の様に**経済に精通**し，腐敗摘発の為に棺桶を自分用も含めて101個用意せよと言う壮語の通り**豪胆**を持ち，異名「経済沙皇（帝政露西亜の皇帝）」の名に愧ぬ**鉄腕**を揮った。極め付けは上海市長在任中の'89年「6.4」事変の４日後の電視講話で，北京の出来事は歴史であり，歴史の事実は誰も隠せない，真相は何れ明らかに為ろう，と**民主化運動を「反革命暴乱」と断罪した中央の見解と一線を劃す**言い回しで，**自らの治下では軍の武力鎮圧を回避する意志**を表明した。

同年に朝日新聞社上海支局長を退き専業小説家に転身した伴野朗は，歴史・政治と推理・冒険を組み合せた長篇『上海遥かなり』（有楽出版社，'92）で，事変前の同市No.1・２の江沢民・朱鎔基が連想される江伯鈞市長・陳沢副市長の暗闘を描く。江の中央への栄転に伴う後任人事の取引を終えた後，仲の悪い２人は初めて握手し陳は一礼して市長執務室を出た，という描写は**敵手同士も和の体裁を繕う事が多い実態，退室時に一礼しない中国人の慣習には合致しない**が，**民主化運動の底流に有る民意を見出す処は概ね的確**である。

改革派の胡耀邦元総書記の急逝（'89.4.15）を追悼する大衆は民主化要求を提起し，中南海の新華門（正門）で起きた学生示威隊と警備部隊の衝突（20）を皮切りに対立が激化した。作者の分身と思われる主人公の土屋慎介（『中央日報』上海特派員）は，当局は可也強硬な姿勢で対抗する事を予見した半面，上部と民衆に有る「文革は二度と御免だ！」という強い合意を根拠に，流血の惨事は起きないと予測した。「文革は人々の魂を引き裂き，言葉で表現できない深刻な爪痕を人々の心に残してきた」から，**至って常識的な判断**と言える。

「それからやっと十年ちょっとが過ぎたばかりではないか。いくら中国人が/――喉元過

ぎれば，熱さを忘れる。/ 国民性であっても，文革の二の舞いはやるまい，との観測が大勢を占めていたのは紛れもない事実である。」中国の熟語にも「好了瘡疤忘了痛」（腫物・傷が治って了えば［「瘡疤」はそれで生じる瘡蓋］痛さを忘れる）も有るが，和語の「喉元過ぎれば熱さを忘れる」は，寧ろ**「忘年会」の習慣が有る日本の国民性**ではないかと疑問が涌く。但し，**13 年しか過ぎなかった時点で「文革」の苦難を忘れる事が無いのは確か**である。

『楚辞』（中国の戦国時代の楚の歌謡集）に由来した「羹に懲りて膾を吹く」（羹の熱さに懲りて冷たい膾をも吹いて食う。1 度の失敗に懲りて無益な用心をする事の譬え）は，中国の類義語に**より極端な**「因噎廃食」（食べ物が喉に支えた事で食べる事を止めて了う。小事を恐れて大事を止めて了う事の譬え）と有る。日本語の「蛇に噛まれて朽縄を怖じる」（1 度痛い目に遭った後，必要以上に用心深くなる事の譬え）は，中国では「一朝被蛇咬，十年怕井縄」（一朝蛇に咬まれると，10 年井戸の縄を恐れる）と**長期間を強調**する。

朝鮮半島では江原道民謡『恨，五百年』に因んだ「“恨”の文化」が有ると言うが，中唐の白居易の長篇叙事詩『長恨歌』を結ぶ「天長地久有時尽，此恨綿綿無絶期。」（天長く地久しく時有って尽くるも，此の恨み綿綿として絶ゆる期無し）の様に，**中国人の痛恨の怨念は往往にして世世代代へ伝わって行き限が無い**。同じ**御破算を表す日本語の「水に流す」と中国語の「一風吹」**は，前者は**川と共に一方向へ去り再び戻らない**が，後者は**一陣の風で飛ばされた後も風向きが変れば何回も元通りに為るから執拗**である。

日本で禊が済んだ心算の歴史の清算は中国では帳消しに為らず能く蒸し返されるが，**文化の相異に由る思考・行動の違い**はともかく，歴史の忘却を過去への裏切りとする中共の合言葉は一理有る。歴史と向き合うよう唱えた朱鎔基は当然，自説を実践して過去の過誤から教訓を得る模範でなければ為らないが，総理就任の初記者会見（'98.3.19）で米国の記者から「反右派闘争」の被害体験を訊かれた時，その経歴は私に多くの事を教えたが，不愉快でもあるからもう触れたくない，と急に**直言の鳴りを潜めて**歯切れの悪い躱し方をした。

翌年の 4 月 2 日に『ウォール街日刊新聞』を所有するダウ・ジョーンズ社のカーン会長夫妻の面会取材で，「右派」とされた 20 年近くの受難の生活及びその経歴の今の中国政府への影響を教えて欲しいという質問に対し，あの不愉快な経歴を話したくないし話す必要も無いと答えた。その姿勢を承知の上で価値の有る情報を戴きたいと懇願されると，苦痛の経歴は有益な経験でもあり，自分は社会の多くの層と幅広く接し得た，今の党・政府はもう十分に教訓を汲み取った，と相変らず**具体的な回顧を拒否**した。

「反右派闘争」は官僚主義・宗派主義・主観主義に反対する中共の整風運動（'57.5.1～）が始まりで，意見を求められた民主党派や文化・教育界の体制批判が毛沢東の逆鱗に触れ，6 月 8 日から逆襲し翌年に掛けて 55 万人超の異端者を「右派分子」として追放した。朱鎔基は国家計画委員会（中央省庁）で時弊を糾した為「右派」の烙印を押され，大勢の人々

と同じく ’78 年に漸く名誉・党籍が回復した。**第 5 代総理は毛沢東時代の迫害で苦節 20 年を強いられたが，冤罪に就いての苦言を控え続け墓場まで持って行く可能性すら有る。**

貴方はその経歴に由って異なる見解を容認でき自らの見解も多様化したのかという質問に，朱鎔基は「そうかも知れない」と米国の読者への**本音開示を最後まで避けた**。「反右闘争」開始の 32 年後の電視演説で**「政治沙皇」鄧小平と微妙な距離感を置いた**が，「反右闘争」を仕切った**鄧の無謬性を維持する為の自粛**は已むを得ない。『朱鎔基答記者問』（朱鎔基，記者に答える。人民出版社，’09）に収録されたこの「模範回答」は，**党が設けた「禁区」（立入り禁止区域）の不可進（入）**を物語る。

「瘡疤」（瘡の痕）は「痛い処。短所」の意味と「揭～」（人の暗部を暴く）の用例も有り，中国の警句には「打人不打臉，罵人不揭短」（人を打つ時には顔を打つな，人を罵る時には痛い処を突くな）と有る。朱鎔基は国家計委主任（閣僚）辦公室副処長から計委附属学校の教員に左遷され，’62 年に経済再建で計委国民経済総合局工程師（技師。技官［技術官吏］）として復帰した後，「文革」中 ’70～75 年に労働改造を強制された。**失われた 20 年は汚点に為らずとも勲章とも言えず，傷痕に塩を撒かれたくない心情は痛い程分る。**

米国陣が 2 年連続零回答を受けた後の訪日対話で類似の質問が出なかったのは，**他者の内面に土足で踏み込む不躾を戒める「礼儀の邦」の作法**の為でもあろうが，日本では抑々「反右派闘争」は殆ど知られていない。国内最大規模を誇る『日本国語大辞典』の同時期の第 2 版（日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞書編集部編，本編 13 巻＋別巻 1，小学館，’00～02）では，日本にも入った「中共語」の【百家争鳴】の語釈に出た「反右派闘争」は立項されず，未習単語で新出単語を説明する様な不備は**馴染の無さ**の証である。

【造反】の中の「文化大革命（一九六六～六九）」は終了を 7 年も早くし，「一九六六～七六年」と正しく記した【文化大革命】の中の「江青ら“四人組”」は，「四人組」の項は無く【江青】の項は**基本情報の間違いが多い**（1913 に作る生年は ’14［3.5］の誤り，毛沢東と結婚した ’39 年は ’38 年［11.20］が正しい，自殺の場所は獄中ではなく病気治療仮釈放中の居所）。中国流で言う**「低級錯誤」（低次元の過誤）**は本国の公刊情報に依拠せず，内外の類書を参照しない所為であろうが，**近くて遠い中国に対する日本の理解不足**が露呈した。

「国民的辞書」の誉れ高い『広辞苑』（新村出編，岩波書店）は，第 5 版（’98）の【四人組】増設より早く第 3 版（’83）で【反右派闘争】を設け，「右派に反する闘争。中国で，一九五七年，民主諸党派や文化・教育界などを中心に，社会主義に反するブルジョア右派思想を批判し，丁玲など多くの人物を追放した。七九年“右派分子”全員が名誉回復，八一年その行きすぎの誤りが認められた」と説明した。**「建国以来の党の若干の歴史問題に関する中共中央決議」**（’81.6.27）**の結論**を記す点は，**毛沢東時代→鄧小平時代の転換**を映している。

被害者の典型の丁玲は初版（’55）から項目が有り，第 5 版以来の現行記述は「（Ding Ling）

中国の作家。本名，蒋氷之。湖南の人。夫胡也頻の刑死後，一九三二年中国共産党に入党。解放区で八路軍の文化宣伝工作を担当。五七年反右派闘争で失脚，七九年名誉回復。作『霞村にいた時』『太陽は桑乾川を照らす』など。「一九〇四―一九八六」と為る。国民党に由る夫の処刑（'31）と自分の拘禁（'33～36）に続いて，「反党集団」成員として黒龍江省の農場に下放され，**「文革」中の5年の投獄を含めて人生の1/4超の21年の流刑**に処された。

丁玲並みの有名な「右派分子」は数多いので新版から例示を止め，「中心に」以下は「起こった体制批判を，ブルジョア右派思想として追及し，多くの知識人たちを追放した闘争。七八年“右派分子”の大部分が名誉回復，行き過ぎの誤りが認められた」と直してある。旧版の「全員」は**名誉未回復の96人**が居るから語弊が有るが，**552 973人中の微々たる僅少比率**は「略全員」が是正作業終了の'80年の実態に合う。**全体を正当化する為に1万分の1.7の結論維持**が強引に為されたが，**5 759倍の「拡大化」だとしても十分過ぎる程に恐ろしい。**

重責完遂の為に地雷原も畏れぬと啖呵を切った朱鎔基総理は妻だけが恐いと言われるが，訪日中の対話集会では**「鉄血宰相」の形象とは裏腹の実直**を以て，「私の対日政策が弱腰だと言う批判の電子郵便物が国務院に殺到して，夜も眠れない事が有る」と吐露した。未放送と為った苦悩から胡耀邦失脚の「資産階級自由化容認」「対日軟弱」等の罪名を思い起すが，総書記辞任（'87.1.16）と関連して13，17，23日に党籍を剥奪された3人の著名人は，**「右派分子」の名誉回復の数年後に鄧小平の新「反右」の標的として排除された。**

最初の王若望は上海の文芸誌副編集長在任中の筆禍で「右派」とされ労働改造の身と為り，彼への批判を拒む妻は迫害に耐えず精神病を患って歿した。**国民党時代の投獄**（'34～37）**の再演**の様に「文革」中4年間監禁され，4つの基本原則（社会主義の道 / 人民民主専政 / 共産党の指導 / マルクス＝レーニン主義・毛沢東思想を堅持する）に反対するとした今回の処分の後，'89年の民主化運動への関与で14ヵ月の拘禁を受けた。'92年に**「右派」時代の下放を遥かに上回る米国亡命**を強いられ，**再評価も帰国許可も無い儘**'01年に客死した（歿年83）。

次の方励之は異名「**中国のサハロフ**（ソ連の反体制的な核物理学者）」の天体物理学者で，中国科学院（理系の国家学士院・国務院直属の「智庫」）物理研究所に在籍中，**科学・民主精神の不足を指摘する意見書**で「右派」とされ党から除名され，中国科学技術大学の教員を務めた後「文革」中1年の監禁を食った。名誉・党籍回復後'84年に同校第1副学長に起用されたが，**民主化運動の旗手**を為した故に解任・党除名に遭った。「6.4」の翌日に米国大使館に避難し翌年に英国へ渡航し，'12年に定住先の米国で76歳の人生を閉じた。

「3本の矢」で最後に倒された劉賓雁は『中国青年報』（中国共産主義青年団中央機関紙）記者時代に，記事で党・社会主義を誹謗し社会を混乱させたとして毛沢東の指示で「右派」にされ党から除名された。'79年の復帰後に『人民日報』（党中央機関紙）記者・実録文学作家として**腐敗・人権抑圧を告発**し大衆に支持されたが，民主化運動を煽動したとして党

籍剥奪・中国作家協会副主席解任と為った。'88 年の渡米後「6.4」後の亡命，'05 年の病死（80 歳），'10 年の遺骨帰国は，**閑職・労働改造・創作禁止で干された毛沢東時代よりも厳しい。**

日本の「55 年体制」（'55 年に自由民主党と左・右日本社会党の結成で出現した保守・革新の 2 大政党制）の下で，**自民党の単独執政は 38 年弱続いたが，「反右派闘争」で固めた中共「'57 年体制」は 1 党独裁・寡頭統治の超長期化の盤石を作った。**劉賓雁等が教訓総括の為企画した記念行事が不発に終った「反右」30 周年には，**改革・開放の変調で権貴支配・強欲驀進の開発独裁の「'87 年体制」**が形成された。更に 30 年後の党大会で**習近平「核心」の「新時代」**が宣言されたが，**「'17 年体制」の毛時代への回帰**は否応無しに目に付く。

3. 毛沢東の幽霊の彷徨と「狼の乳」の注入・浸透

毛沢東生誕 100 周年の '93 年に世に問う映画『藍風筝』（青い凧）は，スターリンの死（'53）→「百花斉放・百花争鳴」→「反右派闘争」→「大躍進」→「文革」の暗黒を描いた為，国際的な評価が高い（第 6 回東京国際映画祭大賞受賞）にも関らず国内では上映が禁止され，中国映画「第 5 世代」の俊英監督田壮壮（41 歳）は 10 年間も製作を禁じられた。**毛の幽霊彷徨・猛威発揮**は「文革」勃発 40 年・終結 30 年の '06 年の初頭に又現れ，**毛の時代に引けを取らぬ言論封殺**で『中国青年報』の『氷点週刊』停刊事件が起きた。

胡耀邦急死の 4 日後（4.19）に北京の『新観察』誌主催で改革派論客の追悼座談会が行われ，23 日に上海の『世界経済導報』の転載は江沢民市委書記に一部削除を求められたが，欽立本編集長の拒否で発禁処分を受け 5 月 8 日に同誌は停（廃）刊と為った。欽は上海『文滙報』副編集長在任中に同紙が**毛沢東から「右派新聞」と断罪された所為**で，'58 年に「右傾」として左遷されたが，**31 年後の停職・軟禁の末に胡の逝去 2 周年の日に病没し**（73 歳），**臨終の 5 日前に病床で葬送宣言の様な党籍除名処分決定を痛恨の思いで聞かされた。**

問題と為った厳家祺（中国社会科学院［文系の国家学士院・国務院直属の「智庫」］政治学研究所初代所長［'85～89］）の論説は，中国の**指導者の交代は従来非民主的**で，胡耀邦の解職も**正常な手続きを踏んでいない**と喝破した。'79 年に唱えた指導者任期終身制の廃止と同じ政治改革の主張は**当局の虎の尾を踏み**，江沢民は乱暴な停刊に対する趙紫陽総書記の叱咤を顧みず強硬姿勢を貫いた。その**「確固たる立場」は「長老治国」の影の最高指導部に評価され**，趙の失脚後に後釜に据える破格の大抜擢に直結した。

言論封殺が決定的な「政績」（政治業績）に為った江沢民の総書記就任（6.24）の翌月，『新観察』の永久停刊で改革派発信の南北 2 大媒体は根刮ぎ斬り取られた。建国後の最初の中共建党記念日（'50.7.1）に創刊した同誌は '54 年に中国作家協会機関誌と為り，**「反右派闘争」「大躍進」に由る人材難・大飢饉の影響で '60 年に停刊を余儀無くされた。**上海社会科学院

世界経済研究所の欽立本副所長が『世界経済導報』を創刊した**'80年に復刊**したが，同所・中国世界経済学会合同の上海の民間週刊誌と**同じ時期に葬られた**。

『新観察』の前身である『観察』週刊は'46年9月1日に上海で創刊し，**自由主義者が民主化を鼓吹する重要な論壇**として**当局に睨まれて停刊**された（'48.12.24）。**民主共和国設立の「第3の道」の幻滅**を味わった儲安平編集長は，『光明日報』（各民主党派・無党派民主人士合同）編集長に就任（'57.4.1）後，「毛主席・周総理に物申す」の文（6.1）**で中共独裁の「党天下」を糾した**為「右派」とされた。彼は「文革」の迫害で自殺未遂（'66.8.31）の直後に失踪し，行方不明の儘に訪れた**名誉回復の大波の恩恵を浴びず終い**と為った。

『新観察』の初代編集長戈揚は「右派」として失脚後21年間も労働改造等をさせられ，報道界の「4大花旦（芝居の女形［活発な若い娘等］）」と併称された他の3人の内，楊剛（元周総理辦公室［事務所］主任秘書・党中央宣伝部国際宣伝処処長，『人民日報』副総編集長）は，丁玲批判の衝撃や建国前の一時離党の負い目等の所為か自殺し（'57.10.7，52歳），浦熙修（『文滙報』副編集長）・彭子岡（『旅行者』誌編集責任者）も「右派」とされ，浦は**中共治下の「才女薄命」**の1例の様に名誉回復を待てず'70年に59歳で歿した。

第2代編集長（'59～60）の文芸評論家馬鉄丁（陳笑雨）は「反右闘争」の難を逃れたが，「文革」初期に土下座・謝罪の強要や平手打ちの**虐待で希望を失い**49歳の人生を絶った。同じ8月24日に作家老舎も同じく北京で入水自殺し（67歳），中共創設成員（離党後復帰）で武漢大学学長・哲学者の李達は紅衛兵の吊し上げで重体と為り，旧友毛沢東への命乞いの嘆願書も効かず湖北の省都で悲愴な死を遂げた（75歳）。**同時多発的な被害は「紅色恐怖」の最中の当日に限らず，「文革」の10年乃至毛時代の27年の間に様々な形で現れていた。**

「第2の解放（開国）」の2年目に復刊後の編集長戈揚は初代より1年余り長く務めたが，人民大会堂（国会議事堂）で胡耀邦追悼会（4.22）に参加した後，「5.4運動」（'19年5月4日に北京で起きた学生示威隊と軍警の衝突から，全国規模に発展した民衆の反帝国主義・反封建運動）70周年記念行事に出席す可く渡米した。其処で北京部分地区戒厳（'5.20）・軍隊発砲弾圧を聞いて，我々が昔入った党は今のこの党ではなく，自分は**人民を鎮圧する党と決裂する**と言って離党し，以後'09年の死去（92歳）まで彼の**自由の国に定住**した。

欽立本は'39年（21歳）に浙江の高校で**抑圧反対・民主要求の学生運動**を起し，省教育庁に「思想が過激，行為が不埒」として除名され，抗日戦争中の大学3年時にも学生運動を組織した事で除名された。浦熙修は記者を務めた『新民報』が「匪（中共）の為に宣伝」として永久停刊にされ，4ヵ月後（'48.11）に当局から70日間監禁された。毛沢東は開国大典の際に天安門の楼上で彼女の入獄経験を称えたが，彼は'55年5月16日に評論家・詩人の**胡風を「反革命集団首領」として投獄**し，11年後の**「文革」発動の伏線**を敷いた。

周恩来と共に浦熙修を獄中から救出した羅隆基は政治学者で，'30年に国民党の独裁へ

の糾弾で逮捕され教鞭を執る大学から解雇され，'33 年に政府の対日譲歩を批判した故に暗殺に遭った（未遂）。この**直言居士**は建国後の政治闘争の冤罪を審査・是正する超党派委員会の設置を提言した結果，「右派」として森林工業相を罷免され，**翼賛政党化の「民主党派」中国民主同盟でも副主席を解任**された。同棲相手の**浦の保身の為の告発・訣別で心身の打撃**が重なって '65 年に 69 歳で歿し，後に中央の「5 大右派」の 2 位として名誉回復が無い。

「大右派」筆頭の章伯鈞は中国農工民主党主席・民盟第 1 副主席・交通相・『光明日報』社長で，その二院制実施と政治協商会議（中共主導の超党派政治助言機関）・人民代表大会（議会）・民主党派・群衆団体（青年団・労働組合・婦人連合会）の「政治設計院」化の主張と，羅隆基の「平反（名誉回復）委員会」設置の提言，儲安平の「党天下」批判は，毛沢東に 3 大「右派」理論とされ当人の**永久不是正**を招いた。『光明日報』は章・儲の失脚で中共中央宣伝部･統一戦線工作部に指導権が移り，**党外の言説に対する管制は一層強化**した。

「右派の子」の「原罪」を持たされた次女章怡和は '60 年に中国戯曲研究院戯曲文学部に入り，'63 年に四川省川劇団芸術室に下放され，'70 年に省革命委員会（「文革」中の地方政府）・省公（安）検（察）法（院＝裁判所）軍事管制委員会に由って「反革命現行犯」として懲役 20 年に処され，女児を産む等の獄中生活を経て '79 年に無罪釈放と為った。中国芸術研究院戯曲研究所で研究員（教授）・博士導師（指導教官）まで務め，'01 年（59 歳）に定年退職を迎え創作を始めたが，**当局の禁則に抵触して最初の 3 作とも発禁**にされた。

'04 年人民文学出版社刊の出世作『往事并不如煙』（往事は煙の様でもない）は，羅隆基・儲安平等の**民主派著名人の「反右」「文革」中の遭遇を記した為直ぐ発行が止められた**。同年の『一陣風，留下了千古絶唱――父親与馬連良』（一陣の風，千古の絶唱を留める――父親と馬連良）は，「文革」初年に迫害を受けて 65 歳で逝き '79 年に名誉が回復した京劇名優に光を当てるが，章伯鈞と同じく毛沢東に翻弄された往事は当局の神経を逆撫でし，台湾・香港版に次ぐ［武漢］長江文芸出版社の印刷済みの 15 万冊は流通し得なかった。

次の『伶人往事――写給不看戯的人看』（役者の往事――芝居を見ない人に読んで貰う書留）は，馬連良等 8 人の京劇俳優の建国前後の生き様や死に様を描く**墓誌銘的な評伝**である。中共治下での**政治的な受難や良心的な自律の様態と再現は自ずと当局の意に沿わず**，'06 年に台湾・香港版と共に出た大陸版（［長沙］湖南文芸出版社）は，'07 年全国図書発注会の初日（1.11）に中国新聞出版総署から槍玉に上げられ，副署長が通告した「'06 年違反出版書選」の「**黒名単**」**で 3 番目**に載っている。

章怡和は「公民は言論・出版・集会・結社・示威行進の自由を持つ」とする**憲法の規定**を援引して，著者は問題の有る人物だから出版できないと言う発禁理由に不服を表したが，**「中共語」の「党紀国法」**の語順通り**国は党に次ぎ憲法も党紀の下に**位置付けられる。20 年前の同時期の胡耀邦更迭と王若望・方励之・劉賓雁粛清を想起させる封殺は，'06 年の

同じ1月11日の袁偉時論文「現代化と歴史教科書」の掲載に端を発した『氷点』停刊と合せて，**強化の趨勢が止らない後鄧小平時代の思想取締**の典型事例に為る。

『氷点週刊』の『氷点時評』欄は'05年の「中国新聞名短評欄賞」再受賞の様に，'98年の発足から**歯に衣着せぬ物言いで読者・業界の好評**を博した。絶頂期の'05年には『貴方が知らないであろう台湾』（龍応台［台湾の作家］，5.25），『平型関戦役と平型関大捷（大勝利）』（徐臨江［上海交通大学大学副教授］，6.1），『我が心の中の耀邦』（胡啓立［元党中央政治局常務委員，12.7］）等は，**中共の正統史観・意識形態・政治規制の枠組みを超えた話題作が多い**が，**言論自由の先兵は年明け後に政界の寒波で一気に氷点下まで押し込まれた。**

彼の［広州］中山大学教授は子供等が使用する歴史教科書に就いて，「狼の乳を飲んで育っている」現況に驚愕したと斬る。円明園破壊事件（1856）は清朝の英雄譚でなく英・仏軍侵攻と北京陥落・敗戦賠償を招いた皇帝の愚昧な大罪であり，義和団の乱（1900）も8ヵ国聯軍に抵抗した愛国行動ではなく，殺人・放火・略奪の限りを尽した非人道的で野蛮な集団だ，と言って除ける。小泉純一郎首相の靖国神社参拝（'05.10.17）で反日示威が起きた後だけに，日本の歴史教科書と比較して**盲目的な愛国心教育の非を咎めるのは痛烈**である。

劈頭の悲嘆は**「同志們，我們是喝狼奶長大的！」（同志たち，我々は狼の乳を飲んで育ったのだ！）**という，**鄧力群**中国社会科学院副院長が同院の「5.4運動」学術討論会（'79.5）で発した**咆哮**に由来する。当時，'75年4月4日に44歳で「反革命罪」で処刑された元遼寧省委宣伝部幹事張志新の名誉回復で，5年半に亘る監禁中の殴打や看守が唆した男性囚人の強姦等の**虐待**，処刑前「反動的標語」の叫びを防ぐ為に麻酔無しで喉を切断する**蛮行**が明らかに為り，後の党の「喉舌」（宣伝機関）の長も**国民総衝撃の中で激憤を迸らせた。**

生・歿が毛沢東生誕と「文革」開始の其々200年前に当る清の画家鄭板橋（1693～1765）は，詞（長短不揃いの古典定型詞）『沁園春（詞牌［詞を唱う場合の曲調名］）・恨』で，「難道天公，還箝恨口，不許長吁一両声！」（難道天公，　還　恨みの口を箝ふさぎ，長く吁一ど両ど声をあぐるを不許か）と怨嗟を吐いた。和製漢語「箝口令」（『日本国語大辞典』に拠る初出は横山エンタツ著『漫才読本』［1936］）の2世紀前に出た「恨」への「箝口」は，**無産階級独裁の厳酷な制裁の怪力**を示す様に獣医用手術刀で粗暴に執り行われた。

4.「文革」の罪過，改革・開放の変質と「左傾修正」

NHK日本放送協会総合テレビの実録報道番組『逆転人生』の『現役社員が語る！内部通報の悪夢　上司たちとの1000日戦争』（'19.11.25放送）の話として，大手精密機器製造業者の社員濱田正晴が'07年（'60年生）に不正告発の内部通報をした後，疑惑の上司の面罵や閑職配置先の管理職の叱責を受け，人事評価が直前の116点（90点が合格水準）から下がり

続け2年後に44.4点まで落ちた。**「死ね，死ね，死ね」と呪う様な4が続く数字は張志新の命日・歿年**も同じで，中国語でも同音（si）の「死」は**文字通りの絶命**で彼女に降り掛った。

張志新は「文革」への懐疑を同僚に密告されて'68年に「幹部学校」で労働改造を強いられ，**毛沢東の個人崇拝と失政に反対する**故'69年に入獄し翌年に無期懲役に処され，「毛沢東打倒」と叫ぶ等の「大罪」で精神錯乱の要因も考慮されず極刑に変った。毛の甥遠新の主導に由る省委決定は**法の番人が機能しない無法感覚**の所産で，喉を刃物で切る口の封じ方は**戦争時代の名残と人権意識の欠如**を感じさせる。無罪判決・名誉回復（'78・79）と**「狼の乳を飲んで育った」集団への自省は，改革・開放始動（'78.12〜）期の転変に相応しい。**

濱田正晴は悪意の異動の翌'08年に報復人事に対して起訴し，1審敗訴（東京地方裁判所，'10）を経て2審勝訴（東京地方高等裁判所，'11），最高裁判所に由る勝訴確定（'12）に至り，名誉回復訴訟の和解（'16）をも勝ち取った。彼が愛着を持ち今や要職に就いているオリンパス社は放送前の10月12日に設立100周年を迎えたが，**中共史観で現代史の起点と為る同じ1919年の「5.4運動」の科学・民主尊重の信念とは裏腹に，党の牛耳る裁判所で是非が客観的に決り難い様な党治国家に於いては酷い圧政が多々有る。**

通報対象への身元漏洩は法令遵守室の電子郵便物誤送信の所為であるが，内部通報者の秘密を守り不利益を生じさせぬ**制度の未履行は罪が深い**。建国後に周恩来の「過去の問題を追及しない。香港での債務の返済は国家が肩代りする。生活の優遇措置を取る」と約束されて大陸に移った馬連良は，臨終前に「彼等は言った事を何故守ってくれなかったか」と悔しげに言った。章伯鈞等も**毛沢東の「言う者には罪が無し」を信じて中共へ苦言を呈したが，**対を成す**「聞く者は戒めとする」の謙虚は整風から10週間も保てなかった。**

オリンパスの創業時の社名「高千穂製作所」は宮崎・鹿児島の県境に在る高千穂峰に由来し，神々が集う山とする日本神話に因んで希臘神話中の諸神在住の国内最高峰を製品名にし，'49年にオリンパス光学工業株式会社に改称して東京証券取引所に上場した。'45年5月の米軍空襲に由る本社・本社工場焼失の**災難を乗り越えて，日本の高度成長の変貌**を示す様に医療用光学機器・顕微鏡分野の**世界最大手**と成ったが，'11年に巨額損失計上見送りと歴代経営陣の隠蔽が発覚し，**日本の企業統治の不透明**の事例として内外で注目された。

儒教の始祖孔子が言う「過則勿憚改」（過ちては則ち改むるを憚ること勿れ）の様に，不祥事で破産の危機に瀕したオリンパスは再建の為に**膿を出して体制を刷新**した。濱田正晴に1100万円の和解金を支払い和解の内容を全社員に周知させた事と共に，相応の職位を与え公共放送に由る**陰湿な制裁の実態公開を了解したのも懐の深さ**を思わせる。**中国思想の祖型を為す『易経』の「君子豹変」（君子は豹変す）**の原義の通り，過ちが有れば速やかにそれを改め鮮やかに面目を一新するという**君子の変容**を示した。

この4字熟語は日本では俗に考え方や態度が急変する事に使われるが，**中共建国後27年**

間君臨し続けた「神」はスターリンの死後に悪い豹変を見せた。'53 年 9 月に党の農民政策に異論を唱えた梁漱溟（無党派思想家・社会活動家）に対し，中央人民政府委員会の席上で「反動的」と断罪し，口論の際に相手が要請した**雅量の表示も断固拒否**した。'57 年の整風で**党内外から意見を求めて置いてそれ「反右」粛清の材料とした背信行為**も，自ら「陰謀」を捩った造語の**「陽謀」（堂堂たる謀略）で開き直った変質**である。

「反右派闘争」を仕切った鄧小平は '86 年に翌年の党大会で引退すると観測気球を揚げた後，終身制廃止の為に賛同し自分も一緒に勇退すると無邪気に言った胡耀邦を斬り棄てた。旧時代の「狼の乳」への嫌悪を表した鄧力群も中宣部長在任中（'82～85）保守派と化し，胡下ろしの急先鋒と為り一時 **'87 体制樹立の功臣**として後任総書記候補に担ぎ出された。鄧小平の**最大の豹変**は軍委主席の強権で掌を返す様に新党首趙紫陽を解任し，**「人民の子弟兵は人民を撃たない」鉄則を破って民主化運動への武力鎮圧を強行した事**である。

鄧力群は胡耀邦失脚の 10 ヵ月後に党大会の中央委員会選挙で落選したが，'87 年体制の歴代の中宣部長には胡の様な改革派の再来は遂に無かった。'49 年に社名変更・東証上場，'11 年に転落したオリンパスの浮沈と重なる様に，'49 年に政権が樹立した中共の創設 90 周年の日（'11.7.23）に浙江温州市で高速鉄道追突・脱線事故が起きた。40 人死亡の惨事への大衆の義憤は「網民」・報道媒体の言論自由化を促したが，**当局の糊塗と中宣部の制止に由って改革・開放後の高度成長は経済・政治の両面で終焉を迎えた**。

「反右派闘争」では 55 万人余りの処罰対象の他，**批判や巻き添えを食った関係者・親族は数百万人**に上った。**「大躍進」の犠牲者には栄養失調に由る「非正常死亡」が約 3 千万人**と為り，**「文革」の被害者は '68 年 5 月 25 日～69 年下半期の「清理階級隊伍」（階級隊列の浄化）だけでも億を超し，数百万件の冤罪に由る死者も百万を上回った。毛沢東時代の 3 大災難**は「文革」後の朝野の糾弾を受け，再演を許さぬ意志は '81 年の歴史決議の様に中央も有するだけに，袁偉時が訝った**「狼の乳」給食の旧態依然は聞き捨てに為らない**。

『上海遥かなり』の登場人物の馬天水（汪精衛の替え玉）は，「文革」時代の上海で「4 人組」中の張春橋・王洪文・姚文元に次ぐ No.4 の氏名を用いている。伴野朗は出世作の長篇『五十万年の死角』（第 22 回江戸川乱歩賞［'76］受賞）でも，日米開戦直後の北京原人化石骨争奪で日本・国民党の諜報機関と暗闘する中共指導者を実名で書いた。**歴史を虚構する推理小説の作法**に関する選考者の指摘を受けて，講談社に由る出版では「国志宏」に改めたが，造詣の深い上海を複数の小説・随筆の舞台とした彼は又実名使用の**衝動に駆られた**事か。

馬天水は「文革」後の初党大会（第 11 回，'77）の政治（活動）報告で「4 人組」の「死党」（死を賭す徒党）と断罪され，党籍剥奪後に発狂の為「4 人組」及び残党に対する裁判を逃れ精神病院で死んだ。其々毛沢東生誕の 17 年後と習近平党首就任の 24 年前に当る生・卒（'10.12.26，88.11.15）が象徴する様に，**党史・政界に於いて教訓・示唆を遺した**人物である。

彼は鄧小平から「4 人組」と距離を置くよう忠告された事（'75.6.12）を密告し，**毛の腹心集団の歓心を買う代償**として「文革」後の鄧の再起で「落馬」（失脚）した。

作中の '89 年「6.4」前の上海市長「江伯均」（Jiāng Bójūn）は，奇妙にも 32 年前の筆頭「大右派」章伯鈞（Zhāng Bójūn）と重なるが，副市長「陳沢」の名前と合せ考えなくても実際の江沢民を連想させる意図が明白である。日本占領下の傀儡政権を建てた汪精衛の 4 年後の於名古屋病死（'44.11.10）と違う新説を打ち出し，江は若い頃この漢奸（売国賊）に仕えた個人史の汚点に怯え証拠の入手・破棄を企てる，という**大胆不敵の設定**で時の**党首を敵に回して禁忌に挑む**が，**平和国家の新憲法で保障された表現の自由はやはり本物**である。

小説家小林久三は敗戦後の映画界の暗部を衝く推理長篇『冬列島』（角川書店，'84）で，国民的な女優「原知恵子」が占領軍総司令官の愛人を務めたと書いている。小説家島田雅彦の「無限カノン」長篇 3 部作中の『彗星の住人』（新潮社，'00）でも，同じ面影を感じさせる女優「松原妙子」は政財界から献上されたという話を仄めかす。2 作目の『美しい魂』（'03）では更に平成の皇太子妃選びを題材に**禁断**の恋沙汰を描くが，中国では其処まで踏み込めば**名誉毀損に由る訴訟や投獄**を招きかねず，**禁制・断絶の処罰**に為っても仕方が無い。

江沢民の実父世俊は汪精衛政権の高官であると電脳網上で暴いた歴史家呂加平は，69 歳時に江青自殺 10 周年の前日（'11.5.13）に国家政権転覆煽動罪で懲役 10 年に処された。江は不都合な出自への後ろ目痛さから反日路線に走ったと見る向きが日本に有るが，胡錦涛・習近平時代にも引き継がれて来た**愛国主義教育強化の党是は鄧小平に遡る**。彼は胡耀邦失脚の 13 日後に政権を奪取したウガンダ大統領ムセベニとの会見（'89.3.23）で，改革・開放 10 年来の最大の失敗は教育に在り，思想・政治工作の弱化が大問題だと述べた。

江沢民党首就任 4 年後の『藍風箏』の上映と監督の映画制作に対する禁止は，胡錦涛政権の同時期の『伶人往事』の流通・章怡和の新作出版に対する禁止と対を成す。胡は同じ共青団中央第 1 書記経験者の大先輩胡耀邦をその失脚後も慕い続けたが，鄧小平の指名で江沢民の後継者と為った経緯の様に **'87 年体制の主流派**である。江の『世界経済導報』封殺と同じく**鄧の信頼を得た決め手の「政績」**は，西藏自治区首長在任中の**建国後初の戒厳令**（'89.3.8）を首府で敷き，自ら兜帽を被って**拉薩の街頭で軍の「暴徒」鎮圧に加わった**事である。

鄧小平は馬天水に**古参幹部の良識を期待**して「4 人組」からの切り崩しを図ったが，中・青年の造反派と比べて余り「狼の乳」に毒されていないという判断が甘く，**私利の為に大義を顧みぬ相手の裏切り**で復帰後の失敗を喫し自らの再失脚を招いた。「文革」の被害者は「文革」への肯定が有り得ないと断じる固定観念は当てに為らず，現に **'17 年体制は '57 年体制への回帰が顕著**で，一部の中学歴史教科書では「文革」は「歴史の探索」と中性化され，毛沢東が誤って発動したとする鄧時代の公式見解中の「錯誤地」が削除された。

妻高阜と『文化大革命十年史』（天津人民出版社，'86）を共著した厳家祺は，3 年後に民

主化運動への支持を追及され仏蘭西に亡命せざるを得なかった。同じ生年月日（'42.12.25）の胡錦涛の治下では『氷点週刊』は異端論説で停刊命令を受け（'06.1.24），復刊（3.1）時に編集長が更迭された。呂加平有罪判決の2年後（'13.5.13）中央辦公庁（事務総局）**「7不講」（［大学の授業での］7つの「語る」な）指令**の様に，**習近平執政の第1期（'12.11.15より5年）には2人の前任を凌ぐ思想・言論抑圧が常態化した。**

「普遍的価値観・報道の自由・公民社会・公民の権利・党の歴史上の誤り・権貴資産階級・司法の独立」の「不要講」（語っては行けない）は，**改革・開放の駆動力を為した「思想の解放」に逆行する。**党大会の開・閉幕式で能く演奏・斉唱される『国際歌』（［仏］ポティエ作詞，ドジェテール作曲）の漢訳歌詞に，「譲思想衝破牢籠」（思想が牢獄を衝き破るよう）と有る。**鄧小平時代の経済・思想の自由化は籠の中の鳥の如く範囲を制限されていたが，増々窮屈になって行けば「鳥籠」は牢屋も含む「牢籠」と化す恐れも出て来る。**

世界的に普及した彼の不朽の革命歌は巴里革命自治政権（1871.3.18～5.28）の成員が創作し，50年後に結成した中共の**第2代党首**（'27.8～28.7）**瞿秋白が最初に翻訳**し，第3回党大会（'23.6.12～20，広州）で斉唱の前例を作った。習近平は党首再任の直後に政治局常委全員を率いて第1回党大会会場址（上海・浙江嘉興）詣でをし，入党誓詞を読み上げる儀式で初心を忘れぬ意志を顕示したが，**『国際歌』で謳われる国際共産主義運動の普遍的な情念と中共の草創期の理想は，建党100年が目前に為る中国では未だ実現していない。**

第2段落の冒頭の「従来就没有什麽救世主，也不靠神仙皇帝！」（救世主なぞ元より無く，神・皇帝も頼りに為らない）は，**スターリン・毛沢東時代の諸悪の根源と言える個人崇拝を否定する。**鄧小平時代の初党大会（第12回，'82.9.1～11）で採択された**改正規約は如何なる形式の個人崇拝をも禁ずる**が，'17年体制の出現を象徴する新規約は**毛沢東と並ぶ習近平**の「思想」を盛り込め，習は側近から**毛の後継者華国鋒並み**の「英明な領袖」と称揚され，**毛の存命中にも無い現役党首の思想を研究する機構の続出で神格化が進んだ。**

件の歌詞の前の「我們要奪回労働果実」（我々は労働の果実を奪還する）は，『伶人往事』発禁の理由の一端を思わせる。演技が盗まれないよう極度に警戒した程硯秋は知的財産権の保護を意識した最初の人物だとした上で，社会主義の旗幟の下で政府は公私合営（民族資本主義の商工業に対する社会主義改造，'53～56）を通じて，私営企業に対する吸収・合併等で漢方薬の老舗の秘方を明かさせる等，他人の智恵や財産を堂々と略奪できた，と著者は**国家の恣意的な搾取の絡繰を暴いた**が，**毛沢東・中共の「功績」への批判は到底許されない。**

「狼の乳」を含む教科書に対する袁偉時の指弾は「歴史虚無主義」の謗りを免れないが，**改革・開放路線と乖離した'17体制の動向には言わば「左傾修正主義」が見られる。**鄧小平が引退の9ヵ月前に教育の失敗を伝えたムセベニ中将は**終身制への執心**を持ち，'96年に初の直接選挙で大統領に当選し5年後に再選後，3選禁止規定の廃止で'06・11・16年に再

選を続け ’21 年（77 歳）の 6 選も視野に入った。**毛沢東が定めた国家主席連続 3 選の禁則も憲法改正（’18.3.11）で撤廃され，習近平が任期無制限の特例首領に成る道が整備された。**

5.「普世価値」の追放と「定於一尊」の「学“習”」

中国社会科学院語言研究所辞典編輯室編『現代漢語詞典』（商務印書館）は，改革・開放始動期の初版（’78.12）から**時代・当局の要請に沿って**改訂を重ねて来た。胡錦涌政権末期の第 6 版（’12.6）では【普世】が追加され，❶（名詞）「普天下；挙世：～歓騰。」（世の中普く。世を挙げて。「満天下喜びに沸く」），❷（属性詞）「世界上普遍認同的：～価値｜～倫理。」（世界中で普遍的に認められている。「普遍的価値観」「普遍的倫理」）と為るが，第 7 版（16.9）では**反普遍的価値観に傾く「7 不講」を体現**して**中性的な❶まで根絶**された。

『新約聖書・ヨネハの福音書』は「初めに言有りき。言は神と共に在り，言は神也き」と説くが，『現代漢語詞典』の現行版の数百項目 / 語義の増設に**「“習近平新時代”語」が多い**事は，**「言→神」「言＝神」と通じる意識誘導や「造神」（神格化）**の傾向が透けて見える。追加の【大大】（dà・da，口語，名詞）は「伯父」（父の兄），「年長（普通は父親より年上）の男子の尊称」の両義で，立項の**契機は新領袖を「習大大」（習伯父さん）の敬称・愛称で呼ぶ風潮**に他ならず，**父・兄を敬う伝統に由る個人尊崇の色彩が露骨な程に濃い。**

国内最大規模の『漢語大詞典』（漢語大詞典編輯委員会・漢語大詞典編纂処編，羅竹風主編，12 巻＋索引 1 冊，上海辞書出版社，’86～94）の同項は，出典付きの「方言。父親。」の意の他「亦称祖父」（亦祖父を称す）と有る。日本の『中国語大辞典』（大東文化大学中国語大辞典編纂室編，主幹＝香坂順一，角川書店，’94）の語釈は，「㊀①父親．②父の兄（下略）」で，声調が異なる 2 種類の読み方を併記した【大大】（dàdà 又 dàda）は祖父の意で，倶に呼び掛けに用いるが，**叔父以上の尊い存在をも指す**ので**習の呼称として意味深**である。

『漢語大詞典』増訂版（‘10）にも無い項として，第 7 版に【妄議】（「動胡乱議論；乱説：説話要有根拠，不得～。」［動妄りに議論する。出鱈目に言う。「話す時には根拠が必要で，出鱈目に言っては行けない」］）が加わった。中共「紀律処分条例」（’15.10.21）の**禁則に「妄議中央大政方針」（中央の大政方針を妄りに論う）が設けられた**事への対応であるが，**党籍剥奪・公職追放の厳罰も有り得る罪名は ’57・87 体制には無かった**。「妄加議論 / 評論」（妄りに議論 / 評論を加える）の略は，斯うして**「学“習”」（習［近平］を学ぶ）新語**と為った。

新設の【定於一尊】（1 人の尊者に由って定まる）の説明は，「指思想、学術、道徳等以一個最高権威的人作為唯一標準。（語本《史記・秦始皇本紀》）。」（思想・学術・道徳等が 1 人の最高権威者を以て唯一の基準と為す事を指す。語源は『史記・秦始皇本紀』）である。習近平時代に盛んに唱えられているこの成語は，秦の始皇帝の中国統一（紀元前 ’221）の 2 200

年後の**改革・開放の「実践是検験真理的唯一標準」（実践は真理を検証する唯一の基準である）論とは正反対**で，**封建王朝崩壊（'11）の100年後の「神仙・皇帝」復活を懸念させる**。

毛沢東の指名で党中央・中央軍委主席兼総理と為った華国鋒は**守旧・自らの神格化**の為，翌々年の11期3中全会で改革派に抵抗され更に2年余り後に全職辞任に追い込まれた。**転換期の'78年**に中央組織部長胡耀邦は率先して**華の'57年体制堅持に矛を立て**，『光明日報』「特約評論員」名義の論説「実践是検験真理的唯一標準」を発表させ（5.11），故主席の決定・指示は凡て維持・遵守す当しとする**「両個凡是」理論の打破**を突破口として，**「反右闘争」以来の冤罪の是正**を促進し延いては**「文革」否定の道筋**を作った。

思想解放運動の結果「思想が牢獄を衝き破る」だけでなく，毛沢東時代から拘禁されて来た**多くの政治運動被害者も牢獄から解放**された。'79年の「5.4運動」記念学術討論会で基調講演『3回の偉大な思想運動』を行った周揚（中国社会科学院副院長・同院研究生院［大学院］院長）は，中宣部副部長・文化部次官在任中の失脚後'67～75年に秦城監獄に囚われ，その為**「文芸沙皇」として迫害に加担した多くの冤罪に就いて懺悔・謝罪**したが，最初・最大の被害を受けた胡風は同監獄で無期懲役服役中の'79年に到頭釈放された。

習近平の父親仲勳は中宣部長（'52～54）を経て中央委員候補（'45～）から委員に昇格し（'56），政務院/国務院秘書長（内閣官房長官）に就任し副総理に昇任した（'53，59）が，**毛沢東が'57年体制の巻き返しを図る8期10中全会**（'62.9.24～27）**で「反党集団首領」とされ**，都落ちの左遷後「文革」中軍の施設に拘禁され，偶に見舞いが許された息子たちの顔も識別できなった。'78年に復帰した彼は**胡耀邦降ろしの指導部査問会で唯一不正常な行り方に抗議**したが，**'81年体制が自壊し'87年体制に取って代えられる展開**を阻めなかった。

'57年体制形成の22年後の'78年変革は党・国を正常に戻したが，濁流の攪乱や逆流の強襲で11年後に「6.4」惨劇が起った。'26年「3.18」の学生等反軍閥・反帝示威が北京の執政府警備隊の乱射で47人死に，魯迅は憤って民国（'12.1.1成立）以来最も暗黒な1日とした。**大陸時代の蔣介石治下**（'27.4～49.9）**でも無い大規模無差別殺傷**は数百人の死者を出したが，逝去（'36.10.19，55歳）1周年の記念行事で毛沢東が「中国第一等の聖人」と称えた魯迅は，黄泉の下で知ったなら同様に**人民共和国以来最も暗黒な1日**と感じようか。

毛沢東は'57年7月7日に上海で科学・教育・文芸・商工会の代表と会見した時，魯迅が若し今生きているならどう為りますかと羅稷南（翻訳家）に訊かれて，監獄に入って書き続けるか，一言も話さないだろうと答えた。盧溝橋事変・日中戦争勃発20周年の当日は「反右派闘争」の30日目で，毛は「右派」が多い地で**国民党と同じ投獄も辞さぬ抑圧の決意**を明かした。実際にも作家王実味は延安整風（'42～45）で高官の特権等を批判した為，「反党」等の罪名で党から除名され監禁の末'47年7月1日に斬首刑に処された（41歳）。

毛沢東は'58年3月17日に中央工作会議（成都）で**個人崇拝を擁護**し，真理を持つマル

クス＝エンゲルス＝レーニン＝スターリンも，班の班長（**指導者集団の責任者**）も**崇拝の対象とす当し**と唱えた。彼はソ連共産党第20回代表大会でフルシチョフ第1書記が行った**スターリン批判**（'56.2.25）**に対して居直り**，5月8日に第8回党大会第2回会議で更に放言した。曰く，我々は確かに秦の始皇帝の様な独裁者で，彼は焚書坑儒で468人の儒者を生き埋めにし，我々は（建国初期の「反革命粛清」等で）100倍の4万6千人を殺った，と。

秦の始皇帝は前213年に民間所蔵の医薬・農業・卜筮等の実用書以外の本を全て集めて焼却し，数百人の儒者を捕らえて翌年に咸陽（今の陝西省内）で坑に埋めて殺害した。**「当代の秦の始皇帝」が起した「文革」も焚書坑儒**の様相を呈し，鄭板橋の『沁園春･恨』の「焚硯焼書，推琴裂画，毀尽文章抹尽名。」（硯焚き書焼き，琴推き画裂き，文章毀ち尽し名をば抹い尽せ）は，紅衛兵が「破四旧」（旧い思想・文化・風俗・習慣を打破する）の名義で知識人の蔵書を灰燼に帰す光景の形容にも用い得る。

秦の始皇帝の中国統一の2 200年後に当る'78年の思想解放・冤罪是正は奇妙な巡り合せであるが，毛沢東の個人崇拝肯定発言の60年後の翌日に習近平が初の任期制限無き国家主席と成った事は，**古今の「始皇帝」の「定於一尊」の独裁統治・家父長制の伝統の根強さ**を窺わせる。毛が'62年の失政反省後に階級闘争の鼓動で'57年体制を梃入れしたのと反転する様に，鄧小平は「6.4」後の停滞を打開する為に'92年の南方視察で改革・開放を再起動したが，毛と同じ「南巡」の称は**皇帝巡幸の名残**が有り**「終皇帝」**（造語）**に似合う**。

毛沢東は8期10中全会閉幕の翌々日（'62.9.29）の外賓会見で江青を初めて表舞台に出し，後の**「文革旗手」が「禍匣」（パンドラの盒）から出る第1歩**と為った。100年前の同月に普魯西首相に就任したビスマルクは30日の議会演説で，独逸統一を達成する物は政治家の演説や多数決ではなく鉄と血（兵器･兵力）のみと宣言した。**毛の「鉄砲から政権が生れる」説は軍備増強を唱える「鉄血宰相」の主張と通じ，彼も鄧小平も習近平も軍委主席の戦力指揮権を権力維持の基礎・中核と為している**。

毛沢東は鄧小平と初対面の'27年「8.7会議」でそれを言ったが，蒋介石の上海「4.12」反共政変後の危局下の臨時中央緊急会議（湖北省都武漢）は，初代党首陳独秀の解任と武装闘争路線を決めた。日中戦争勃発まで続く国共内戦は無数の死滅を生み，其処から**'27年体制→'57年体制→'87年体制の系譜**が生じる。**国民党は'87年に38年来の台湾戒厳令を解き民主化へ向ったが，中共の'87年体制は趙紫陽元総書記を病死**（'05.1.17，85歳）**まで軟禁し**，'36年「12.12」西安事変後に蒋の報復で軟禁された**張学良の生前解除**（'61）**に及ばない**。

「氷凍三尺，非一日之寒」（3尺の氷は，1日の寒さで為らず）という中国の成句の通り，**約30年毎に現れた蒋介石・毛沢東・鄧小平・習近平の体制・時代は長い間の蓄積の所産**である。戦国時代の思想家荀子の「青，取之於藍，而青於藍」（青は，之を藍より取りて，藍よりも青く）の下に，「氷，水為之，而寒於水」（氷は，水之を為して，水よりも寒し）

と続く。**出藍の誉れと対を成す結氷の厳酷**は数世代の変容に於いて色々な形で見られ，**古来の歴史に満ちた戦乱等の内憂外患と殺伐な緊張感が根源に有る。**

『国際歌』の第1段落の漢訳歌詞に有る**「要為真理而闘争」（真理の為に闘おう）**は，**改革派が守旧派を論破する'78年の「真理標（基）準大討論」**で体現された。口火を切った論説の原作者周福明（南京大学哲学学部講師［後に教授］）は，'82年に江蘇省委宣伝部副部長に抜擢され，'18年に40年来の「改革開放先鋒100人」（党中央・国務院授与の名誉称号）に選ばれたが，習近平時代の大学教員は**「7不講」の禁制と学生に由る監視・密告の新制度**に由って，**思想の「禁区」（立入禁止領域）への挑戦**はどれだけ出来ようか。

建国60周年記念の為の党中央宣伝部・組織部等11機構共催の「新中国成立の為に突出した貢献をした英雄模範人物100傑・新中国成立以来中国を感動させた人物100傑」顕彰で，新聞添付投票用紙・電脳網・携帯電話を用いた1億弱の投票と選考委員会の審議に由って'09年9月10日に人選が決った。**当局主導の「国民総選挙」は「革命伝統教育」の成果を反映**して，毛沢東の実弟沢民・従弟沢覃・元妻楊開慧と長男岸英は其々2部門に入ったが，江沢民の叔父・養父上青の入選は知名度を勘案すれば**人為的な過大評価**が感じられる。

建党成員や瞿秋白・張学良・魯迅等が名を連なる建国功労者の錚錚たる面面には，賀龍副総理・軍委副主席・元帥の姉賀英（遊撃隊隊長，'33年に47歳で戦死）も選ばれた。彼女は建国10周年記念歌劇『洪湖赤衛隊』（湖北省実験歌劇団）の主人公韓英の原型とされ（「賀・韓」の発音 Hè･Hán が近似），**「紅色（革命的）経典」作品の衰えない人気が要因**に有ろう。毛沢東も賀龍も**一族に戦没者が多く「紅色家族」**に属するが，出自で実父より烈士である叔/養父を突出させた江沢民は，党の**「紅」高「白」（非/反革命）低の価値観**に沿う。

江上青の入選は**前党首の「光輝（輝かしい）形象」を維持する当局の意志表示**の様に思えるが，直後の呂加平の**「醜（い歴）史」暴露は「蚍蜉撼樹」（蚍蜉大樹を撼かす）**に他ならない。唐の文学者韓愈は五言古詩「調張籍」（張籍を調る）の「蚍蜉撼大樹，可笑不自量！」（蚍蜉大樹を撼かす，笑う可し自ら量らざるを）で，身分や力量を弁えず無闇に強大な物を動かそうとする愚挙を嘲笑した。大きな蟻が巨木を揺さぶる事は当然ながら永久に出来ないが，**義勇に駆られて体制・大勢に挑む「蟻民」（蟻の様な弱小平民）は後を絶たない。**

毛沢東は詞『満江紅・和郭沫若同志（郭沫若同志に和す）』（'63.1.9）の前半で，「小小寰球，有幾個蒼蠅碰壁。嗡嗡叫，幾声凄厲，幾声抽泣。螞蟻緣槐誇大国，蚍蜉撼樹談何易。正西風落破下長安，飛鳴鏑。」（小さき小さき寰球に，幾個かの蒼蠅有りて壁に碰つ。嗡嗡と叫き，幾声か凄厲しく，幾声か抽泣く。螞蟻槐に縁りて大国を誇るとも，蚍蜉が樹を撼る談何ぞ易しき。正に西風落葉を長安に下らすとき，鳴鏑飛ぶ）と，**米・ソを頭とする帝国主義・修正主義への敵愾心・蔑視**を表し，**地球規模の視野と世界制覇の野望**を窺わせる。

鳴鏑（先に鏑を付け，空中を飛ぶ時に鏑の孔に風が入って響きを発する鏑矢）は，漢

の時代に匈奴の冒頓が発明したと言われる。彼は「今日から俺が射たものを続けて射よ。従わぬ者は斬る」と命じ，先ず良馬を射，遠慮した者を斬り，次に愛妾を射，恐れた者を斬った。更に狩猟で父頭曼の愛馬を射た処，皆追随したが，今度は猟の際に父を射，父を殺して単于の位に就いた。毛沢東は**西風に散る落葉を射る鳴鏑で反動派を撃つ革命的な言説に譬えたが，君主と成る為に父殺しも辞さぬ「蛮族」首領の蛮性の由来は後味が悪い。**

6. 貧困の恐懼，大飢饉の地獄と「紅色恐怖」の戦慄

ニクソン米大統領は中国政府主催の招宴（'72.2.21）に於ける演説で，領袖への表敬を兼ねて後半の「多少事，従来急；天地転，光陰迫。一万年太久，只争朝夕。」（多少の事は，従来急にして；天地転り，光陰迫る。一万年は太に久しければ，只朝夕を争わん）を引いた。続く「四海翻騰雲水怒，五洲震盪風雷激。」（四海翻騰雲水怒り，五洲震盪風雷激し）は，**中国の4方の海と世界の5大陸への制覇**を思わせ，最後の「要掃除一切害人虫，全無敵。」（掃除するを要す一切の人を害する虫，全て敵無し）は，**「文革」で粛清の合言葉**に為った。

建国70周年記念の為の「新中国最美（最も美しい）奮闘者」顕彰（党中央宣伝部・組織部・統一戦線工作部等9機構共催，'19.9.25）で，処刑44年後の張志新は300人/組の1員に選ばれた。彼女は横に臥せない特小独房に閉じ込められた末に精神に異常を来し，自分の屎尿の上に坐り自ら月経の血を付けた饅頭を食べる**無残な姿は「最 惨」が相応しい**。「最美」の美化は立派な精神への礼賛だとしても，**死罪に該当した「打倒毛沢東！」の雄叫びと類似の時の指導者への攻撃は，「習近平新時代」でも従来通り断固許されない。**

'60年7月26日，湖南の若い女性労働者劉桂陽が中南海の北門で，「人民公社を消滅せよ！打倒毛沢東！彭徳懐万歳！」等の標語を掲げて逮捕された。人民公社の失敗で**叔父一家が餓死した事への抗議は「反革命罪」**で懲役5年に処され，**農村の惨状に理解・同情が有る劉少奇国家主席の指示で無罪放免**と為り，劉の失脚後'69年に判決維持・10年に加重の再審結果で収監され，'79年に再度の無罪判決が下された。**極刑を覚悟で最高指導部所在地の前で公然と「反動標語」を示す事は建国後初で，数億人総飢餓の深刻さが表面化した。**

毛沢東は'69年5月31日～6月26日の武漢滞在中に湖北の農業に関心を示し，「飯」の字の「食」が欠けると「反」が残る事の様に**民衆は飯が無いと造反する**と語った。彼は『漢書・酈食其伝』の「王以民為天，民以食為天」（王は民を以て天と為し，民は食を以て天と為す）に同感し，『《湘江評論》創刊宣言』（'19.5.14）で「吃飯」（飯を食う事）を世界の最大の問題とした。彼の治下では**王が天と為す民の天と為す食を保障できなかったから造反者が現れ**，被災が相対的に軽い湖南よりも**激甚の地域では人が人を食う惨事**さえ続出した。

魯迅は**中国現代文学の起点**と為る短篇小説『**狂人日記**』（**'18**）で，被害妄想患者の日記

の形で**封建的な社会秩序や儒教的な道徳規範の実体**を暴く。歴史書の「仁義道徳」の行間に「吃人」（食人）の2字が見えるとは，**中国の数千年の暗部や裏原理**に対する**悲痛な喝破**で点睛を為す。その人食いは**大飢饉や戦争の極限状況下の人が人を食う蛮行**の他，**戦争や政争の「肉挽き機」じみた人間破壊・肉体抹消**にも当て嵌る。「狼子村」や狼の親類の醜くて恐ろしい形相も出るが，**「狼の乳を飲んで育った世代」の被害は毛沢東時代に限らない。**

3尺も厚い氷は1日の寒さで為らない意に近い西洋の諺は「羅馬は1日にして成らず」で，仏蘭西の詩人ラ・フォンテーヌ著『寓話集』（1668）の「全ての道は羅馬に通ず」も，羅馬帝国の全盛期の**西洋の中心と為る都市の成熟・繁栄**を思わせる。羅馬は前753年に希臘神話の英雄アイネアスの子孫であるロームルスとレムスが建てたが，場所選定を巡る争いで双子の両者は決闘し後者（弟）が命を落した。2人が狼の乳を飲む情景は市章と為った事は虚構にしても中国では無いが，**中国の「狼乳給食」利用者は被害しか受けていない。**

中国で**は親子や兄弟の間の王位争奪等が迫害・殺害まで発展する例は幾らでも有り，**魏の武帝曹操病没（220，65歳）後の息子丕（33）が弟植（28）の命を狙う話が有名である。相手の文才を嫉妬した彼は7歩歩む間に詩を1首吟じるよう命じ，出来れば死罪を許すが出来なければ容赦無く厳重に処罰すると警告した。牛が2頭土塀の下で争い1頭が井戸に落ち込んで死ぬ場面を描いた絵を題にし，「二牛墻の下に闘い，一牛井に墜ちて死す」の類の表現を使うなと要求したが，無理難題が容易く熟されたから**更に苛刻な制限**を追加した。

今度は「兄弟」の題でその2字を用いず声に応じて詠むようと言い，曹植は即座に1首を口遊んだ。「煮豆燃豆萁，豆在釜中泣。本是同根生，相煎何太急！」（豆を煮るに豆萁を燃やし，豆は釜中に在りて泣く。本是同じき根より生ぜしに，相煎る何ぞ太だ急なる！）曹丕が覚えず涙を落した処へ母親が奥から出て来て，兄が弟に酷く当る事を責めたが，丕は国法を蔑ろに出来ないとして植を降格した。命を残した処遇は**伝説上の王政羅馬の初代王の弟殺しより益し**であるが，**温情と非情の差は狼の乳を飲む経験の有無と関係が有ろうか。**

'41年1月6～14日に中共の新4軍が安徽省南部で国民党軍に攻撃され重大な損害を蒙り，周恩来は17日に中共南方局指導下の『新華日報』の翌日刊に載せる題言として，「為江南死国難者死誌哀」（江南の国難に死せる者の為に哀しみを誌す），「千古奇冤，江南一葉；同室操戈，相煎何急！」（千古の奇冤，江南の一葉。同室に戈を操り，相煎る何ぞ急なる！）と書いた。**同盟軍の奇襲**に由り葉挺軍長が**空前の冤罪**で虜と為った皖南事変を悔む詩は，曹植が**存亡の瀬戸際**で同母実兄に逼られて作った**嘆願の名作と二重写し**に為る。

揮毫の46年後の前日に失脚した**胡耀邦**も64年後の同日に死去した**趙紫陽**も，**「同室操戈」の内争で倒された「奇冤」（稀代の冤罪）の犠牲者**である。周恩来は国民政府軍政部長への電話で「君，何応欽は中華民族の千古の罪人だ」と抗議したが，**同志・同胞が相煎る粛清・内戦と冤罪・死滅に満ちた「文革」の大罪も「千古」級**である。**「反右派闘争」**は「文革」

後の「鳴冤叫屈」（無実を訴える）の通り**殆ど「奇冤」**であるが，**「大躍進」は中国史上空前絶後の非戦時下の数千万人餓死を招き被害の規模で「文革」と同罪に近い**。

劉桂陽の叔父一家は**毛沢東の経済冒進の泡沫崩壊の末1粒の飯にも有り着けず，観音土を採って空腹を凌ぐ**日が暫く続いた。『日本国語大辞典』でも不採録と為る「観音土」は，『現代漢語詞典』で「一種白色的黏土。」（一種の白い粘土）と説明され，同義語の「観音粉」の項も有るが，無論「可食用」（食用可能）の附記が無い。日本では備前焼（岡山県備前市伊部一帯で12世紀頃から作られる焼き締めの炻器）に使う最高の田土として知られるが，中国では**飢饉中「非常食」の草根・樹皮等も食い尽された後の「悲情食」**（造語）に入る。

毛沢東は大飢饉開始の10年後に当る「文革」中盤入りの例の武漢滞在で，人間は飯を食い服を着る者だと言って湖北の食糧・綿花生産を期待した。『洪湖赤衛隊』にも有る「魚米之郷」（魚・米の産地）の称で湖北を讃え，熟語の「湖広熟，天下足」（湖南・湖北［穀物が］熟すれば，天下足る）も口にした。湖北に隣接する湖南も**農業が強みなのに3年大飢饉では不調に陥り，餓死者が其々7桁に上る河南・安徽・山東・四川・甘粛5省の被害緩和に寄与できなかった**。

湖南は第8期中央委員会の32%もの成員の出身地であるが，**要人輩出の甲斐も無く同省人の毛・劉少奇・賀龍等は顔に泥を塗られた**。故郷が毛・劉と至近距離に在る**彭徳懐**副総理兼国防相・軍委副主席は，**「大躍進」批判の為**'59年8月の中央全会で**失脚**した。彼に「万歳」を捧げた劉桂陽は手錠を掛けられた儘に**地獄絵図の様な惨状**を訴え，叔父等6人は気力もズボンも無い所為で山へ観音土を採りに行けず，彼女が持参した高価販売の餅幹を合計3㌔も一気に食べた処，長期断食後の大量飲食の反動で全員死んだ，と言う。

その前月に羅馬尼亜共産党第3回代表大会と並行して，ブカレストで社会主義諸国共産党・労働党代表会議が開催された。22日にフルシチョフは中共代表団（団長＝彭真）に対し，君等は「大躍進」を行るのに中国人は大変貧しくズボンも無いと嘲笑った。ズボンも無い云々は**毛沢東の自尊心を傷付け3年後の「鳴鏑」（対ソ論戦）の遠因**に為ったが，当局の弁解と違って**ズボンの無い人が居る家庭は各地に有った**。建国10年後も**恥部の隠せない貧困層が消えないのは国の恥**で，**革命の意義や政権の正当性が問われる深刻な問題**である。

毛沢東は『論十大関係』（10大関係を論ず。'56.4.25）の中で，工業・農業の未発達と科学・文化の低水準に現れた中国の「窮・白」（窮乏・空白）を認め，『介紹一個合作社』（ある合作社を紹介する。'58.4.15）で2つの欠点を利点とし，「窮則思変」（窮乏すれば変革を思う［望む］）から奮闘・革命が促され，白紙には最も新しく最も美しい絵が描けると述べた。**中共は人民を国民党の「白色恐怖」から解放した後「紅色恐怖」の強権統治を行い，毛の狂草風の青写真の狂想・狂騒に振り回されて「窮・白」長期化の苦境に陥った**。

「建軍の父」朱徳（序列1位の元帥，全国人民代表大会常務委員会委員長［国会議長］）

は，生母の病没（'44，83歳）後に『回憶我的母親』（我が母を追憶する）を書き，故人の**勤勉・慈愛を讃える感動的な手記は小学の国語教科書に収録**された。母親は13人の子供を産んだが貧困の為8人だけ生かせ，それ以降は已むを得ず**出生直後に溺死**させて了った，という痛ましい事実は**中共建国前には間々有った。中国の自殺は世界で異例的に農村・女性の比率が都市・男性より高い**が，**農村の嬰児被殺率も異常な水準**に在ったかも知れない。

朱徳の先祖は漢族の下位集団の客家（華北から東南地域に移住した人々の子孫）で，大昔に広東省韶関から四川省儀隴県に遷って小作農を営んだ。私の祖父は最貧省の貴州に近い四川合江県の貧民で，祖母王淑貞（1907～60）は父の後に2人の女児を産んだが，3児を養えない為に娘には最小限の食糧しか与え得ず，栄養失調に由る夭折を止める術が無かった。**代々の貧しい苦境から脱出する**為に，朱は政府に反旗を翻して南昌蜂起（'27.8.1）を指揮し，**父は苦学で大学に進み '40年代末に反飢餓・反内戦の学生運動の先頭に立った。**

20世紀最多の死者（24万人）が出た唐山（河北省）大地震（'76.7.28）を記念して，'10年に同名の映画（馮小剛監督）が公開され，翌年の米国映画芸術科学学士院賞外国映画部門中国代表作品に選ばれた。夫を失った直後の主人公は瓦礫の下の娘と息子の片方しか救出できない状況で，泣き崩れながら年少・病弱の息子の方を選び，**窮極の「割愛」**の結果**「見殺し」の罪悪感**に苛まれ続けて行く。**家を継ぐ男児の確保の為に女児を犠牲にする中国の前近代的な風習**は，今も妊娠中の性別検査で女児と判れば堕胎して了う傾向に現れている。

改革・開放元年（'79）以来の独り子政策は無数の新生を未然に封殺し，無慈悲な強制流産や37年に及ぶ過度な禁制で心身の損傷や人口の不均衡を招来した。「救救孩子……」（子供を救え……）という『狂人日記』の結びの叫びが聞えて来るが，**貧困の共倒れへの恐懼**から抜本的な解消が考案・実施された訳であろう。**生に執着する中国人の貪欲は現世至上主義と共に生の有り難さの実感が根底を為し，死者の分まで生きたい願望も場合に由っては有る。**翻って思えば，**「狼の乳を飲んで育った世代」は貧困時代の母乳欠乏にも起因する。**

7. 疑似「知識青年」に付き纏う物・心の窮乏・空白

毛沢東は「文革」の動乱を収拾す当く'68年に清華大学紅衛兵組織間の武闘を制止し（7.28），都市の高校・中学卒業生は農村に定住し労働に従事せよと号令を掛けた（12.22）。第9回党大会（'69.4.1～24）後の武漢滞在（5.31～6.26）中に民生の保障を唱えたのは，**「一窮二白」（一に窮乏，二に空白）の旧態依然**を自覚した為であろうが，**1 700万人の「知識青年」に「上山下郷」（山村・農村への下放）を強いた大追放**は，内戦の終結に寄与したものの都市と農村の経済格差を解消できず，**有為の若者たちもが陥る新たな「窮・白」を作り出した。**

労働者・農民毛沢東思想宣伝隊に由る清華大学「100日戦争」の強制終止の半年後，警

視庁機動隊が東京大学安田講堂を攻め落し全学共闘会議等の左翼学生を鎮圧した（1.18～19）。高度成長に由って世界第2位の経済大国と成ったばかりの日本は**社会が一層安定したが，転形期の急変や運動の蹉跌，青春の葛藤等で中国の「知識青年」とは異質の苦悶も生じた**。立命館大学文学部3回生の高野悦子は'69年6月24日に京都の鉄道で自殺したが，中共政権と同年齢の彼女の日記『二十歳の原点』（新潮社，'71）はこの文脈で示唆を含む。

20歳の誕生日（1.2）～自決の2日前に綴った遺作の題名は，成人の日（1.15）に書いた「独りであること，未熟であること，これが私の二十歳の原点である」に拠る。2つの鍵詞は時の**中国の国際社会に於ける孤立や先進国に対する未開**を連想させるが，**共産党政権の原点は毛沢東が言った「一窮二白」**に他ならない。**毛・華国鋒時代の「狼の乳を飲んで育った世代」も「窮・白」の烙印**が押され，**改革・開放期に漸く「脱貧」（貧困からの脱却）と「填補空白」（空白の補填）**が始まった。

私が国際関係に興味を持った契機は父の蔵書の内の『世界知識辞典』で，主に［北京］国際関係学院の教員が編集し世界知識出版社より'59年11月に刊行された同書は，千頁超の紙幅で政治・経済中心の3 500項目を盛り込んでいるが，**改革・開放後の是正不十分の観念から見ても実態と乖離する毛沢東時代の偏向が多い**。【朝鮮停戦談判】の「1950年6月に米国が朝鮮への侵略戦争を起した」，【傀儡政府】の「南朝鮮の李承晩“政府”（中略）が典型」等，当時の中国で常識と為った記述は**後世の笑い種**と化している。

中共政権の「同齢人」（同年齢の人）の作家張抗抗（建国1年未満の'50年7月3日生）は，朝鮮戦争勃発（6.25）と直後の米軍･国連軍の参戦の影響で「抗美」（抗米）と名付けられた。米国と抗争する意の名前の流行で同名者多数の不都合を避ける為に改名したが，愛称に多用する2字の重ねは**8年の抗日戦争に次ぐ3年の朝鮮戦争の負担・犠牲**を思わせる。習近平政権1期目の国家副主席李源潮（'50.11.22生）の名前も「援朝」（yuáncháo）と同音で，**「抗美援朝（米国に抗し朝鮮を支援する）」時代の狼煙の匂い**を漂わせる。

'50年10月19日，中国人民解放軍の東北辺防（国境警備）軍が志願軍の名義で北朝鮮に入り，25日に韓国軍との遭遇戦で**朝鮮戦争への介入･西側聯軍との対決**を始めた。軍歌の『中国人民志願軍戦歌』（麻扶揺［砲兵第1師団の中隊政治指導員］作詞，周巍峙［文化部文芸局副局長，後に同部次官・文化相代理・中国文学芸術聯合会主席］作曲）は，「抗美援朝，打敗美帝野心狼！」で結ぶ。原題と為る最後の7字は「米帝の野心の狼を打ち負かせ！」の意で，**領土や権力・名利を求める大きくて分不相応の野望**は**狼の貪欲**に譬えられる。

'55年体制と共に生れた『広辞苑』は政府の関与を受けぬ日本の国語辞書の伝統に従い，初版の序文の最後の「昭和三十年，一九五五年，一月一日　京都　新村出」が示す様に**在野精神**が強い。中共治下の国語辞書は**欧米の先進国以上に国家の意向を反映する**色彩が濃く，**朝鮮戦争勃発の日に設立した語言研究所が編集主体**を為す『現代漢語詞典』も左様である。

改革・開放発足時から毛沢東＋鄧小平→江沢民→胡錦涛→習近平の各時代の特徴を見せて来たが，「狼」関連の単語・成句は字形中の「良」と逆の**悪の性質**が一貫して突出する。

『広辞苑』の【狼】の「シカなどの大形獣のほか，ネズミなど小動物も食べる」，『日本国語大辞典』の「冬には家畜を襲うこともある」に対して，『現代漢語詞典』の語釈は「性凶暴，吃野生動物和家畜，有時也傷害人。」（性格が凶暴。野生動物と家畜を食べ，人を傷害する時も有る）と**人命を脅かす害獣の凶悪性**に言及する。明治時代に狼が絶滅した日本では，同項中の関連熟語は「狼に衣」（上辺は善人らしく装いながら内心は凶暴・無慈悲である様。鬼に衣）しか無いが，**出没が多い中国**では**身近な実感**から**負の意味**の熟語が少なくない。

『現代漢語詞典』の【狼】の内4字熟語だけでも6個有り，中の【狼狽為奸】（狼狽奸を為す。結託して悪事を働く譬え），【狼奔豕突】（狼奔り豕突き進む。群れを成す悪者が乱りに走り廻る様），【狼心狗肺】（狼の心と狗の肺。心根が悪辣な様，或いは恩を忘れ義に背く様），【狼子野心】（狼の子の野心。❶狼の子は幼いものの残忍な本性を持つことから，凶暴な人は魂胆が悪辣で，本性を変え難い譬え。❷険悪な企み。野心）は，**全て極悪非道の悪役**であるが，「狼心」「狼子」は江戸時代に日本語に入った後何時からか死語と化した。

二十四史（中国歴代の正史）中の『旧唐書』の内の『張九齢伝』が出典と為る「狼子」は，『狂人日記』で村の名に使われている。被害妄想を患う主人公が兄等に食われて了いそうな恐怖に怯えた契機は，他所の**狼子村の村民が大悪人を殴り殺し心臓・肝を抉り出して油で炒めて食った**話である。彼は**仁義道徳云々から「食人」の浮上**を感じ，**綺麗事で蔽われた社会の実態や歴史の暗部**を突き止めたが，人間を食った事が無い「孩子」はまだ居るか知らんという独り言は，**「狼の乳を飲んで育った」青少年の「狼子」化が進む現実**を連想させる。

「狼子野心」「狼心」の代りに「獅子の様な凶暴な心，兎の臆病，狐の狡猾」が出るが，**虎と並ぶ獣王の「凶心」**は和訳の「邪心」等と違って**邪悪を上回る凶悪の迫力**が有る。**歴史の創造者**には同音・異声調の**「雄（xióng）心」「凶（xiōng）心」の同居**も見られるが，「凶心」と同じ**中国語独特の「狠心」（残忍な心）や「凶狠」（凶暴・残忍）**の**「狠」**（hěn）は，**「狼」**（láng）**の字形に含まれ「恨」**（hèn）**と同根**で，同音・同声調の「很」（とても）の「凄く。酷く」の意味を思わせ，**中国的な心性の「根」**（gēn）**の「闇・病」**も示唆される。

「狂人」は周りの人々を醜悪で死肉ばかり食うハイエナと重ね，「“海乙那”は狼の親類で，狼は犬の本家だ」と書く。中国語で「鬣狗・土狼」と言う hyena は能く獅子・虎等の猛獣の後に付き，彼等が食べ残す野獣の骨を噛み砕いて呑み込む貪欲を発揮する。飢饉時の**「易子而食」（子を易えて食う）**や悪人に対する**「食肉寝皮」（肉を食らい，皮に寝ぬ）**の話は，『春秋左氏伝』の魯宣公15年（前594）と宋襄公21年（前552）の記事に見えるが，**人食いの史実や肉食系・獣性の遺伝子が厳然と有る**限り彼の妄想は一面の真理を含む。

「狂人」が言う**「4千年来絶えず人を食って来た」歴史の20世紀の事例**として，**「易子而食」**

の初出の2 500年後の1907年7月7日，前日に満族駆逐の蜂起で安徽省巡撫（省行政・軍首長）恩銘を射殺した徐錫麟（33歳）は，身体を生きながらに切り刻み激痛を与え続けて死に至らす凌遅刑に処され，睾丸の撃砕や割腹の末に漢単語の「心肝」が示す2つの最重要臓器を衛兵に食われた。**人類史上最も残忍な処刑法**の「凌遅」は『現代漢語詞典』で立項してあるが，『広辞苑』の不採録は**菜食系民族・平和国家の拒否反応**を思わせる。

『狂人日記』の前書の「民国七年四月二日記す」の「4.2」は，「死啊」（死ね）や魯迅が留学で習得した日本語の「死に」の語呂合せかも知れず，**受難・死滅の惨劇が纏う中国・中国人の宿命**に合う。**徐錫麟処刑の30年後に勃発した日中戦争や前後の国共内戦も無数の殺戮が有ったが，批判対象を攻撃する「文革語」の「火焼 / 油煎 / 油炸××」**（○○［氏名］を火で焼く / ［少量の］油で焼く / 油で揚げる）は，和語の「炒め」「痛め」の同音と暗合する虐め方で，**肉食系の特質を為す飢餓の記憶の遺伝子と被害妄想・飽食願望**を掘り下げたい。

張抗抗は'66年に浙江省都杭州で中学を出た後，'69年に黒龍江湯原県鶴立河農場に赴き，専業労働の後'77年から同省芸術学校で脚本創作専攻を勉強し，卒業の'79年に小説で出世し，後に同省作家協会名誉主席・中国作協副主席と為った。彼女は随筆『無法撫慰的歳月』（慰撫できぬ歳月。'98）の中で，**真の知識・文化を持てなかった「知識青年」の呼称の欺瞞性**を指摘し，この世代は**「狼の乳」**を飲んで育ったと言われるが，**蛋白質の含量が少ない湯漬・漬物**（を食べて育った）を加える当きだ，という比喩で**物心両面の貧困**を表した。

その「泡飯和咸菜」（出汁等又は湯・冷水を注ぎ掛けた飯と漬物）の前者は，日本語の「湯漬・水漬」を含み「茶漬」とは違う。『広辞苑』の【茶漬】の「①飯に熱い茶をかけたもの。茶漬飯。“何なら―”②粗末な食事。簡単な食事」は，中国語で其々「茶泡飯」「粗茶淡飯」に当る。【粗茶】（「粗製の茶。粗末な茶。また，他人にすすめる茶の謙譲語。“―ですが”」），【淡飯】（「そまつな食事。田舎之句合“麁茶―の楽しみは，いかなる佗助にや”」）も中国の4字熟語と通じるが，後者の出典中の**粗食の愉悦は中国の庶民と無縁**である。

佗助（和語）は椿の1種で晩秋から咲き茶花に賞用されるが，俳句で冬の季語と為る小ぶりの花の加味以前に，**毛沢東時代には茶漬に要る茶を日頃飲める人は少なかった**はずである。茶は生活必須品の「柴米油塩醤醋茶」（薪・米・油・塩・味噌 / 醤油・酢・茶）に入るが，**米・油も肉・卵等と共に改革・開放前は不足の為に配給制**と為っていた。火を通す中華料理の基本が現れる様に薪が首位を占め，俸給を表す「薪水」はsalt（塩）に由来した英語のsalary（給料）と対照的であるが，**国民の大半は薄給か無給で粗茶も買えなかった**。

日本語の「白湯」（「何もまぜない湯。“―で薬を飲む”」）は，中国語で「白開水」（温かい白湯。「開水」＝熱湯），「涼白開」（［加熱後］冷めた白湯）と言う。透明・無色を表す「白」は**味も素っ気も無い意で食生活の「一窮二白」を体現**し，水や湯に漬けた儘にする「泡」は「泡」「ぐずぐずする。時間を潰す」意も有り，共に**「知識青年」の徒労・空費と暗合**する。

黒龍江の淡飯は白い飯より「雑糧」（雑穀）が多く，「白泡飯」は字面に含む「淡泊」より蛋白質欠乏が特徴で，**同世代の多くて早い「疾・失」（病・歿）の禍根は食の不自由にも在る。**

毛沢東時代の「精神食糧」（精神の糧）も「党国」壟断の配給制に近い管理の下に置かれ，思想論著や文芸作品等は当局の意識形態や統治の必要に応じて質・量とも制限され，「文革」中は更に殆ど禁止され**形而下の生活以上の「一窮二白」**を作り出した。「狼の乳を飲んで育った世代」は往々にして**価値観の偏狭と美意識の畸形**に陥り，**不健全な精神は次世代を育てる際に負の影響を与え易い**。'79 年「狼の乳」への痛恨を叫んだ鄧力群は「左王」（左派の領袖）に変質し，**左傾思潮・路線の健在・繁殖で 40 年後に窮屈・空白の局面が再来**した。

「反右派闘争」の 50 年後に新著発行を禁じられた章怡和は 12 年後の '19 年 7 月 19 日，香港の図書展示会に参加した後の帰還時に北京空港で 1 箱の本を没収され，旧作『往事并不如煙』は「非合法出版物」として遭難した。折しも香港では「逃亡犯条例」改正案に端を発した民主化示威が盛んに行われているが，中国政府に批判的な本を売る書店の 5 人が '15 年 10 月から次々と大陸に連行され，**「一国両制度」50 年不変の保証への不信**が背景に有ると見られるが，**「高が発禁図書，然れど発禁図書」**とでも言う当きであろう。

「5.4 運動」100 周年・「6.4 事変」30 周年に当る '19 年の 10 月 22 日に，甘粛省慶陽市鎮遠県政府官方網站で同県図書館の「非合法図書」焼却処分を報じ，社会主流意識形態を伝播する主要な陣地の役割を果す行為として宣揚した。県文化旅游（観光）局の責任者の監督の下で係員が広場で「焚焼活動」を行い，65 点の「非合法」・宗教類・「傾向性」（偏った）内容を含む書籍・映像資料に火を点けたが，写真付きの報道は**秦の始皇帝・毛沢東治下の「焚書」を連想させ**，章怡和等の**識者・「網民」の非難と海外世論の警戒**を招いた。

当の**国家 1 級図書館の自己規定に有る「陣地」**は，和製漢語の産地の『広辞苑』では，「敵と交戦する目的で，戦闘部隊が拠り所として攻撃・防御の準備・配置をした場所」と説明され，『現代漢語詞典』の定義も**専ら軍事用**の「軍隊為了進行戦闘而占拠的地方，通常修有工事」（軍隊が戦闘を行う為に占拠した場所。通常，工事が構築してある）と為る。用例の「～戦｜占領敵軍～◇文芸～｜思想～。」（「陣地戦」「敵軍の陣地を占領」［比喩的］「文芸陣地」「思想陣地」）は，◇で示す比喩の意味が語釈に出ないので**戦争見立ての表現**である。

【陣】の内の【陣線】は「戦線，多用於比喩：革命～｜民族統一～。」（戦線。多くは比喩に用いる。「革命戦線」「民族統一戦線」）で，【戦線】は「敵対双方軍隊作戦時的接触線：縮短～◇農業～｜思想～。」（敵対する双方の軍隊の作戦時の接触線。「戦線を短縮させる」［比喩的］「農業戦線」「思想戦線」）と為る。前者は【陣営】（［為了共同的利益和目標而聯合起来進行闘争的集団。］「共通の利益と目標の為に連合して闘争を行う集団］）とも関連し，後者は農業や思想の分野に**戦場の概念を当て嵌める闘争志向・冷戦思考**が窺える。

『広辞苑』の【戦線】（和製漢語）は「①敵前陣地の最前列の線。戦闘部隊の占有する地

点をつないだ仮想線で，交戦の区域。戦闘線。“―に送られる”“西部―”②政治運動や社会運動で，闘争の場面または形態をたとえていう語。“人民―”“統一―”」で，【陣営】は「①軍兵の駐屯する仮屋。陣屋。陣所。兵営。軍営。②陣を構えること。陣取ること。③相対する階級・党派などの勢力の一方の側。“革新―”」である。中国語独自の「陣線」は両語の合成で**戦闘・抗争**の意を含み，**戦争所縁のこの種の語句の発達・常用度は日本を上回る。**

『日本国語大辞典』の【陣地】は防御 / 援護 / 砲兵 / 機関銃 / 歩兵砲 / 防空陣地等の例示が有るが，『漢語大詞典』の❷「比喩工作、闘争的場所」（仕事・闘争の場所に喩える）の意は無い。和製漢語に付された中国語の意の第 2 の用例は，艾青の詩『新的時代冒着風雪来』（新しい時代は風雪に耐えて訪れる）の「我們要堅守毎一個陣地，像那上甘嶺的英雄一様。」（我々は全ての陣地を死守し，上甘嶺の英雄の様に）である。下線で示される地名は朝鮮戦争中の戦役（'52.10.14～11.25）の戦場で，**志願軍勝利の伝説は新「中共語」の根拠**とも為った。

漢籍由来の「陣営」の 20 世紀の新語義は，『日本国語大辞典』の「3階級・党派・イデオロギーなどの別によって対立する勢力の，一方の側」では和製語義とされるが，その初出の「ベナレスのあたり（1955）〈竹山道雄〉」より早く，『漢語大詞典』の❷（語釈は『現代漢語詞典』の❷と略同じ［前に「比喩」と付ける］）の用例は，「魯迅《〈三閑集〉序言》」「瞿秋白《〈魯迅雑感選集〉序言》」が 1・2 点目と為る。【陣線】の初出は「丁玲《一九三〇年春上海（之二）》」であるが，**瞿・丁とも毛沢東時代の階級闘争で「叛徒」の汚名を被せられた。**

若き毛沢東は「与天奮闘，其楽無窮！与地奮闘，其楽無窮！与人奮闘，其楽無窮！」（天を相手に奮闘す，其の楽しみは窮まり無し。地を相手に奮闘す，其の楽しみは窮まり無し。人を相手に奮闘す，其の楽しみは窮まり無し）と日記に書いたが，**「戦線」の例示の「農業～｜思想～」は天・地（気象・環境）/ 人と闘う戦場に為った。「大躍進」は「人民戦争」の人海戦術で自然の法則と抗して失敗し，「反右闘争」「文革」は異端者・政敵を弾圧し冤罪を作ったが，「第 2 の毛」の時代でも虚・実の敵を撃つ「文芸 / 思想陣地」の闘争は已まない。**

8. 国家社会主義独逸と通じる「現代秦始皇」の焚書坑儒

「逢 9 必乱」（［西暦で末尾が 9 と為る年には必ず動乱が起きる）という**長年の「魔呪」（縁起が悪い / 因縁が有る事柄［の法則］）**の通り，**'19 年には '59 年「大躍進」失敗，'89 年「6.4」暴走以来の内憂外患が訪れた。**対米貿易戦の激化は経済の下落を齎し，闘志を呼び起す為中央電視台で 5 月 16～20 日に「抗美援朝」の映画を緊急放映し，**「文革」勃発 53 周年**の日からの番組変更は**非常事態**を思わせた。習近平は 9 月 3 日に中央党校で闘争精神の発揚と闘争能力の増強を唱え，**講話中 68 回出た「闘争」は闘争好きの毛沢東を彷彿させる。**

『広辞苑』の【戦線】の例示「西部―」も当該項目の説明の通り，第 1 次世界大戦（'14～

18）中，独逸軍と連合軍が終戦まで塹壕戦で対峙した仏蘭西東北国境の戦場を指す。この固有名詞はレマルク著長篇戦争小説『西部戦線異状無し』（'29），第3回米国映画芸術科学学士院賞作品・監督賞受賞（'30）の同名映画（同）に由って一層有名と為った。**自国の志願兵が戦場で不安・恐怖に襲われ苦痛・憤怒を抱き戦死に至る物語**は，**戦争の破壊性・非人道・無意味・理不尽**を痛感させ，**人類の普遍的な情感に有る厭戦・反戦**の要素が濃い。

「黒色幽黙」風の題名は主人公が歿した日の司令部報告に「西部戦線異状無し」と記載された事に拠り，1兵卒が前線で命を奪われても「報告す可き件無し」の文面に全く反映されない結末は，**人命軽視も甚だしい将領・軍隊・戦争の無慈悲**を暗喩的に表している。唐末の詩人曹松の五言絶句「己亥歳」の「一将功成万骨枯」（「一将功成り万骨枯る」）を思い起すが，1人の将軍の功名の樹立は万人の兵が戦場に屍を曝した結果だという**冷厳な原理**から，**1国の敗戦は無数の軍・民の犠牲を意味する**という更に残酷な現実が連想される。

個別の戦死を日報に載せない独逸軍上層部の対応は官僚的な特質をも帯びているが，**中共が'57年5月の整風で宗派主義・主観主義の前に置く第1の批判対象とした官僚主義**は，『広辞苑』の「（bureaucracy）官僚政治に伴う一種の傾向・態度・気風。専制・秘密・煩瑣・形式・画一などを特徴とする。官庁だけでなく，政党・会社・組合など大規模な組織に伴うこともある。御役人風。御役所式」の例示の範囲に，**中国では「軍民」の語順や様々な「軍人優先」の待遇が示す通り民の上に位置する軍隊も加われる**。

『現代漢語詞典』の【官僚主義】の「指脱離実際，脱離群衆，不関心群衆利益，只知道発号施令而不調査研究的工作作風和領導作風。」（実情から離脱し，大衆から離脱し，大衆の利益に関心を寄せず，号令を発するのみで調査･研究をしない仕事の気風と指導の気風を指す）は，和製漢語（初出は「牧羊神［1920］〈上田敏〉月光」）の本場の類書の定義と照合せず，**行動様式・意識状態の根源と為る国家の官僚制・官僚政治の病巣**に言及せず，**専制・尊大・独善や権威主義・事大主義・秘密主義・形式主義・事勿れ主義の症状**をも指摘しない。

『日本国語大辞典』の【官僚政治】の語釈は「〖名〗ある種の特権を持つ一部の官僚が実質上の権力を握り，民意を無視して専制的，集権的に行なう政治」，用例の初出は「楼上雑話（1902－05）〈内田魯庵〉」である。【官僚制】は「特権的な層を形成する官僚が，政治的支配を行なう統治形態。独善性・形式性・画一性などを特色とする」と説明し，「日本の思想（1961）〈丸山真男〉一・三」を初出に挙げるが，例文中の「絶対君主による政治的集中（官僚制の形成）」は，**中共・毛沢東集権下の'57年整風の反官僚主義の限界**を思わせる。

漢籍由来の「官僚」の現代派生語で『現代漢語詞典』に収録されるのは，【官僚資産階級】（半封建・半殖民地国家で，帝国主義と地主階級の勢力と結託して，国家の政権を掌握し，全国の経済の命脈を壟断する買辦的資産階級），【官僚資本】（官僚資本主義が所有する資本），【官僚資本主義】（半殖民地・半封建国家に於ける買辦的・封建的国家壟断資本主義）も有

る。**半封建／殖民地社会を打破した中共政権では今や新生の「権貴資産階級」は禁句に指定され，「国家壟断社会主義」とも言える政治・経済集権に就いての議論も許されない。**

中国の報道人・作家楊継縄「文革」勃発半世紀後の '16 年に，『翻天覆地――中国文化大革命五十年史』（全 3 巻，［香港］天地図書有限公司）を出版した。毛沢東の末年の元日に発表した詞『念奴嬌　鳥児（鳥の）問答』（'65 年秋）の結びの「試看天地翻覆」（試みに看よ天地翻覆するかを）から題を取った史書は，「文革」の根源は「極権」（全体）主義制度に在り，壮大な「遊戯」は毛の失敗と官僚集団の勝利に終ったと結論付ける。**党・官僚に由る特権独裁体制は '87 年体制に継承され，'17 年体制の下で建国来最強級の勢いを呈している。**

毛沢東は 9 期 1 中全会（'69.4.28）でソ連に評された**「軍事官僚独裁」**を口にしたが，気懸りの**軍隊の肥大化と官僚の復権は彼の独裁を削げるとしても党の独裁には影響しない。同じ「封建的社会主義」の観が有る北朝鮮の「金家王朝」の 2 世首領金正日の「先軍政治」は，鄧小平の '89 年「6.4」武力鎮圧後の軍委主席退任まで続いていた。同日（11.9）の東独逸の「伯林の壁」（'61.8.13 建造）崩壊と共に時代の転換**を現したが，**鄧が改革・開放元年に起した越南侵攻**（2.17～3.16）**は最後の戦争**と為り，'87 年体制以降は平和が保たれて来た。

馮小剛監督は '17 年体制出現の年の映画『芳華』（小説［'16］原作･改編＝厳歌苓）で，'70～80 年代の軍隊文芸工作団（部隊慰労公演を担当する歌舞団）成員の人間劇を描いた。毛沢東時代の政治宣伝の為に青春を費やした彼等は軍紀の規制や団体の解散に翻弄され，「対越自衛反撃戦」に由る負傷や発狂や改革･開放後の生活難の悲劇も出る。**「一将功成万骨枯」の詩（879）の 1 100 年後の旧同盟国との血戦**は解放軍の大量の死傷を出し，退役軍人の心身の創傷や待遇への不満が社会の重荷と為り，皮肉にも**国民の一切不再戦の合意を強めた。**

『芳華』の越南戦場の弾雨・流血等の凄惨な場面が検閲を通った事は，**戦争は「文革」と同様 2 度と御免だという朝野の共通認識の固さの証**である。*Im Westen nichts Neues* の漢訳『西線無戦事』（西［部戦］線戦事無し）に因んで言えば，中国の**東・南・西・北全戦線戦事皆無連続 40 年は，中・英鴉片戦争**（1840～42）**以来の近・現代史上の未曾有の好事**である。「一将功成万骨枯」の字・義と重なる「怪我の功名」は，中国語で「因禍得福」（禍転じて福と為る）と言うが，**毛沢東・鄧小平の過誤は反面教師として進歩に寄与した。**

彼の独逸の作家は**西部戦線異状無しの永続を祈り**つつ創作したのかも知れないが，10 年後に独逸の波蘭侵攻で世界大戦が再び勃発し（'39.9.1），42 歳の誕生日（'40.6.22）に独逸が仏蘭西侵攻（5.10～6.25）の戦果として不平等の休戦協定を呑ませ，翌年の同日に独逸は相互不可侵条約（'39.8.23 締結）を破ってソ連に奇襲を掛けた。国家社会主義独逸労働者党の 1 党独裁（'33～45）の下独逸は対外拡張に走り敗北へ向ったが，レマルクは**反戦の為に糾弾され** '32 年の瑞西亡命，'38 年の国籍剥奪を経て翌年に米国に亡命し '47 年に帰化した。

彼は大戦後に小学教師・図書館司書・編集者・報道人を経験したが，敗北後の社会を生

きる復員兵を描く長篇『帰り行く道』（'31）は，同じ復員兵の国社独労党党首ヒトラーの右傾化に反した故**焚書処分**を受けた。ヒトラーの首相就任（'33.1.30）後の4月6日に独逸学生連盟（'19～45）が**思想粛清**を呼び掛け，「非独逸的な魂」の書籍に対する「祓い清め」の火を点けた。5月10日に略全ての大学都市で若い国家主義者等が大量の「不純」図書を篝火の中に投げ入れ，**当局主導の儀式は国家に由る言論統制・文化支配の幕を切って落した。**

7年後の「5.10」仏蘭西侵攻は国家社会主義の**対内専制と並行する対外制覇の暴挙**で，焚書運動は**狭隘な愛国主義・護国意識を煽り暴走の助走**と為った。初代国民啓蒙・宣伝相（3.14就任）のゲッベルスは当日伯林の歌劇広場で数万人の参加者に対し，頽廃・道徳の崩壊に対する否定と過激な猶太の主知主義の終焉を宣言し，反国社主義の書物や猶太人の著書を過去の悪しき亡霊として火刑に処すと声高に唱えた。「偉大で象徴的」と謳った行動は紀元前の**秦の始皇帝の焚書と並称**されるが，1/3世紀後の**「当代の秦始皇」治下で再演**された。

『現代漢語詞典』の【焚書坑儒】の「指秦始皇為鞏固統治而焚焼古代典籍、坑殺方士儒生的事。」（秦の始皇帝が統治を強化する為に古代の典籍を焼却し，方士・儒生を坑殺した事を指す）は，**毛沢東史観の秦始皇礼賛・焚書坑儒肯定を踏襲**する様に批判的な表現を用いない。『広辞苑』の当該項目の親項目【焚書】は，「書籍を焼きすてること。学問・言論を圧迫する手段として行われた」と言うが，**学問・言論を圧迫しつつ不自由な実態を隠蔽し勝ちの中国**では，例の辞書は現代の自国と無関係の様に切り捨てている。

『日本国語大辞典』の【焚書坑儒】は**本質を押さえ汎用性を考慮し**，「中国秦の始皇帝が前二一三～二年に行なった，主として儒家に対する言論統制政策。法家の思想家であった宰相の李斯の建言により，医薬・卜筮・農事などの実用書以外を焼き，儒生を捕えて，四六〇余人を坑殺したといわれる事件。転じて，学問・思想を弾圧すること」と説明する。漢籍出典の孔安国（前漢の経学者，孔子12世の孫）『古文尚書序一』と共に和文用例が2点有り，其々**100年単位の時間の連環で中国現代史と結び付ければ今日的な示唆が有る。**

初出の「史記抄（1477）一六・儒林列伝“始皇，焚書坑儒せられて掃地尽矣”」の500年後，江西省贛州市の元紅衛兵・労働者の李九蓮（31歳）が「反革命罪」で銃殺された。彼女は'69年に林彪批判・劉少奇擁護の言論を恋人（兵隊）に密告され懲役5年に処され，林の失脚に伴う釈放の後は名誉回復を求める陳情活動で'75年に懲役15年を食い，翌年12月14日に毛沢東・「文革」と華国鋒の党政軍大権独攬等を批判した為1年後に処刑された。'81年に胡耀邦の指示で是正された冤罪は，**張志新の惨死以上に「狼の乳」の臭い**を放つ。

処刑前「反動標語」が叫べぬよう尖った竹で下顎と舌を串刺しする手口と共に，銃殺後「坑儒」の埋葬も無く野外に曝す結末は**中世の蛮性**を思わせる。元労働者が猥褻目的で乳房・陰部を切って持ち帰った結末は，後に受けた懲役7年の重罰の通り**歴史に遺る汚辱**である。同世代の彼女の為に不平を鳴らし'78年4月30日に銃殺された鐘海源（同地区の小学教師，

2 子の母）も，高官子弟の空軍操縦士の暫しの延命に必要とされる腎臓移植の為に，執行時に重傷を負わされ存命の儘の**残忍な強行摘出**の後で始めて止めの 1 発が撃たれた。

'77 年に李九蓮と同じ 31 歳で処刑された「反革命現行犯」王申酉（上海華東師範大学職員）は，「反右派闘争」「大躍進」「文革」と毛沢東の誤りを指摘する見解で前年に投獄された。**「5.1」国際労働祭前に「反革命」囚人の大量公判・処刑を要求する中央の指令に従って，公安・検察・裁判所を総括する市党委は 1 日で 56 件の死刑を決めた。**王は 27 日に盧湾区体育館に於ける 3 万人参加の公判大会でいきなり判決を聞かされ，1 言の弁護も発し得ない儘に町中を連れ廻され「落花生」（銃弾を表す諧謔語）を食わされた。

'68 年の同じ「4.27」に文化革命広場で万人参加・電視中継の公判大会が開かれ，「反革命現行犯」陸洪恩（上海交響楽団指揮者, 49 歳）等 7 人が極刑を告げられ, 最高人民法院（最高裁）への上訴も出来ない**無法状態**で即執行された。北京大学新聞学部在籍中の '57 年に毛沢東から「右派分子」とされた林昭（女性，36 歳）も，「反革命集団成員」の罪で監禁中**「5.1」祭に供える生け贄**として 2 日後に上海の処刑場で露と化した。**対敵闘争の「秋風掃落葉」（秋風落葉を掃う）の勢い**を顕す様に, 同市では翌年の国慶節前に約 60 人を処刑した。

李九蓮が楯突いた華国鋒は党中央･軍委主席兼総理の他 '77 年 3 月まで公安相をも兼任し，党首の総理兼任は胡耀邦失脚後の趙紫陽総理の総書記代理も及ばぬ**空前絶後の集権**で，**公安相兼任は警察国家が多い共産圏でも史上唯一の異例**と為る。政治局委員（'73.8～）→公安相（同 10～）→副総理（'75.1～）→総理代理（'76.2～）→中央第 1 副主席兼総理（同 4～）→中央・軍委主席（同 10）の**加速特急昇進**は，**毛沢東の破格の抜擢と自身の大胆な政変の結果**に他ならず, **浅くて弱い権力基盤の強化の為に自ずと手荒い制御が求められた。**

華国鋒は葉剣英（中央・軍委副主席兼国防相，元帥）と共に「4 人組」を逮捕した後，その本拠地の上海の指導部を総入れ替えし，蘇振華（政治局委員候補･海軍第 1 政治委員，海軍上将）を党・政首長に据えた**軍事管制**は，**新領袖の権威を維持**する為の王申酉処刑の背景を為す。陸洪恩が**毛沢東批判の代償で建国後初の「高級知識分子」処刑**と為った事は，同じ上級知識人の張春橋・姚文元が決めたが，**「坑儒」は軍事官僚独裁体制の必然**と言え，華が死に体と化した '81 年 4 月に新市委が王の名誉を回復したのは**新思考の所産**である。

9. 文化破壊と虐殺横行で助長された「狼子蛮性」

『日本国語大辞典』の【焚書坑儒】の 2 番目の和文用例は，「戯作三昧（1917）〈芥川龍之介〉一二“焚書坑儒が昔だけあったと思ふと，大きに違ひます”」である。10 年後の遺書中の「ぼんやりした不安」は独逸の焚書で的中したが，「無独有偶」（[多く悪事に就いて] それだけが単独で訪れない。類は友を呼ぶ）の通り，**秦の始皇帝・ヒトラーの 1 対と対を**

成す「文革」の焚書熱が起きた。今日程に若者が発言権を持った時代は無いとゲッベルスは例の集会で語ったが，**'66 年 8 月に頂点に達した焚書も若い紅衛兵が急先鋒**である。

国社主義独逸焚書の嚆矢の 33 周年の 8 日後（'66.4.14）の全人代常委会拡大会議で，**毛沢東時代随一の文学者・学者郭沫若**は全国文聯主席（初代，'49～78［歿］）の身分で，自分の過去の著述は**今日の基準からすれば価値が無く**厳格に言えば全て**焼却す当き**だと陳べた。中国科学院院長（同）・中国科学技術大学学長（初代，'58～歿）・全人代副委員長（第 1～5 期，'54～歿）在任中の学界重鎮・政界要人だけに，**過度の自己批判と過激な決意表明は知識人等に衝撃と恐怖**を与え，その口火は謀らずも**焚書運動への教唆**と為った。

国社主義独逸の**思想統治総管領**ゲッベルスは '33 年「5.10」集会の演説で，「今や学問は栄え精神は覚醒しつつある。この灰の中から新しい精神が不死鳥の様に舞い上がるだろう」と吼えた。'66 年「5.16」中共中央通達で**「文革」の指導理念**として，毛沢東が繰り返して言った「不破不立。」（破壊無くして建設無し），「破字当頭，立也就在其中了。」（「破」の 1 字が先行すれば，「立」は自ずと其の中に在る）を引いた。「破旧立新」（旧きを破り新しきを立てる）の合言葉で，**「不良」図書の灰から新精神を生み出す焚書の現代中国版**が始まった。

毛沢東の初回の**紅衛兵観閲**と為る「8.18」百万人「文革」決起大会（天安門広場）で，党・軍の新 No.2 林彪が所謂**「革命闖将」（革命的闘将）**に**「4 旧」打破**を呼び掛けた。20 日から北京発の**「封建的・資産階級的・修正主義的な代物」一掃運動**が全国を席巻し，国家所有・個人所蔵の**文化財・図書の破壊・没収が量・質とも史上最悪の水準**に達した。第 1 回（'58）国家保存指定の文化財だけでも 6 843 点の内 4 922 点（71.9％）が破壊され，国宝級の孔子廟（山東曲阜市）を含む各地の名勝旧跡や書画・骨董等の毀損は数え切れない。

明末・清初「3 大儒」中の思想家・学者・清代考証学の始祖顧炎武は，**中共が「優れた気風」とする実事求是（実情に即して真理や善処を追求すること）**を貫き，**「読万巻書，行万里路」（万巻の書を読み，万里の路を行く）の流儀**も後世の手本と為った。大勢の紅衛兵・造反派は毛沢東が唱え中央「9.5」通達で認めた「全国大串聯（経験交流）」で，国家負担に由る**無料乗車・宿泊**を利用して物見遊山・帰省も混じる長旅が出来たが，**読書は万巻どころか本の大量廃棄に由って毛の著作等の極一部しか許されなかった。**

杜甫の「読書破万巻，下筆如有神。」（書を読みて万巻を破り，筆を下ろせば神有るが如し）は，**万里の道を踏破する体験と同じ万巻の書を読破する学習の効用**の形容として信奉されるが，陸洪恩や漫才巨匠の候宝林が「文化大革命」を揶揄した**「大革文化命」（大いに文化の命を革る）**の中で，**「読書？万巻破（れけり）！」と言える名著・良書等の禁断**が長らく続いた。国社主義独逸の最大規模の「5.10」焚書では万巻の 2.5 倍が「破旧」対象とされたが，「文革」の場合は北京房山区上方山兜率寺だけで数万冊の仏教経文が焼き棄てられた。

『中国文化大革命事典』（陳東林・苗棣・李丹慧主編，西紀昭・山本恒人・園田茂人等

翻訳,［福岡］中国書店,'95）の【1966　文化財の没収と破壊騒動】に,「紅衛兵が採用した」「極めて愚かで野蛮な」「破壊の方法」の例として，歴史的な文化財の収蔵者を縛り上げて木の上に吊し，目の前で貴重な書画等を1枚1枚破り捨て，後にそれを火に焼べて見るに忍びない思いに駆り立て，遂には死を望む程に責め苛んだ，というのが有る。文化財級の書画は持主にとって命並みに貴い物だから，左様な**2重の加害・加虐は嬲り殺しに近い**。

作家五木寛之は随筆集『運命の足音』（幻冬舎，'02）第1章「五十七年目の夏に」で，13歳時の敗戦直後に朝鮮平壌の自宅で母親が家族の前で多数のソ連兵に暴行され，以後1言も話さず食事も拒んで間も無く死んだ，という**辛酸極まり無い**往事を綴った。中国の東北に進駐したソ軍も**成らず者**が略奪・姦淫・殺人に走る事が多々有ったが，自らの存在の一部と為る秘蔵書画の破棄を強制的に凝視させるとは，肉親の前で女性を強姦する**鬼畜の仕業に準ず，「狼の乳を飲んで育った世代」の「狼子蛮性」は「狼子野心」と同罪**である。

『中国文化大革命事典』の件の記述の前に曲阜「三孔」（孔府･孔廟･孔林）の被害が有り，北京の紅衛兵に由り6の墳墓が暴かれ40余りの碑,17体の塑像と一部の書画が破壊された。次に，山東では武訓の遺骸を墓から掘り出して担いで町を練り歩くと共に人民裁判まで行った，という**死者に鞭を打つ行為**が特筆されている。映画『武訓伝』が翌'51年に**毛沢東に批判された清の教育者は歿70年後**，冠県の中学の学生・教師に由って慈善家の美名と**人間の尊厳を踏み躙られた**が，これも**「狼の乳」の影響が為せた仕業**と見て可い。

死屍に鞭打つ事は春秋時代の楚の名族伍子胥の復讐物語に由来し，平王に父・兄を殺された彼は呉に奔り楚を討って仇を報じ，恨みを晴らす為10年前に死んだ平王の屍を墓から掘り起して300回鞭打った。旧友から酷過ぎると責められた時,「吾日暮而途遠，吾故倒行而逆施之。」（吾日暮れて途遠し，吾は故に倒行して之を逆施せり）と答えた。年老いて而も達す当き目的が未だに果せないから非常識な行り方をしたまでだ，という弁明の中の「倒行逆施」は**常道に逆行する**負の意味であるが，古来その**仕打ちは美談**として知られていた。

独逸の詩人・評論家ハイネは戯曲『アルマンゾル』（1823）で，焚書は序章に過ぎず，本を焼く者はやがて人間をも焼くと警告した。彼は鋭い政治・社会批判で弾圧され'31年巴里に亡命し，著作は1世紀後の国社主義独逸の焚書で灰にされた。予言の通り**猶太人の著書に対する焼却は9年後に**猶太**人虐殺へと発展**したが,「文革」の焚書は北京北京大興県の農村の「革命群衆」に由る大量私刑殺害（'66.8.27～9.1）の様に，空かさず**異端者抹消の凶行に繋がり**，而も「人民裁判」に由る処刑は時の副総理兼公安相の謝富治上将の黙認を得た。

'19年9月25日に単体では世界最大と為る北京大興国際空港が開港し，習近平は式典で己の新時代の新成果を誇示したが，53年前に中央「8.8“文革”決議」中の「大興無産階級思想」（大いに無産階級思想を興し）に地名が含まれる同県と昌平県（'99年より区）で，対句の下の**「大滅資産階級思想」（大いに資産階級思想を滅ぼす）の範囲を逸脱**し，**「4類分**

子」（［**反社会的**］**4 種類の人**［地主・富農・反革命分子・悪質分子］）に対する**大量撲滅**で，13 の人民公社・48 の生産大隊で **327 人が殺され 22 戸が「滅門」（1 家皆殺し）**に遭った。

80 歳の老人から生後 38 日の嬰児までの人々を殺す多様の方法は「残忍」の 1 語に尽き，棍棒に由る撲殺，押切に由る斬殺，縄に由る絞殺の他に，嬰児・幼児に対する裂殺（造語。足で一方の腿を踏み付け両手でもう一方の腿を掴み力一杯で引き上げ胴体を 2 つに引き裂く手段）や，**「坑儒」以上の「坑孺」（幼児を坑に埋める）**まで有った。祖母と孫を生き埋めにする時下手人等が掬鍬で土を掛け，胸に抱えられた孫は目が開けられないと訴え，祖母はもう直ぐぼんやりしなくなるからねと諭し共に葬られた，という 1 齣は**世人の涙を誘う**。

主席の著書は中国を動かし世界を変えたとニクソンに礼賛された毛沢東は，北京郊外の一部を変えたに過ぎないと半ば謙遜で半ば正直に答えた。**「天高皇帝遠」**（天高く皇帝遠し。**僻地に中央の威令が効かない**譬え）という諺の通り，**赤い帝も「鞭長莫及」**（長い鞭も及ば莫い。**遠過ぎて支配・影響が届かない**譬え）である。毛は次女李訥を北京市委副書記兼平谷県委書記にした（'74～75）が，同じ**「天子の膝元」**の大興・昌平の大虐殺は明らかに彼の意に反し，**広大な領土と雑多な人口を擁する中国で動乱を作る事の危険**が再認識された。

「無独有偶」の法則を体現して翌年の「階級隊列の浄化」中，言わば「皇帝のいない 8 月」（小林久三の政治冒険長篇小説［'78］の題）が，毛沢東等の故郷の**湖南省の道県で端的に現れた**。「文革」元年の '66 と同じ日数（8.13～10.17）の間に 33 の公社で**「4 類分子」と家族の 4 519 人が殺され，1 家皆殺しは 117 戸**に上った。殺害の手口は銃殺・爆殺・窒息死に至らせる水没，岩窟等に於ける置き去り，叩き付けの撲殺（主に子供の場合），又**ハイネが予言した焼殺**も加わり，更に**筆舌に尽し難い様々な狂気の虐殺法**が敢行された。

「2 度有る事は 3 度有る」と言う通り「文革」の 3 年目に**階級闘争の第 3 の荒波**が襲来し，「新生紅色政権防衛の為の障害一掃」運動で大衆組織成員への大虐殺が各地で起きた。今回の激甚地域は更に南の広西壮族自治区と為り集団虐殺で**死者が約 10 万人**に達し，'68 年 6 月 15 日～8 月末に賓武県で殺人者集団が 75 人の死者を腑分けして**心臓や肉を食った。魯迅が『狂人日記』の主人公の被害妄想に託して喝破した「人食い」の歴史の伝統は，半世紀後に従来の「道徳仁義」に代った「革命造反」の大義名分の下で露呈した。**

楊継縄著『翻天覆地――中国文化大革命史』の日本語版『文化大革命五十年』（現代中国資料研究会訳，岩波書店，'19）の「編者あとがき　私と文革」で，毎日新聞社北京特派員・編集委員と東海・獨協大学教授を歴任した辻康吾は流血事件の凄まじさに注目し，その凄惨さは翻訳担当の友人たちが「もう嫌だ」と慨嘆する程の物であったと記している。原書の 2 割未満の抄訳は血腥い細部を大分削って日本の読者の拒否反応を回避できるが，**暗黒史の清算の為に中国人も吐き気を催す凄惨な実態を悉に後世に伝える事は意義が有る。**

「文革」後文学第 1 期の「傷痕文学」を代表する短篇小説『楓』（'79）は，純真な紅衛兵

が武闘で無意味な死を遂げる物語で人々の心を痛めた。著者鄭義は同第3期の「尋根（根を尋ねる）文学」の傑作として，貧困な農村・農民を描く『老井』（古井戸）で'85年全国中篇小説賞を獲った。'89年の民主化運動参加で指名手配を受け国内潜伏を経て'92年に香港に脱出し，翌年に米国への亡命と共に『紅色記念碑』の出版（[台湾] 華視文化公司）を遂げたが，**墓誌銘的な実録文学は禁断の傷痕と為る広西食人事件を完膚無きまで暴いた。**

'89年から米国に移住した政治学者宋永毅は「文革」勃発50周年に当って，電子書籍『広西文革機密档案（永久保存用文書）資料』（[紐育] 明鏡出版社）を刊行した。建国の2ヵ月後に生れた彼は上海で張春橋に反対した為21歳時から5年間拘禁され，「文革」後の初入試で華東師範大学に合格した後その反「文革」認識が深化した。広西の集団人食いはアウシュビッツ強制収容所での集団虐殺よりも酷いという断罪は，**共産党中国を国社主義独逸と同列に論じる観点**が母国では許されず，**又もや再び好まざる人物**として睨まれた。

宋教授は複数の研究機関・大学（最終所属は加州州立大学）の図書館で勤務し，世界初の『中国当代政治史数拠庫』として，『中国文化大革命数拠庫（1966―1976）』『中国反右運動数拠庫』『中国大躍進―大飢饉数拠庫（1958―1964）』『中国建国初中期政治運動数拠庫――土地改革から公私合営（1949―1956）』を刊行した（香港中文大学中国研究中心，'02，10，13 / ハーバード大学費正清研究中心，'14）。紅衛兵新聞等を収集する為'99年に中国で半年拘束された事は，**毛沢東時代に関する集団的な記憶の保存・活用の困難**を如実に語る。

彼は定年退職の前に一応の完成に漕ぎ着けた事を喜び，身の危険を含む全ての代償は値打が有ると語った。曰く，此等の仕事は我々の世代がしなければ次の世代はもっと把握できなくなり，例えば我々が直ぐ説明できる「4人組」は若者には明確に認識されていない；故に歴史と自身の人生に対し緊迫感を持ち，我々は各々の生命・時間と競走せねば為らない，と。**「文革」世代の高齢化は記憶の風化に繋がる**為**「日暮而路遠」の焦燥は当然**である，**目標の実現は「任重而道遠」（任重くして道遠し。荷物は重く道は遠い）**と言わざるを得ない。

私が本学部で教鞭を執る28年中に授業で最も悲哀を感じたのは，'10年代半ばの中国語に由る国際関係解説・討議の課目で，米国陣制作（'95）の実録映画 *The Gate of Heavenly Peace*（神聖な平和への門，和訳『天安門』）を流す時，後列の1人の中国人留学生が頻りに個人用電脳の画面に視線を落し，終いに映写幕を無視して下らぬ動画投稿に没頭し時々笑いが漏れた事である。**高校生の息子が凶弾に命を奪われた母親の声涙俱に下る哀訴に一瞥もくれぬ不謹慎**から，**「狼の乳」を飲んで育った者が猶居る**現実を認識させられた。

10. 受難体験の保存・消去と重大事件の取捨・裁断

魯迅が'31年に追悼文『為了忘却的記念』（忘却の為の記念）で記した次の無題詩は，**暴**

政被害者の悲情と反専制闘士の義憤に合致する。「慣於長夜過春時，挈婦将雛鬢有絲。夢里依稀慈母涙，城頭変幻大王旗。忍看朋輩成新鬼，怒向刀叢覓小詩。吟罷低眉無写処，月光如水照緇衣。」（長夜春時を過すに慣れたり，婦を挈え雛を将い鬢に絲有り。夢裡依稀なり慈母の涙，城頭変幻す大王の旗。看るに忍びんや朋輩の新鬼と成るを，怒りて刀叢に向い小詩を覓む。吟じ罷り低眉になれど写す処無し，月光水の如く緇衣を照らす。）

'31 年 2 月 7 日に上海龍華に在る国民党警備司令部拘置所の外で，5 人の中国左翼作家聯盟成員・関係者と 19 人前後の中共成員・関係者が秘密裡に処刑された。魯迅は 2 周年の際に上記の文で胡也頻（丁玲の夫）等「左聯 5 烈士」を悼み，**当局の言論封殺で公に出来なかった「白色恐怖」への憤慨**を表し**痛切な挽歌**を捧げた。彼等は同市に潜伏中の党中央が瀕死の危機に曝された '31 年の 1 月 17 日から逮捕されたが，**中共史上有数の凶年の「1.17」は世紀の交の阪神大地震と趙紫陽逝去でも縁起の悪さ**を現した。

江藤淳（文芸評論家・慶應義塾大学教授）は阪神大地震（'95.1.17）後の『文藝春秋』3 月号で，随想『皇室にあえて問う――民の惨状を余所目になぜに中東へ向われた』を発表した。彼は義兄が終戦翌年の南海地震に次いで今回は神戸で震災に見舞われた事から，朝日新聞社編『史料明治百年』（'66）の年表と東洋経済新報社刊『日本近現代史事典』（'78）の項目に南海地震の記述が無い事に気付き，日本人は「戦後民主主義」で頭が痺れていたからそれが抹殺されていたと推論したが，その**「きれい事で塗り固めた時代」は中国にも適用**する。

結局『戦後史大事典』（三省堂，'91）で発見できた南海地震の記述は，'46 年 12 月 21 日午前 4 時 19 分に起きたマグニチュード 8.0（阪神の場合は M7.2）の大地震で，死者 1 330 人，家屋全壊 11 591・流出 1 451・焼失 2 598 と有るから，江藤淳はこれ程の震災が 20・32 年後に一再忘れられた事に浅からぬ意味合いを感じ取った。戦後の日本人は戦争体験・震災等の人生の一大事に対する感受性を記憶の彼方へ放り捨てたと言うが，**「文革」後の中国人は受難の体験を記憶から遠ざかり延いては消すよう仕向けられて来た**。

90 年代中期から世界 1 の発行部数を維持して来た『讀賣新聞』は，'47・89 年から歳末に読者が選ぶ国内・海外の同年 10 大出来事を発表して来たが，候補事項の発表も投票の締切も 12 月の早い段階に設定される為，南海地震の様な**下旬の出来事は集計の都合で自動的に弾き出される**。世紀級の大事件であるソ連邦解体（'91.12.25），東欧社会主義陣営の崩壊を象徴する羅馬尼亜の独裁指導者夫妻の処刑（2 年前の同日），日朝関係に重大な影響を与える金正日の死去（'11.12.17，19 日公表）等は，**時機と制限の所為**で悉く漏れている。

敗戦の翌々年の「日本十大ニュース」投票の 12 月 6 日募集開始，20 日締切と似て，平成元年「海外 10 大ニュース」の募集開始・締切は 7・20 日である。初日に 61 候補項目を掲げた後も事件が続き，「ソ連水爆 / 改革の父」サハロフ（理論物理学者・人権活動家）逝去（12.14）を追加する葉書が相継いだ（20 位以内に入らず）が，締切日の米国の巴奈馬

侵攻と5日後のシャウシェスク「王朝」瓦解は追加も出来ぬ。「天安門の“血の月曜日”」「“ベルリンの壁”崩壊」が1・2位と為ったが，順当な結果は**中国の好からぬ存在感**を示した。

同年の首位・9位「中ソ，30年ぶり正常化」と比べて，同じ聖誕祭に大事件が起きた'91年には中国は10大に無いが，1・2の「湾岸戦争がぼっ発」「ソ連で“8月政変”，共産党も解体」は，**両超大国が世界の基軸を為した冷戦時代の終焉後の米国「独覇」（単独制覇）**の形成，**ソ連の消滅で中国に「争覇」（覇権争奪）の機会が訪れる可能性**を思わせる。以下「中国で，大水害」が16位で入ったのは，3・9位「比ピナツボ火山が大噴火」「比，台風災害で6千人の犠牲者」と同じく，**内外の自然災害に敏感な慈悲深い国民性**に由る事であろう。

12月8日募集・21日締切の'91年の発表は**間が悪い**事にソ連崩壊の25日に当り，20年後には2〜19日と早め締切日に報じられた金正日の死は除外された。24日の発表は「番外」欄を設けて総題『現れた潮流　消せぬ傷痕』と並ぶ処に掲けたが，'73年交通安全運動標語募集総理大臣賞受賞作の「狭い日本，そんなに急いでどこへ行く」を思い起す。師走の慌ただしさで聖誕祭を越さぬよう下旬を切り捨てる集約は，**季節を先取りし忘年を急ぐ日本人気質**に合うが，**激動の世界の歳末の多事**は**祝賀雰囲気の為に埋没**される事が間々有る。

『朝日新聞』は'77年『讀賣新聞』に奪取されるので部数日本1を長年保っており，故に江藤淳は全盛期の同社編史料集の年表中の'46年南海地震の欠落は腑に落ちなかった。『讀賣』国内10大出来事投票は1年早く始まった場合「12.21」震災はやはり抜けたろうが，制度や作業の不備で生じた空白を一概に平和惚けとして責めるのは酷である。'11年の内・外1位の「東日本大震災，死者・不明者約2万人」「タイ洪水で被害，日本企業も大打撃」の様に，**天を畏敬し人に慈愛を抱く日本人の仁徳は泡沫経済崩壊の20年後も健在である。**

海外編4・6位の「ニュージーランド地震で日本人28人を含む130人以上死亡」「中国高速鉄道で追突事故，40人死亡」，前年1位の「チリ鉱山落盤事故，33人“奇跡の救出”」，'09年1位の「新型インフルエンザ大流行，世界で死者相次ぐ」，'08位2位の「中国・四川大地震発生，被災者1000万人超の未曾有の大災害」，'07年1位の「ミャンマーで反政府デモ，日本人映像ジャーナリスト死亡」，'06年2位の「ジャワ島地震で死者約6000人」を見ても，**同胞被害の有無に関らず天災・事故で心を痛めた人道主義・博愛精神**が伝わる。

'11年の9位「中国が日本を抜き世界2位の経済大国に」は，前年3位の「上海万博開幕，7300万人入場」と共に**中国の眩しい飛躍**を取り上げたが，同じ胡錦涛政権2期目の'07年の3位「中国産品から有毒物質，安全性に不安高まる」は**裏の影**を示した。'05年12月22日の発表で前年12月26日の「インド洋大津波」が「番外」として追記されたが，同年9位の「中国で鳥インフルエンザ死者」は，同じ胡体制1期目の'03年の2位「新型肺炎（SARS）が各国で猛威」に次いで，**衛生面で人類の安全保障へ与える中国発の脅威**である。

'16年の世界の新聞発行部数10傑は日本・印度が各4紙，米国・中国が各1紙で，『讀賣』

『朝日』『毎日』『日本経済』の1・2・6・10位（9.1 / 6.6 / 3.1 / 2.7百万台）は，4・5・8・9位の印度勢（同3.8 / 3.3 / 2.9 / 2.8）より総数が68.7％高い。日本の数値は配達しない分を販売店に押し付ける「押し紙」で押し上げられる処も有ろうが，**人口の1.27億対13.83億と照らせば同じ上位4紙の購読率は約7.5倍の差**も付く。米･中の『USA日刊』『参考消息』（同4.1 / 3.0）と比べて，**20世紀以来の活字文化大国の伝統的な優位**は一層明らかである。

日露戦争（'04.2.8～05.9.5）の**勝敗を分けた要因には軍人の識字率**（100％対57％）が有り，日本の識字率は19世紀末に約7割で英国の2割台前半と仏蘭西の1.5％を遥かに超えた。「文化の無い軍隊は愚鈍な軍隊であり，愚鈍な軍隊は敵に勝てない」という毛沢東の命題（『文化活動に於ける統一戦線』，'44.10.30）は，清朝に続いて極東の新興軍事大国に屈した老大国の敗北で証明できる。中国の識字率は建国の'49年の2割→64年の48％→78年の75％へと着実に上昇したが，**「第2の開国」時の水準は漸く70年前の日本に追い付いた。**

『毛主席語録』（中国人民解放軍総政治部編集・発行，'64）の「三十二　文化・芸術」に，**文化力と戦力の相関**を説くその断言は最後の第8点として収めてある。**教育振興**の結果'10年に識字率が世界第2位の経済大国に相応しい95％に達したが，**毛沢東時代の愚昧と鄧小平時代以来の腐敗**で**軍の資質の低下**は蔽い隠せず，習近平が党首就任の翌月（'12.12）の広東視察で「戦える，勝てる」目標を掲げた程である。'17年体制は識字率を更に高めて行くに違い無いが，**'57年体制下の文化・教育の窮乏・空白は今の指導部に不利な影響を残した。**

『人民日報』の11位（2.6百万部）は日本の『中日新聞』（同2.4）より1つ上であるが，新華通訊社（国家通信社）編・刊『参考消息』（最高は'79年900万）に圧倒されたのは，ソ共機関紙『真理』の世界史上最高の2 150万（'90）→ソ連解体後の後身の73.5万（'08）の衰退と重なる。義務・公費購読の優遇が無くなった事と共に，台湾・香港・澳門を含む域外の記事・論説を満載する『参考消息』の方が，**「党報」の官製・管制の報道に不信を抱く大衆の歓迎**を受ける為，**情理に適う「内低外高」「党低民高」は権力を以てでも解消できない。**

人民日報社・新華社は'19年12月30日に其々国内・国際の10大出来事を選出したが，時機が『讀賣新聞』の相当日数の漏れを回避できても**読者不在**の故に**評価に値しない。「人民」の名を冠する中央の「喉舌」（代弁者）は民意を党の意志の下に置き**，高度自治の香港でも特別行政区長官の直接選挙を許さないのと同様，**制御できぬ読者投票で内外の重大事件の順位を決める仕組みは成り立たない。上意（主君の命令。上位の者の意向）の下達**を担う「党報」は，この選考で**民間・域外の視座・目線との乖離**を露呈させる。

党中央機関紙選の国内の部は，①建国70周年祝典，②党の19期4中全会開催，③全党の「初心を忘れず，使命を明記する」宗旨教育，④中央は香港の暴乱制止・秩序回復を断固支持，⑤「嫦娥4号」に由る史上初の人類探測器の月の裏面への軟着陸，⑥我が国初の国産航空母艦の海軍への納品，⑦大幅減税に由る企業の負担軽減，⑧澳門返還20周年，⑨『台

湾同胞に告ぐる書』発表40周年，⑩粤港澳大湾区（広東9都市・香港・澳門臨海部広域）発展計画発表で，⑤⑦⑩以外は習近平が主導・式典出席・講話を行ったので**党首色が濃い**。

海外10大出来事は重要度でなく時間順で並べるが，1〜5位の「史上初の黒洞の写真公開，宇宙探査の鍵と為る一歩」「各国で相次ぐ恐怖事件，効率的な恐怖対策協力が急務」「4大主場外交，多国間主義を守る中国の大国としての責任感を示す」「米国がイランへの“最大限の圧力”を強化，各国はイラン核合意の維持に努力」「中国が朝鮮半島問題の政治的解決を後押しし，各国は働きを活発化」は，中国を含む国際研究集団の成果の①を初め**自国本位の着眼点**が目立ち，**域外の動乱で域内の安泰を浮彫にしたい魂胆**も見え透いた。

以下の「米国が『中距離核戦力全廃条約』離脱，新たな軍拡競争の懸念を呼ぶ」「英国の欧州連合離脱が延期を繰り返し，欧州統合は複雑な試練に直面」「智利が国際会議開催を中止，多国で社会動乱が勃発」「世界最大の自由貿易協定が全体的に終了，地域協力が高度化」「世界貿易の“最高裁”が機能停止，保護貿易主義が世界に累を及ぼす」も，米国・英国の「地球村」の既成の枠組みからの離脱や，反政府暴動で揺れ動く中南米の経済発展「優等生」智利の窮境に焦点を当て，**中高度成長が続く「超優等生」中国の安定感**を引き立てる。

対して『讀賣新聞』の方は，「香港で学生らが大規模デモ」「ノートルダム大聖堂で大火災」「16歳グレタさん，国連で演説」「北朝鮮，新型SLBM発射」「米，『パリ協定』離脱を国連に通告」「ハノイで2回目の米朝首脳会談，物別れに」「米中，制裁・報復“第4弾”発動」「アマゾンで森林火災が多発」「英下院が解散・総選挙，EU離脱が最大の争点」「英ヘンリー王子に第1子の男児誕生」と為る。香港示威の1位と米中貿易戦の入選は**世界最多の読者群の識見として頷き得る**が，『人民日報』は此等の**「敏感事件」に蓋をし勝ち**である。

国内10大出来事に入る香港示威は6月の勃発の起因と持続・激化の経緯を説明せず，習近平がBRICs（新興大国の伯剌西爾・露西亜・印度・中国）首脳会議（11.14，伯国首都ブラジリア）で，過激な暴力犯罪行為は法の支配と社会秩序を踏み躙る事だと糾弾した発言を眼目とする。澳門返還20周年（12.20）と人大常委会『告台湾同胞書』発表40周年（1.1）の入選も，習が其々澳門で祝典に演説し記念座談会（1.2）で対台宣伝攻勢を掛けた為で，**「定於一尊」の「新時代」の歴史（history）は「彼の物語」（his story）の観が強い。**

胡耀邦逝去30周年の4月15日に巴里の世界遺産が焼失し，伯剌西爾の熱帯雨林の火災続発が8月22日に仏蘭西大統領から「国際的危機」と言われたが，**「米国の夢」を真似て自国の夢を追う中国には対岸の火事**である。瑞典の少女環境活動家が9月27日に気候行動頂上会議（紐育・国連本部）で環境保護を訴えたが，**頂上会議での演説は習近平の治下では「集於一尊」**の傾向が有る。智利の国際会議取消が中国で大事件と為ったのは彼の出番を無くしたのも要因と思え，9年前の同国の鉱山落盤・救出への注目度も日本と逆である。

11. 被害が多い中国の宿命を端的に示す「殺界・凶年」

『讀賣』読者選 '91 年海外 10 大出来事の結果発表は「“天地鳴動” 激変の 91 年」と題し，3・9 位と為る比律賓の火山大噴火（6.9）と大型台風襲来（11.5）が天地の鳴動に当る。国内編 1 位の長崎県雲仙・普賢岳の火砕流（6.3，死者・行方不明者 43 人）と連動する様に，ピナツボ火山の噴火・大爆発（14〜15）で 870 人の犠牲者と 118 万人の被災を齎した。今世紀最大級の噴火と犠牲 6 千人超・被災 74 万人超の台風「テルマ」に対し，我が国民はそんなに罪深いのかとアキノ大統領は嘆いたが，**沈痛な悲鳴は 15 年前の中国にも当て嵌る。**

'05 年発表の際に「番外」で補記した前年の印度洋大津波は印度尼西亜のスマトラ島西北沖で発生し，M9.1 の大地震が起した怒涛が東南亜細亜全域に波及し死者が 22 万人を超えた。当日が生誕 111 周年に巡り合せた毛沢東の死去の 43 日前に，都心の 150キロ東の唐山で M7.5 の大地震が起き 24 万人が死亡した。この **20 世紀最大の天災も人類史上死者最多（83 万人）の大地震（陝西華県，1556.1.23，M8.25）も，中国の多難の宿命を物語る様に歴代の首都が集中する北緯 35〜40 度の地域で猛威を振るった。**

中共史上の「大殺界」は**対敵闘争・対内粛清が激化した '31 年**を始め，**'57 年体制下の '59〜61 年大飢饉と '66〜68 年の「文革」の「紅色恐怖・全面内戦」**が有る。**'87 年体制下の '89 年「6.4」武力鎮圧は短時間・小規模でも質が悪い「中殺界」**と言え，**'17 年体制下は最悪の災厄も流血せぬ「小殺界」**に後退したが，**'19 年新型冠状病毒肺炎の蔓延で '20 年は '89 年以来の政治・経済・社会の凶年**と化し，**華県大地震と同じ「1.23」に発生源の武漢を封鎖し広域で戦時状態に突入**した事変は，**共産党も抗し得ない「天地翻覆」の大難**を思い知らせた。

ソ連邦解体は '91 年『讀賣』年度 10 大出来事読者投票の締切日に本格化し，12 月 13 日のソ連共産党解散を経て，21 日に露西亜等 12 共和国が独立国家共同体の設立宣言に調印し，4 日後の聖誕祭にゴルバチョフがソ連大統領を辞任し，翌日に最高会議共和国会議で消滅が確認された。**「社会帝国主義」超大国の「始皇帝」スターリン**はソ連成立（'22.12.30）の頃から，**不名誉な経歴の隠蔽**の為に生年月日を 1879 年 12 月 21 日に改竄したが，長年ソ連で祝賀された**偽りの誕生日に加盟「合衆」が全て離反に至ったのは飛んだ皮肉**である。

阿富汗斯坦侵攻（'79.12.24）**の干支 1 小巡後のソ連崩壊は天罰**の様にも捉え得るが，最終確認の日は毛沢東の 98 歳の冥寿（故人の誕生日）である。スターリンの本当の生誕（'78.12.18）の恰度 100 年後に 11 期 3 中全会が開幕し，死去（'53.3.5）は周恩来と江青の 55・39 歳の誕生日に当る。**ソ連の独裁者の命日と毛沢東の忠臣と「忠犬」**（江の自称）**の誕生日**は，**'78 年の全人代総会閉幕日，'95・96 年と '98 年以来の開幕日**と為り，**華国鋒から**スターリン歿の 102 日後に生れた**習近平に至る '57 年体制の集権専制志向の残存の象徴**と思える。

21 世紀初の新党首胡錦涛は毛沢東の党首就任（'43.3.20）の直前の聖誕祭に生れ，毛より誕生日が 1 日早い彼は 47・49 歳と為る日に東欧共産圏・ソ連の崩壊に巡り合せた。彼は西藏自治区党委書記として建国後初の戒厳令が敷かれる拉薩で暴乱鎮圧を指揮したが，同日生れの厳家祺は民主化運動を支援した為「6.4」後に指名手配を受け仏蘭西に亡命した。彼等より恰度 10 歳年長の江藤淳は戦後民主主義の微温湯に由る歴史記憶の欠落を斬ったが，胡・厳の運命の分れは**「文革」後の非民主主義の旧弊依然**を端的に現している。

'02 月 11 月～03 年 7 月の広東発・国内外蔓延の非典型性肺炎は当局の隠蔽で対応が遅れ，**世界へ害毒を撒き散らす緊急事態**と為り衛生相・北京市長が問責・更迭された。発生当月の 16 期 1 中全会（11.15）で江沢民が軍委主席に再選され，同日の総書記退任後も '87 年の鄧小平と同じく平党員ながら統帥の座を固守した。前任の鄧の 1.5 期・8 年（'81.6.29～89.11.9）の 2 倍に当る通算 3 期・15 年（～'04.9.19）は，**権力に恋々とする執着で達成した法外な長期残留**で，**鄧をなぞって党首と並ぶ 2 重権力構造を 2 年作った事は害が大きい**。

胡錦涛は党・国・軍 3 権の完全掌握後に**開明・和諧の方向へと軌道修正**を図り，'08 年の汶川大地震（5.12，M8，死者 7 万人）救援・北京五輪開催（8.8～24）から，上海国際博覧会開催（'10.5.1～10.31），世界 2 位の経済大国の実現（'11.2.14 確定）まで，**胡耀邦党首時代の '84～86 年に次ぐ政治的な「小春日和」**を保った。晩秋から初冬に掛けての温かく穏やかな晴天も厳寒の到来を防げず，**'11 年 7 月 23 日に浙江温州市で起きた高速鉄道列車追突・脱線事故を境に，高成長持続の勢いが止まり比較的寛容・自由の空気も暗転した**。

下り坂への「拐点」（転換点）と為る当日は不吉にも第 1 回党大会開幕 90 周年に当り，鉄道部の腐敗・無能を指弾する媒体と「網民」の激憤が続々と噴出した後，「8.1」建軍節から**中央宣伝部の封殺に由り報道・言論の自由は抑圧され**，以来**経済の減速と平行して未だに回復の兆すら無い**。胡錦涛は **'87 年体制の総決算をせず**恰度 10 年と為る党・軍首領 2 期を終えたが，**潔い完全退任で院政を敷く悪習を断ち切った功績**が大きい半面，**突発事故の善処・追及を突破口に新風を齎す変革が出来ず非力の逸機**は惜しまれる。

江沢民が軍統帥権で党首を凌ぎ江派が最高指導部で多数を占めた '03 年の怪病危機は，解放軍総病院外科医蒋彦永少将（70 歳）の米国の媒体への告発で実情が公に為ったが，この大衆の英雄の「6.4」事変の再評価の要請は江・胡錦涛・習近平時代に黙殺されて来た。魯迅の「忍看朋輩成新鬼，怒向刀叢覓小詩。」は「吟罷低眉無写処」でも 2 年後に発表できたが，'89 年の武力鎮圧の 30 年後の新型肺炎に由る死者続出の**惨状と鬱憤は電脳網で直ぐ削除され**，初期に原因不明の肺炎に**警鐘を鳴らした医師は当局の拘束・訓戒を受けた**。

『参考消息』発行部数の国内最多も**情報鎖国に甘んじない大衆心理**の所産と言えるが，同紙の祖型は中共の第 1「大殺界」の露西亜 10 月革命 14 周年の日（'31.11.7），「中華蘇維埃共和国」（同日成立，主席＝毛沢東）の「首都」江西瑞金県で創刊し，毛の意向で '57 年 3

月1日に復刊した。魯迅の墨蹟から4字を寄せ集めて紙名の題字としたが彼の**反骨は皆無**で，**'57年体制の言論管制・情報濾過**は'85年の内部回覧→一般人購読可の開放後も変らず，現に日本放送協会電視の中国関連の報道は今も**不都合な部分を強制的に遮断**される。

'89年から中国の青少年の体格は25年連続低下し続け，7～17歳の男性の平均身長が日本より2.5糎低い水準に在り，**劣化の趨勢**を食い止める当く'14年全人代で改善策が提案された。同時期の男性平均身長の169.7㍍は世界で32位と為り，韓国の174糎・18位と日本の170.7糎・29位に劣る。中国語の蔑称「小日本」の「小」は「ちっぽけな」「器が小さい」の他「チビ」の意も有り，日本の古称「倭」も「矮」（矮小）の含みを持つ。実際にも**身長の「中高日低」は千年単位で続いた**から，**新千年紀からの逆転は衝撃的**である。

数億人の利用者を擁する無料報道配信媒体「今日頭条」（今日の首位記事）の'19年10月5日の記事に，日本人が子供の頃から低身長を克服して行く方法を分析する1本が有った。「牛乳を飲む」「魚を食べる」「忠実に運動する」等が挙げられ，戦後「1杯の牛乳で強い国民を作る」目標で毎日給食に牛乳が出た事が特に感心される。4日前に建国70周年を迎えた政府は20年前から学校給食牛乳計画を推進して来たが，**半世紀も先行し普及度も遥かに高い日本への猛追は儘成らず**，数世代が掛った末の身長逆転の再逆転も数世代が掛ろう。

温家宝総理は'06年4月23日に重慶市江北区乳牛科技園養殖基地を視察する際，子供を始め全ての中国人は毎日1斤（0.5㌔）の牛乳が飲める様に為るという自分の夢を語った。建国の日に22歳と為った前任の朱鎔基は幼少時に玩具に触った事が無く，両親の早逝後に苦学で学業優秀者の奨学金を獲って'47年に清華大学に入った。その経歴から上海市長在任中の科学博物館の見学で目頭が熱くなり，こういう物を作りたかったと感無量に言ったが，**国の未来を背負う青少年への期待と愛情は2人の窮乏体験に基づくから痛切で深い**。

朝鮮労働党機関紙『労働新聞』で'10年1月9日に伝えた金正日の講話は，軍事面でも強国の地位に上がったが民生には不足の点が少なくないと認め，首領様（父君日成）は「人民が白い米の御飯に肉の汁物を食べて，絹の服を着て瓦の家で暮らせる様にせねば為らぬ」と仰ったが，我々は遺訓の貫徹が出来ていないと**真摯に反省**した。2月1日に公表した講話も，人民がまだ玉蜀黍飯を食べている事に一番胸が痛み，今自分がす当き事は白い御飯を食べさせ，小麦粉で作った麺麭や饂飩が自由に食べられる様にする事だと**厳重に自責**した。

金日成死去（'94.7.8）～'98年に**朝鮮戦争休戦**（'53.7.27）**以来最大の飢饉**が発生し，'95年夏の大水害で深刻化した**国難は30万～300万人の死者**を出した。『労働新聞』と人民軍・社会主義労働青年同盟機関紙『朝鮮人民軍』『労働青年』の'96年新年共同社説は，'38年12月～翌年3月の金日成等抗日遊撃隊の転戦に擬えて，「苦難の行軍」の表現で**天災・失政に由る経済的な困難**を乗り越えようと呼びかけた。**「先軍」思考から戦時体制で経済再建を図る常套は上手く行かず，2世首領は2010年代初頭に回復の未達に苛立つ**破目と為った。

中国は10年後の1月に新型肺炎の爆発で**非典型性肺炎危機以上の国難**を突き付けられ，火急な対応が迫られる中で旧暦元日（25）に異例の政治局常委会議が招集された。**前の庚子の'60年は「大躍進」失敗で3千万人が餓死した3年大飢饉の最中**に在り，更に前の**'00年は義和団の乱と8ヵ国聯軍侵攻で朝廷は逃避行と不平等条約の承認を強いられ**，その**60年前は鴉片戦争の勃発で反植民地へ転落する起点**と為った。大晦日まで続いた祝賀気分が急に吹っ飛んだ転変は，**近代元年以来4回目の庚子も凶年に為りかねないと天が告げた**故か。

習近平を核心とする中央の「治国理政（国政運営）新理念・新思想・新戦略」が囃されて来たが，新型肺炎の対応で問われる**真価は国民・世界と歴史の判断を持つ**。彼は23日の新年講話で**1 108万人の都会の戦時状態への突入を顧みず**，胡錦涛時代の「強国夢」の二番煎じと為る「中国夢」の談義に興じた。後手に回る応戦も空しく湖北15市に次いで浙江温州も2月2日に外出制限に踏み切り，**建党90周年時の大惨事の地へ飛び火が及び**封鎖人口が5千万を超えた事態は，**混乱の深層に潜む'17年体制の根本的な欠陥**を思い知らせる。

12，「12歳」の「“文革”少年」の「青春無悔」の欺瞞

江藤淳は多数の人命を奪った'46年の大災害が失念されていた事に就いて，戦後の日本は**天災・戦争に一切直面せず**，同年の天皇の「人間宣言」（1.1）や「食糧メーデー」（皇居前広場での飯米獲得人民大会，5.19）の様な制度の変革が全てだと錯覚し，**平和惚け**の「戦後民主主義」に呪縛された儘50年を行り過して了った，と**恵まれた状況の負の側面**を指摘し，平成に改まると冷害・地震等の嫌な事ばかり続き，記紀万葉の古から記録が無い阪神間に起きた関東大震災（'23.9.1）以来の惨事は，**物心両面の甚大な損失**を齎していると説く。

彼は人々の故郷の風景が地震で奪われた事を掛け替えの無い**文化の喪失**と捉え，慣れ親しんだ風景が2度と帰らない事こそがこの震災の最大の損失だと見る。自分が戦後50年に片時も忘れずにいた悲しみの根源は，幼少年時代に育った風景が戦災に由って根刮ぎ奪われた事に在り，文士稼業を40年も行っているのは，失われた風景を想像裡に復元する場所は言語空間にしか無いと思い定め，脳裏にまざまざと今も甦るあの懐かしい風景を他者と分ち合う手段は文字しか無い，という述懐は**精神風土の貴重さと再生の困難**を思わせる。

江藤淳が敗戦を迎えた12歳はマッカーサーの「日本人は12歳」発言を連想させるが，彼の米軍元帥は連合国軍最高司令官として日本占領に当った後の議会証言（'51.5.5）で，独逸人はアングロサクソン並みに科学・芸術・神学・文化で言わば45歳ぐらいの成熟に達しており，日本人は歴史が古いのに**現代文明の基準では12歳の少年**の様で教えを受ける立場に在ったと語った。**基本概念や新しい様式を受け入れ易い程に白紙に近く**柔軟性も有ったという趣旨の比喩は，彼への**被占領国民の崇拝を幻滅に変えたが有益な示唆は**否めない。

終戦時の昭和天皇の第1皇子明仁（後の平成天皇）は数え年12歳（'33.12.23生）であったが，占領軍統帥が**小学6年生に当る年齢層**で未熟を譬えて言った日本人は**貪欲な学習・奮闘**に由って，**平和国家を築き上げ「33歳年長」の独逸から世界第2位の経済大国の座（'55～68）を奪った。敗戦後23年掛った快挙に対し中国は改革・開放32年後に同じ「準優勝」**を果したが，'12年から君臨して来た習近平（'53.6.15生）は「文革」勃発時13歳に為る直前で，**「"文革"少年」群が国の頂点・中枢を占める**今や「12歳」は興味深い鍵詞と為る。

'17年選出の**現最高指導部（政治局常務会）成員の「文革」勃発時の年齢**は，習近平が12歳1ヵ月，李克強総理（'55.7生）が10歳10ヵ月，栗戦書全人代委員長（'50.8）が15歳8ヵ月，汪洋政協全国委員会主席（'55.3）が11歳3ヵ月，王滬寧中央政策研究室主任（'55.10）が10歳7ヵ月，趙楽際中央紀律検査委員会主任（'57.3）が9歳2ヵ月，韓正第1副総理（'54.4）が12歳1ヵ月と為る。**生年が朝鮮戦争勃発の2ヵ月後～「反右派闘争」開始の3ヵ月前に分布した7人の平均は，「虚歳」（数え年）12に当る11歳10ヵ月**である。

10月4ヵ月余り続いた「文革」の終了時の7人は19.5歳～27歳に達し，平均22歳2ヵ月は通常なら大学卒業の年齢に当るが，**開始時に小・中学生だった彼等の'76年10月時点の学歴**は，**栗の高校卒業を除いて全員が中卒に止まり，「文革」中の学校教育の粗末に由って高が「15歳」**に相当する。**習は長い「知識青年上山下郷」（'69.1～75.10）の後に大学に入ったが，選抜試験を受けぬ**労働者・農民・兵士の**推薦入学は質が低く**，彼が化学工程学部に**在籍した清華大学は新入生の普遍的な無学で鄧小平に「清華中・小学」と揶揄された。**

王滬寧は「労農兵学生」として上海師範大学幹部学校外国語育成班で仏蘭西語を学び（'72.?～77.?），趙楽際は最後の「労農兵学生」として'77年2月に北京大学哲学学部に入り，習近平の卒業（'79.4）の9ヵ月後に学業を終えた。12年振りに復活した入試で北大法学部に受かった李克強の学歴（'78.3～82.2）は，王の「文革」後の復旦大学国際政治学部修士課程・学位取得（'78.?～81.?）と共に立派であるが，官職在任中の習・李の博士号取得（'02.1，94.12）等も含めて，**全体的には「含金量」（価値含有量）が高くない**。

正規の入試で正規の大学に入り所定の期間を学園で過したのは，李克強の学士課程と王滬寧の修士課程しか無い。王の最初の大学在籍は所属・身分とも非正規ながら，未成年（18歳以下）から国連公用語兼作業語を学ぶ有益な経歴である。修士号取得時の25歳台は通常の**最短距離と余り変らず**，復旦大学国際関係学部教師～教授（'81～94）等を経て，江沢民・胡錦涛・習近平政権の**中枢の理論家と為った必然性**が有る。対して習・李の大学卒業時の25歳10ヵ月と26歳7ヵ月は，**「文革」の被害に由る立ち遅れ**と言わざるを得ない。

張抗抗は大多数の同世代人は真の文化・知識を持たず「知識青年」の称に相応しくないとし，大半の最終学歴と為る中学の「文革」前の教材は意識形態の刷り込みを重視し過ぎて，知識の構造に於いて極めて大きな欠陥が有る，と上記の随想で指摘した。**「狼の乳を飲んで**

育った世代」説に同調した根拠として，我々の知識の中で最も層が厚くて烙印が深い部分は人類の優れた古典的な文化ではなく,「階級闘争」「知識無用」等の教条主義や『毛主席語録』,「革命模範劇」の歌詞，紅衛兵が「経験交流」中に書き写した大量の論説だ，と断じた。

彼女はこの世代の深刻な「貧血」の現れとして，大部分の知識は「文革」後に猛烈な独学で支離滅裂に寄せ集めた代物(しろもの)だと言い切る。人材の断層に由って最先端技術(ハイ・テクノロジー)や高水準の経済・貿易活動に従事する人材や上級管理職の比率が極めて低く，自分も含めて殆どの人は1種類の外国語を熟練な程に習得していない，と**高い障壁(へき)を乗り越え難い力不足**を嘆く。故に大多数の人は普通の熟練労働にしか従事できず，社会の金字塔(ピラミッド)の底辺を為し今（'90年代後期）一時解雇(レイ・オフ)や定年退職に直面している，と**知識の貧弱が齎(もたら)す生活の窮乏**を語る。

彼女は同世代の**「青春無悔」（青春に悔(く)い無し）の真っ赤な嘘**に苛立ち，**我慢ならぬ赤裸々(せきらら)な真実**を開陳して**痩(や)せ我慢に一石(いっせき)を投じた**。件の4字熟語は黒澤明監督の『わが青春に悔なし』の漢訳『我対青春無悔』（我(われ)は青春に対し悔いが無し）の影響が有り，敗戦の翌年に連合国[G]軍最高司[H]令官総司[Q]令部の推奨で出来たこの民主主義宣伝(プロパガンダ)映画（'46）は，戦前・戦中の集権独裁主義(ファシズム)統治下で自由・平和の信念を貫いた人々の姿を映し出すが,**「文革」前～中の集権独裁の被害者の真情**は,**「青春？無！悔！」（青春？無い！悔しい！）**と言う当(べ)きか。

張抗抗は下郷中の'72年に『解放日報』（上海市委機関紙）に処女作の短篇『灯』を発表し，4年の労働を経て実家で療養中に下郷先の黒龍江省北大荒の人間模様を描く長篇に取り掛り，'75年に『分界線』の題で上海人民出版社より刊行し60万部の大当(ヒット)りと為った。出世(デビュー)後'77年から省芸術学校脚本創作班で1年間勉強し，'79年に省文学芸術工作者聯合会の専属作家と為り，翌年に『夏』で全国優秀短篇小説賞に輝いた。25歳で小説家として名を成し30歳で一流作家に伍した**成功者だけに,「文革」世代の青春への悔(かい)恨は極めて重い**。

『わが青春に悔なし』の主題(テーマ)の「自我の確立」から「三十而立」（30にして立つ）を連想するが，見事(みごと)に達成した張抗抗は同じ孔子の**「吾十有五而志於学」（吾十有五(われ)にして学に志(こころざ)す）の意欲が満(み)たされず**，15歳時の「文革」勃発に由り杭州第1中学の初級卒業後に高校の閉鎖(へい)で進学できなかった。「文革」後の大学入試復活の直前に始まった高等専門学校での短期特訓は27～28歳時で，**最早(もはや)青春が無い実感**は48歳時の**「慰撫できぬ歳月」の感慨の下地**と為ったろうが，**戦争で青春を台無しにされた26歳年長の山崎豊子と好一対**を成す。

地球規模の社会派文学の巨匠として知られる山崎は'24年に大阪船場の老舗昆布(こんぶ)屋で生れ，相愛女学校を卒業し京都女子専門学校に入った'41年に太平洋戦争が勃発し，大学2年生の時に**学徒動員令が下りて軍需工場で毎日弾磨(たまみが)き**を行(や)らされた。其処で体調不良の為の休憩(けい)中バルザックの長篇『百合(ゆり)の谷間』を読んだ処，将校に罵倒されその**仏文学の名著を敵国の本として没収された**事も有る。『毎日新聞』大阪本社に就職した翌年の3月13日に大阪大空襲で実家が全焼し,恋人(こいびと)が戦場で散った傷心の体験と共に**全人類平和への希求を強めた**。

「戦争3部作」中『不毛地帯』（'73～78）・『二つの祖国』（'80～83）に次ぐ『大地の子』（'87～91）で，著者は**敗戦・「文革」の大難を生き抜いた**在華日本人孤児の**波乱の運命**を描いた。改革・開放後の**日中合作製鉄所建設と絡む壮大な物語**は**人類愛と今日的な意義**に由って，多くの反響を呼び完結の年に連載誌の読者賞と菊池寛賞を受けた。後者の贈呈式で受賞の喜びを述べた後，席へ戻る途中で言い忘れた事を思い出して，車椅子を押す秘書に再び壇上へ行くよう命じたが，人生最良の日を締め括る補足の言葉は**「文革」世代の共鳴**をも誘う。

秘書野上孝子の『山崎豊子先生の素顔』（文藝春秋，'15）の回想に拠ると，「私は戦争中，大学生でした。軍需工場に徴用され，勉学の機会がほとんどなかった。もし今，神様に，最後に何を叶えて欲しいかと問われたら，私の青春を返して下さい，ということに尽きます。勉強したかったのです」，と腹の底から絞り出す様な声で訴え満場の轟く拍手を博した。**「戦争」「大学生」「軍需工場に徴用」を「文革」「中学／高校生」「農村に下放」に変えれば，「文革」で青春を侵蝕された無数の中国人の心の叫び**に為ろう。

山崎豊子は『不毛地帯』刊行直後の'78年9月に布哇州立大学から客員教授の招聘を受け，1年の在任は日米戦争中の日系2世の悲話で織り成す『二つの祖国』の着想の契機と為った。幸い戦争が迫り来る時代でも私立の女学校には短期間の英会話の授業が有ったから，講義・滞在に必要な英語は英会話学校へ通って補強し11月に意気揚々と赴任した，と言う。**改革・開放発足直前の当時の中国では英会話の授業・学校は乏しく**，山崎が本格的に学んだ**17歳時からの真面な外国語学習の経験は，現最高指導部の中で王滬寧しか持っていない**。

習近平は'15年9月9日に北京師範大学で教師等と座談した時，貴州遵義市の小学教師劉軼（36歳，女性）が「総書記，我叫您“習大大”可以嗎？」（総書記，「習大大」［習伯父さん］とお呼びしても可いですか）と訊くと，“Yes.”と答え一座の笑いを誘った。教師・学生が掲げた標語の「習大大辛苦了（御疲れ様です）」を見て会心の笑いを見せ，「好好好」（好いね）と連発した御満悦と共に，**新党首への新型の個人崇拝を表す新尊称を自ら公に承認した第1声**と為り，翌年の『現代漢語詞典』の【大大】の立項にも繋がった。

『大地の子』の参考文献には，劇作家蘇叔陽の伝記文学『大地之子――周恩来的故事』（大地の子――周恩来の物語。中国少年児童出版社，'82，第1回国家図書賞受賞［'93］）が有り，山崎豊子は故総理邸を訪ね夫人に尊崇の念を伝えたので題名の構想への影響も考えられる。**鄧小平も「最後の皇帝」の異名を否定する様に「中国人民的児子（の息子）」と自ら遜って称したが，両偉人の「遜称」**（造語）と対照的な**尊称「大大」の全国流行と当人公認**は，**'57年体制への逆戻りと毛沢東の再来を裏付ける**出来事として歴史に残る。

第30回「教師節（の日）」（9.10，木曜）の行事の前倒しは，**毛沢東逝去39周年の際その長女李敏の母校と次女李訥の附属中学の母体に臨む**事や，遵義（政治局拡大）会議（'35.1.15～17）の開催地の者に代表質問を行らせる演出と合せて，**赤軍長征中の転換点で党・軍指**

導者の地位を樹立した毛への表敬の意味合いも感じる。公表された遣り取りは当局の意に沿う**模範問答**と言えるが，「可以嗎？」（しても可いか）に対する承諾は「可以 / 行 / 好」が普通なのに，**新時代の「非凡」な党首の画期的な意思表示は意表を衝く“Yes.”**と為る。

13. 党首「独秀」で露呈した同世代の語学力の貧弱

習近平は初心銘記と謳って政治局常委の初党大会跡拝観を行ったが，当時の代表 13 人中 4 人が日本留学経験者で 3 人が共産国際代表（和蘭・露西亜人）の発言を通訳し，清華大学が中・小学に堕ちた**「文革」世代の語学初心者とは隔世の感**が有る。初代総書記陳独秀は ’02（21 歳）～15 年に日本で 4 回の留学・亡命をし，’17～19 年に北京大学文科学長（学科主任）を務めた。同じ創設者の李大釗も ’13（24）～16 年に早稲田大学政治学科等に在籍し，’17 年に北大教授（経済）兼図書館館長と為り，**百年後の ’17 年体制の面々とは雲泥の差**が有る。

次の党首瞿秋白は ’17 年（18 歳）から外交部所轄の俄文専修館（露西亜語専門学校）で学び，’21～23 年に莫斯科の東方大学で留学し，’23 年に上海大学の初代教務長兼社会科主任に任命され，**革命家と並行して作家・翻訳家・文学評論家としての活動も盛ん**である。後任の向忠発は労働者出身で数ヵ月のソ連・欧州滞在歴が有るものの指導能力が無く，実質的な大権を握る李立三は ’19（20 歳）～21 年に仏蘭西で勤工倹学を行い，語学力はマルクス主義の原著を読破した程だから，**無産階級の政党でも最高指導者は無学では務まらない**。

次の博古も ’27（20 歳）～30 年にソ連の中山大学に留学し，遵義会議で総責任者に推された張聞天は ’20（20 歳）～21 年に渡日，’22～24 年に渡米，’25～31 年にソ連に留学・滞在した。歴代党首の中で海外経験が最も豊富で語学力が一番の彼を取って代えた毛沢東は，建国（55 歳）後の 2 度訪ソ（’49.12～50.2，57.11）を除いて海外渡航が無いが，**歴史・文学の古典に精通し文章・書法・詩詞を能くした大知識人**である。後継者の華国鋒は小学卒で**学力が戦争・政治・外交の実績と同じく不足**で，**基礎的な資質の不適応も長期執政を妨げた**。

次の胡耀邦は中学中退の低学歴ながら**読書家**で団中央時代に対外交流の経験も有り，後任の趙紫陽は高校中退で改革・開放前は地方在勤が多く外国との往来が少なかった。最高実力者の鄧小平は周恩来・李立三等と共に仏蘭西で労働しながら勉強した事が有るが，**毛沢東以来の歴代党首と同じく高度で熟練した語学力を身に付けていない**。江沢民は ’43（17 歳）～47 年に大学で勉強し ’54～56 年にソ連で技術特訓を受け，胡錦涛は ’59（同）～65 年の大学在籍後に母校→地方に転勤し，習近平は中卒後の ’69 年初（’15 歳）に下郷させられた。

陳独秀の名は熟語の「一枝独秀」（[一世に] 独り秀でる）に含まれ，逆の「百花斉放」（種々の花が一斉に咲き揃う）は ’56 年の中共の標語として，科学・文芸等が自由・活発に行われる事を表すが，**1 党独裁に拍車を掛ける陳並みの「家長」毛沢東の「一枝独秀」**に由って，

翌年「万花紛謝一時稀」（万花紛れ謝る一時は稀ぬ）の様な**蕭条の局面へ突入**した。後の『七律　冬雲』（'62.12.26，69歳の誕生日）のこの句は，結びの「凍死蒼蝿未足奇」（凍死せる蒼蝿ありとも奇るに足らず）と共に，図らずも**政治的な厳冬の到来を予告**した。

『現代漢語詞典』の【秀】（xiù）は第5版（'05.6）に舶来の意が追加され，語釈・用例・語源は「表演；演出：作～｜時装～｜泳装～。［英 show］」（演技［する］。公演［する］。「見世物を行う」「新型服装発表会」「水着展示会」。［英語 show］）と為り，**「優秀」の含みが show の「誇示」と通じる**妙味を持つ。『広辞苑』の「ショー【show】」は「（示す意）①人に見せるための催し。見世物。興行。“ワンマン・―”“ロード・―”②軽演劇。寸劇。③展示会。発表会。“モーター・―”“ファッション・―”」の中，①の最初の例は正に「独秀」である。

日本の '05 年新語・流行語大賞に時の首相の「小泉劇場」が選ばれ，小泉純一郎が在任中（'01～06）に用いた政治手法は「劇場型」と命名された。報道媒体が命名し**た「劇場政治」**は，単純・明快な謳い文句を打ち出し報道機関を通じて大衆に支持を訴える大衆迎合主義で，敵対勢力を悪役に見立てて自ら民衆の為に闘いを挑む姿勢で関心を集める手法である。**煽動力の強い「激情政治」**でもある彼の流儀と通じる**習近平の「政治秀」の独演会**は，**「反汚職・腐敗」の旗標で国民の喝采を得て政敵排除**を遂げている。

習近平は建国初期（'59.4）の毛沢東と同じく党中央・党 / 国家中央軍委・国家の3主席を2期務め，**3（職）位1（身）体制**復活（'93）後に党・国家主席2期・両軍委主席3期（'89～05）を務めた**江沢民も及ばぬ大欲**で，各分野の十数の「領導小組組長」（指導集団の長）・委員会主任 / 主席を兼ねている。**常識的な限度・体力的な限界・規約上の制限を超える集権は段階を追って拡大・増加・激化**し，'19 年2月に全政治局委員が彼に各自の書面「述職」（職務報告）を提出して，中央への同措置が免除される**別格「一尊」**の彼は評定を行った。

「吾十有五而志於学，三十而立」と同じ『論語・為政』に在る孔子の言は，「為政以徳，譬如北辰居其所而衆星共之。」（政を為すに徳を以てすれば，譬えば北辰の其の所に居て衆星の之に共うが如し）と言う。「北辰」は『広辞苑』の「（北天の星辰の意）北極星。または北斗七星のこと。帝居または天子のたとえ。懐風藻“千秋に―を衛るべし”」に対し，『現代漢語詞典』の「㊀古書上指北極星：衆星環～。」（㊀古書で北極星を指した。「衆星が北辰を廻る」）は，**北斗7星も含む多義を排除して1極突出の1義に限定**する。

天球の北極（地球の自転軸の方向）から約1度しか離れていない輝かしい北極星は，日周運動に由る位置の変化も殆ど無いので方位・緯度の指針と為る。北斗7星は北天の大熊座に在り斗状を為す7つの明星で，1昼夜に12方を指し古代から時間の測定に利用された。斗柄に当る第6・7星を結ぶ線の延長上に北極星（同座の首星）が在り，**北斗7星が仰ぎ見る形で北極星を環視する**構図の裏返しで，**北極星が至高の天辺から取り巻きの衆星を瞰視する**形象は，**拱手**（両手を組み合せて胸元で上下する）**敬礼を昂然と受けている**様に映る。

建国15周年記念の大型音楽舞踏史詩（歴史劇）『東方紅』（東の空が赤く染まる）に，陳亜丁・任紅挙作詞の『紅軍戦士想念毛沢東』（紅軍の兵士は毛沢東を懐かしむ）が有る。冒頭の「擡頭望見北斗星，心中想念毛沢東。」（空を仰げば北斗星が見え，心の中で毛沢東を懐かしむ）は，遵義会議前の毛の指導部復帰に対する人々の期待を表す。後に各々の組織への毛の支持を渇望する紅衛兵は殊に愛唱したが，**唯我独尊の北極星ならぬ北斗の７星並列は個人崇拝に抵触した**所為か，見立ては「指路灯」（道を照らす灯。道標）に変えられた。

'57年体制の最高指導部は8期5中全会（'58.5.25）の増補に由り，毛沢東主席＋劉少奇・周恩来・朱徳・陳雲・林彪（追加選出）副主席＋鄧小平総書記と為り，票決に必要な奇数構成で北斗星と同じ7人は党規約（'56.9）の**集団指導の原則**に則った。**「文革」前期の毛・林「1主・1副」体制と後期の毛「1強」，「文革」後の華国鋒「独秀」**時代を経て，**胡耀邦・趙紫陽党首の8年は陰の君主鄧小平の周りに集まり，衆人が中心の1人を推戴する／祭り上げる「衆星拱／捧／托月」（衆星が月を取り囲む／支える／際立たせる）**の様相を呈した。

江沢民「核心」と胡錦涛「非核心」に次ぐ習近平「核心」は毛沢東以来，初めて在任中に党規約で自己名義の思想を指針と定め**「定於一尊」の絶対権限を公にした**。建党大会会場跡で他の6常委が彼の後ろ数㍍の処で1列に控えた光景から，北極星と北斗星の距離の様な**主役と配役の強弱格差**が浮かび上がる。林彪は次期党首の地位確定後も常に毛の影を踏まず2～3歩の間を置いて随行したが，**後継者候補を立てず3歩以内の接近を好まぬ様な習の断然首位の突出・独走は，他の最高指導部成員が只々手を拱いて後塵を拝す**程である。

習近平の「独秀」で**毛沢東・江沢民に遜色が有る領域は「秀英語」（英語力を見せびらかすこと）**で，自国民の質問に“Yes.”で答え更に英語を披露する事が無い「表演」は，両領袖・「核心」と比べて些か芸が無く逆に**英会話の不得手を浮彫にしかねない**。毛は'75年10月21日にキッシンジャー米国務長官との会見で“Yes.”で答え，相手の要請で紙に書いて記念に贈ったが，習に示唆を与えたかも知れない英単語の使用は外国人が相手であるし，毛が様々な場で使った英語は周恩来が御世辞半分で称えた様に単語量が多い。

毛沢東は'70年12月18日に米国の報道人スノーと語り合う**5時間の内20回英語**で喋り，「文革」中の「全面内戦」の説明として“all-round civil war”と言い，**朝野が自分を礼賛する「4個偉大」（4つの「偉大」）への嫌悪**を吐露する時，「偉大的導師、偉大的領袖、偉大的統帥、偉大的舵手」（偉大な教官［指導者］，偉大な領袖，偉大な統帥，偉大な舵手）を“Great Teacher, Great Leader, Great Supreme Commander, Great Helmsman”で伝え，自分は昔も今も教員だから“Teacher”だけ残して後は全て辞退すると語った。

毛沢東は'73年に38歳の上海党・政No.3王洪文を周恩来に次ぐ副主席に抜擢し，農民・兵隊・労働者・造反派指導者の経歴と若さに**過分な期待**を掛けたが，翌年その**浅薄・不勉強**に失望し後継者に育てる計画を断念した。12月23日に鄧小平の処遇に就いて訓示する際，

彼を指差して周恩来に「Politics 比他強。」（Politics［政治］が彼に勝る）と言い放ったが，英語が解らない王には通じなかった。毛は紙に「人才難」と書いて周は鄧を褒める「人才難得」（得難い人材）と解釈したが，文字通りの**人材難は時の国難の現れ**として深刻である。

鄧小平が最後に党首に起用した江沢民は毛沢東の最後の後継者華国鋒より学歴・学力が上で，器用貧乏の嫌いが有りながら英語・露西亜語・仏蘭西語・日本語・羅馬尼亜語等を少し話せる。彼は '00 年 10 月 27 日に董建華香港行政長官が北京で職務報告を行う間，董の続投への支持は「欽定」の意味が有るかと訊く香港の記者に不快を隠さず，「問的問題（その質問は）too simple, sometimes naive.（単純過ぎる。時に幼稚だ）」と叱った。**大国の首領に相応しくない癇癪として顰蹙を買った**一幕は，一定の英会話力の証明材料に為る。

江沢民は英語で「亜米利加独立宣言」（1776）の全文暗誦が出来る事を自慢し，朱鎔基もリンカーン米大統領のゲティスバーク演説（1863）等を諳んじ得る。朱は「反右派闘争」で失脚後に英語教師を務めた事が有り，82 歳時の自著英訳版出版の際に流暢な英語で談話を発表し内外の人々を感心させたが，'47（19 歳）～51 年に清華大学で学んだ賜物である。77 歳の誕生日の直前スノーに英単語の習得を示した毛沢東は 17 歳から学び始めたが，江・朱の様に**英語の経典を齧る事も無く，治下の多くの青少年の英語習得の機会を奪った**。

歴代総理中の周恩来・朱鎔基・李克強は英会話が能く出来ると言うが，**倶に党首に為れなかった**事は興味深い。日本首相でも**政界一の「英語屋」宮澤喜一は政争が拙く**，在任中（'91～93）自民党下野・'55 年体制崩壊を招いた。藤原正彦（数学者・お茶の水女子大学教授）は『国家の品格』（新潮社，'05）で，英語教育より国語教育の充実が重要だと主張した。胡適（学者，北京大学教授・駐米大使・台湾の中央研究院院長）が中共随一の白話文の使い手とした毛沢東は，その正当性を現す様に**語学が強い張聞天より 10 倍も長く大権を掌握**した。

語彙が貧弱と自称した自民党の最大派閥の領袖小渕恵三は，「ボキャ貧」が新語・流行語大賞特別賞を受けた '98 年に総裁選で**数の優勢**を発揮し，**「軍人」梶山静六・「変人」小泉純一郎を下し「凡人」の底力**を見せた。彼は翌年 5 月 1 日に市俄古の野球試合の始球式で投球し，その際競技場から観客席へ向って“I came here today to support Cubs, because Chicago is my kind of town.”（私は今日此処に来てカブスを応援します。市俄古は私が好きな都市だからです）と語り，地元球団を持ち上げ親善を訴求する挨拶で会場を沸かせた。

野球帽に隠れた紙に書いてある英文をちらりと見て読み上げたのだとも報じられたが，解答・発表の助けと為る記述等を書いた秘密の紙片が有ったとしても，本場で不慣れの英語・野球に挑む全力投球は称賛に値する。彼は早稲田大学大学院政治学研究科の 2 年目（'63，26 歳）海外視察に出て，30 数ヵ国への歴訪は海外渡航自由化が日本より 33 年遅い（'64 → 97［団体解禁］）中国では有り得ない。**「凡宰」**（報道人・実録文学作家佐野眞一の評）**の旺盛な「独秀」は命を縮めて了い，習近平の全権独攬の「超限」危険性**を思わせる。

14. 政界要人の誤読常習に見る国語力・総合学力の不足

小渕恵三の「語彙貧」と対を成す首相の国語の弱点として麻生太郎（'08～09 在任）の漢字誤読が有り，彼は 3 歳年上の小渕の学習院中等科在籍に対し同初等科・大学を卒業し，海外留学・勤務経験で培った**英語力は通訳を介さず演説・会談できる**が，「未曾有 / 怪我 / 焦眉 / 踏襲」を「みぞうゆう / かいが / しゅうび / ふしゅう」と読み間違える等，公家子弟の教育の為に 1847 年に開講され，皇族・家族の為に '77 年に再開された**名門に相応しくない漢字習得の不十分**が露呈し，要人演説の原稿の難読字に読み仮名を付す慣習の強化に繋がった。

安倍晋三首相は '15 年 4 月 29 日に米国上下両院合同会議で英語に由る演説を熟したが，「次を強く」「顔を上げ拍手促す」と書き込まれた手持の原稿の写真が米紙で大きく出た。'13 年 2 月 28 日の施政方針演説の原稿中の「（間を取る）」「（拍手）/（水を飲む）」も写真週刊誌で曝されたが，「他人事」「感謝の意を表そう」の振り仮名は**誤読防止の効用を持ち過保護ではない**。**用心の甲斐**が有って史上最長の在任中の失敗は「背後 / 云々」→「せいご / でんでん」等と少なく，1 歳年長の中国の同期首領と比べても**文化大国の体面を保っている**。

習近平は 20 ヵ国集団杭州頂上会議の開会式演説（'16.9.4）で，先秦の史籍『国語・晋語四』の「軽関易道，通商寛農」（関税を軽くし道路を整備し，通商を進め農政を緩和する）を，「農」（nóng）の簡体字「农」に因る勘違いで「衣」（yī）と読み，**笑止千万**の「寛衣」（服を脱ぐ）に為った。党中央・国務院主催の改革・開放 40 周年祝賀大会（'18.12.22）で「金科玉律」（金科玉条）を「金科律玉」，「頤指気使」（顎で指図し顔付きで人を使う）を「頤使気指」と読む等，**神話化された「知の巨人」の常用熟語さえ定着し切れぬ落し穴**が現れた。

明治大学政治経済学部卒（'52，24 歳）の佐藤孝行はロッキード事件で有罪判決が確定した（'86）後，'97 年 9 月に念願の入閣（総務庁長官兼中央省庁改革等担当大臣）を果した時，記者会見で「過ぎたるは猶及ばざるが如し」と受託収賄の前科に関する質問を躱したが，孔子の「過猶不及」の和訳と為るこの熟語は『広辞苑』の語釈の通り，「［論語先進］度を過ぎてしまったものは，程度に達しないものと同じで，どちらも正しい中庸の道ではない」の意で，**『論語』読まずの『論語』知らずの意味誤認**は**戦後の政治家の劣化**の現れと言える。

「親の顔が見たい」（『広辞苑』の項＝「よその子供の言動に驚き呆れたような場合にいうことば」）に因んで，言語表現の不出来に呆れる日本流の諷刺として「小 / 中学の国語の先生の顔が見たい」と有るが，習近平の数々の「念錯・口誤」（読み間違い・言い間違い）は親・教師には責任が無い。父親は中央宣伝部長・内閣秘書長を担当した程の才覚の持主で，通っていた北京 81 学校は名門校だから，13 歳時の**「文革」勃発で教育機関が全て閉鎖され読書も儘成らぬ時代**こそが，**国語力と総合的な学力の後天的な不足**を齎した。

毛沢東の晩年の英語教師・通訳を経て外務省亜細亜局次長を務めた章含之は，'53 年（18 歳）に北京外国語学院に入り，'60 年に同大学院を卒業し同大学で教鞭を執ったが，**「文革」前期の荒廃**の所為で外務省入りした '71 年には英語が錆びて了った。“escalator”の訳語を知らず先輩の上級通訳官に「滾梯」と教えられた事は，階段状昇降動力装置が普及していない**経済的な立ち遅れ**と共に「一窮二白」の国情に合う。養父章士釗は民国の政治家で古典文学研究等の著書も有ったが，彼女は周恩来が評した様に**文化の素養が遠く及ばない**。

章含之は「越俎代庖」の意味が解らず訳せなかった事で周恩来に宥められたが，日本の漢字能力検定 1 級と為る 4 字熟語は昔の中国の知識人なら知っている。『広辞苑』にも【越俎】が有り，「［荘子逍遥遊］（料理人が料理を怠っても，神主は酒樽や俎を越って代りをするものではない意の原文から）自分の職分を越えて他人の権限内に立ち入ること。越権。“―の罪”」と為る。外国に移植した**古い言葉が脳裡に無い「語彙貧」は知識の貧弱**に由来し，**老荘思想も孔孟の道も封建社会の遺物として追い遣られた時代の被害**でもある。

周恩来は田中角栄首相との会談で孔子の「言必信，行必果」（言は必ず信ず，行いは必ず果す）を引いたが，古典に疎い中国側の女性通訳官王効賢（41 歳）は紙に書いて貰って漸く理解した。ニクソンとの会談で中国側の通訳官が相手の“parallel”を「平行」と直訳すると，米国側の男性通訳官フリーマン（28 歳）は大統領発言の主旨との乖離を指摘し，「殊途同帰」（途を異にして帰を同じうす）とす当きだと主張した。感心した周は彼が台湾で中国語を習得したと聞いて，**台湾は古典を大事にする点で我々に勝っている**と感嘆した。

行く道は異なっても帰着先は同じだという意味の 4 字熟語は『淮南子・本経訓』が出典で，非母語話者がこれを使い熟し首脳会談で母語話者の字面通りの訳語を差し替えさせたのは，**教養・文化と言語の格調を重視する台湾の国語教育の成果**と言える。一柳哲央著『強い中国は「清華」が作る――13 億人を支配する「清華大学」エリートの全貌』（ぶんか社，'03）に有る通り，**中国の知識人は能く 4 字熟語で思想を表現する**。習近平は**「文革」前卒の胡錦涛の清華同窓生**だけに，「金科玉律」「頤指気使」の語順を間違えたのは訝られる。

日本の要人の演説・答弁原稿の漢字に読み仮名を振る慣習の起源は未詳であるが，お笑い芸人から大阪府知事と為った（'95～99）横山ノックの場合なら，最終学歴が小学校卒業で漫才一筋に励んだ経緯から必要性が有るとしても，『ミカドの肖像』（小学館，'87）で大宅壮一ノンフィクション賞を獲った作家猪瀬直樹まで，東京都知事（'12～13）在任中の答弁原稿に同様の措置が施された。首相演説原稿中の「十二月」等までが明るみに出た事は体裁が悪く，**度を超す忖度の逆効果も一種の「過猶不及」**であろう。

'17 年流行語・新語大賞に選ばれた「忖度」は『広辞苑』で，「（“忖”も“度”も，はかる意）他人の心中をおしはかること。推察。“相手の気持を―する”」と説明・例示されるが，『現代漢語詞典』の「動推測；揣度：～時勢。」（動推測する。推し量る。「時勢を推量する」）

は違う。**他者の内心への推察**の意を含む類義語の「揣測・揣度・揣摩・揣摸・揣想」は，「揣摩」が日本語に入り「事情をおしはかること。あて推量。臆測」（同）と為る。**日・中の「忖度 / 揣度・揣摩」は処世術に用いられ，林彪・張春橋は正に忖度上手で毛沢東の信任を得た。**

安倍首相の米国会演説の 10 年前（'05.4.29），胡錦涛は北京で台湾の国民党主席連戦を歓迎する際，『論語』の冒頭の「有朋自遠方来，不亦楽乎？」（朋有り遠方より来たる，亦楽しからず乎）を引いたが，秘書は**万全を期して**「楽」（原文は「説」）の読み方を専門家に訊ね，間違い易い lè（「快楽」の「楽」の発音）ならぬ yuè（「音楽」の「楽」）と把握して置いた。日本の熟語は「訊くは一時の恥，訊かぬは末代の恥」と言うが，孔子の「不恥下問」（下問を恥じず）の提唱を実践した確認は，**一生乃至死後まで付いて回る失態**を回避できた。

胡錦涛までの党首講演原稿の拚音（中国語の標準語の羅馬字発音表記）附記は聞いた事が無いが，抑々**報道規制の下で手持の原稿に対する望遠拡大撮影と自主発表は許されない。但し電脳網時代の文明の利器の尖端化に由って管制の「天網」も疎漏を免れず**，習近平は安倍晋三首相の初使用（'13.12.14）後の文章表示電子補助装置導入で内情を曝された。建軍 90 周年記念大会（'17.8.1）で演説が電視中継される時に，透明板内の原稿の中「歸」に付した「音 kui」の提示が不意に撮られ，**映像は盆に返らぬ覆水の様に拡散・再生**されて了った。

「歸」は「帰」（gui）と混同し易いから要注意にされたのであろうが，「歸然不動」（巍然と動かず）に出ているので誤読の恐れが余り無い。『現代漢語詞典』の【歸然】（語釈＝「〈書〉形高大独立的様子」［〈文章語〉形高く聳つ様］）の例文に，「～不動」が「～独存」（巍然と独り立つ）の前に有る。**毛沢東の詞**『西江月　井岡山』（'28 年秋）の「敵軍囲困万千重，我自歸然不動。」（敵軍に囲困まる万千重なれど，我自歸然動かず）は，習近平は**若い頃から数え切れない程に放送で聴き自ら諳んじたはず**で，「歸」で躓く事は考え難い。

『現代漢語詞典』の【風光】の第 1 用例「北国～」（北国の風光），【風流】の形❶「有功績而又有文采的」（功績が有り文才も有る）の用例「数～人物，還看今朝。」（風流の人物を数えんには，還今朝を看よ）は，毛沢東の詞『沁園春　雪』（'36.2）の首・尾である。七律『長征』（'35.10）の冒頭の「紅軍不怕遠征難，万水千山只等閑。」（紅軍は遠征の難きを怕れず，万水千山只等閑）は，【等閑】の「〈書〉❶形平常」の 3 番目の例文と為り，毛が長征を形容した**中共の「宣言書・宣伝隊・種蒔き機」の役割**はこの辞書にも有る。

拚音を付けた補佐官は習近平の 1 世代（20 年）下の '73 年頃生れなら，3 歳時に終った「文革」の記憶は無く開放的な '80～86 年に小学校で勉強し，**「狼の乳を飲んで育った世代」の様な毛沢東の言説に由る洗脳**も少なかろう。'18 年 5 月 6 日に広東省深圳市書記王偉中は習の講話を「刻進骨子里，融入血液中，落到行動上」（骨に刻み込み，血液に融け込み，行動に移す）と唱えたが，**毛の著作の学習に関する林彪の指示を略丸写しした礼賛**に因んで言えば，毛の「歸然不動」等が**習の骨・血に組み込まれた**程度が実感ではないかも知れない。

2日前の北京大学創立120周年記念大会で林建華学長は失態を演じ，「立鴻鵠志」（鴻鵠の志を立てる）の「鵠」（hú）をhàoと読んだ。『現代漢語詞典』の【鴻鵠】（hónghú。「〈書〉㊀天鵝，因飛得很高，所以常用来比喩志向遠大的人：～高翔｜～之志。」［〈書〉㊀白鳥。非常に高く飛ぶので，能く遠大な志の持主の比喩に用いる。「鴻鵠高く翔ぶ」「鴻鵠の志」］），『広辞苑』の同項（「鴻と鵠。大きな鳥をいう。転じて，大人物」）と違って，海外に輸出した**由緒有る格調高い単語**で，**文系最高学府の長の有るまじき誤読は末代の恥**と為った。

『広辞苑』には【鴻鵠の志】も立項され（「［史記陳涉世家］大人物の遠大な志」），関連の【燕雀】（「ツバメ・スズメのような小さな鳥。小人物にたとえられる」）の成句に，【燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや】（「［史記陳涉世家］〈秦末の陳勝が，若い時に大言を嘲笑されたのに対して言った語〉小人物は大人物の遠大な志を知ることができない」）と有る。『現代漢語詞典』の【燕雀】は鳥の身体・食生活の習慣を詳説するが熟語の出番が無く，「燕雀安知鴻鵠之志哉」に辿り着けないので，**漢籍に対する重視の度合は日本の類書に劣る**。

『広辞苑』の【正鵠】の「（セイコウは慣用読み）」の併記は「鵠」の難読を示すが，語釈・用例「［礼記中庸］①弓の的の中央の黒ぼし。②ねらいどころ。物事の急所。要点。“一を誤る”」，成句【正鵠を得る】（「物事の肝心な部分を正しくとらえる。核心をつく。“正鵠を射る”とも。“その推察は正鵠を得ている”」）は，**儒教が尊ぶ四書五経に由来した語句の常用度**を思わせる。『現代漢語詞典』の【四書】【五経】以上に【四書五経】【四書集注】【四書大全】が有る事も，**「坑儒」「批孔」（孔子批判）の歴史の有無と関る両国の違い**を窺わせる。

『日本国語大辞典』の【正鵠】は「〖名〗（“正”は鳥，正（鴟鳥）を描いた革の的。“鵠”は鳥，鵠［くぐい］を描いた革の的。一説に“正”は正しい，“鵠”は直［すぐ］の意とも）」と説明し，「①弓の的。的のまんなかにある黒点。くろぼし」の漢籍典拠として，「礼記－射義“孔子曰，射者何以射，何以聴，循レ声而発而不レ失二正鵠一者，其惟賢者乎”」が付してある。和文用例の初出は「西国立志編（1870－71）〈中村正直訳〉一三・六」であるが，**文明開化の洋書翻訳で孔子語録を生かす知性は1世紀後の中国の儒教排除の蛮性と対照**を為す。

「②物事のかんじんな部分。要点。急所。また，めあて。目的」と「③（形動）物事の核心をついていること。また，そのさま」は，其々903年頃と1916年に生れた和製語義である。和製熟語の【一を得（え）る】【一を失（うしな）う】【一を射（い）る】【一を失（しっ）する［＝逸（いっ）する］】（初出年代＝1893，'99，1926，'33/55）も加わって，『現代漢語詞典』の不採録が示す中国語の「正鵠」の使用頻度の低下とは逆に，**古層の漢単語に対する漢字文化大国の母国以上の盛んな再生産・繁殖**の好例と為る。

東京大学では学長が不様な誤読で敲かれた事は無く，学生も市井で正解率が低い「鴻鵠」は読めるし解るであろう。'18年8月5日のTBSテレビ試問遊戯番組『東大王』で同校の「知の壁」が天才高校生軍団と対決する時，小人物には大人物の考えや志が分らぬ事に譬え4

種類の鳥を含む成語が出題されると，水上颯（医学部５年生）が即座に「燕雀安くんぞ鴻鵠の志を知らんや」と答えた。先輩の伊沢拓司（同年東大大学院中退）と仲間の須貝駿貴（東大院生）の座右の銘もこれだから，**高い習得・共感度は時の中国の最高学府の長を上回る。**

15. 旧時代の隔世遺伝に映る「新時代」の硬直化・劣化

林建華は翌日に学生向けの詫び状で「鵠」の発音に馴染が無く**国語の基礎が弱い**事を認め，小・中学時代に「文革」の教育停滞で教科書の無い状況が数年続き，漸く入った教科書も簡単過ぎて系統的で完全な基礎学習が出来なかったと言う。知識を吸収する意欲が最も強い10代の頃に行らされたのは『毛主席語録』の暗唱や，『毛沢東選集』とソ連の社会主義に関する幹部養成用教材の勉強で，中国の近・現代史の知識は最初『毛選』の本文・注釈に拠る物だ，という白状は**「狼の乳を飲んで育った世代」の学力発達障害**の１例を提供している。

内外の貴賓も居る席上で「鵠」を「浩」の発音で読み，「莘莘学子」の「莘」（shēn）を風馬牛の「菁」（jīng）と読んだ失敗は，**個人の「汗顔」「慚愧」では済まされぬ集団的な不名誉**である。『現代漢語詞典』の【莘莘】〈書〉形（形容衆多。［衆多を形容する］）の用例が「～学子。」で，【学子】〈書〉名「学生」の用例「莘莘（shēnshēn）～（很多学生）。」（括弧内の４字は「大勢の学生」の意）は，高校生以上と想定した読者の為に難読字に拚音を付け意味を説明しているが，**大学学長が身に付けない儘に学生に発したのは噴飯物**である。

’55年生れの林建華は’73～78年に内蒙古の農場で中学教員を務め，’78～82年に北京大学化学学部で勉強し，卒業後は同学部教授を経て重慶・浙江・北京大学の学長を歴任し，全人代常委・外事委員会副主任でもある。痛手を受けた後の屈辱的な謝罪で無知を曝し出した上に，「焦慮と質疑は何も価値を創造し得ない」と問題視する向きへ逆襲したが，悪足掻きは反撥を買い誤読の失点と共に５ヵ月後の異動の遠因に為った。理系の専門家に文系名門を司らせたのは適所適材だとしても，**「知識青年」世代の弱点に由る落し穴**が無視できない。

’57年体制元年に武漢で生れ’75年に同市の工場で就職し３年後に役人と為った阮成発は，習近平政権第１期に中央委員候補・武漢市委書記・雲南省長に出世し，第２期に中央委員に昇格したが，雲南省長代理在任中の滬昆（上海―昆明）鉄道開通式（’16.12.28）で挨拶する際に，滇越（雲南―越南）鉄道の「滇」（Diān）を２度も「鎮」（zhèn）と読んだ。**行政首長が治下の１級行政区の略称の発音を完全に間違える怪事**は住民の不満を招き，後の北大学長の「鵠」と同じ要人「口誤」年度特別賞（造語）該当の誤読は不可解である。

『現代漢語詞典』の【滇】の名❶「雲南的（の）別称」の用例「～紅｜～川公路」は，雲南産紅茶と雲南―四川自動車道を指し，子項目の【滇紅】【滇劇】（雲南の地方演劇）も含めて広く知られる。日本語でも字・音が中国語に由来した「滇」は『広辞苑』の説明の通り，

「①漢代，雲南方面に拠った西南夷の一つ。前一〇九年，前漢の武帝に降り，漢の属国となった。②中国雲南省の別称」の意しか無い。中国語では❷「姓（の１つ）」も有り何れも常用字ではないが，**在職博士課程学習歴**（'98～01）**を持つ以上これは読めて然る当き**である。

人名・地名を採録しない『現代漢語詞典』には出ないが，『広辞苑』には【滇池】の項が有り，語義は【昆明湖】（Kunming Hu）の「①中国雲南省昆明の南方，標高約一九〇〇メートルの高原にある湖。滇池。昆明池」である。全国有名の観光地で在勤か否かと関係無く「鎮池」と**誤読する教養人は居ない**が，倪成発は省長就任後の '17 年 2 月 20 日に外交部・省政府共催の「魅力雲南」宣伝広報活動で，雲南の名高い撫仙湖の「仙」（xiān）を「优」（「優」の簡体字。yōu）と読んだから，**国語・地理とも常識が不完全**である事を自らばらした。

歴史鑑・土地勘・言語感の必要性はその不備で改めて思い知らされるが，「鎮越」は「越南を鎮定する」意を連想させるので有り得ない禁句である。対越関係を配慮して国境に在る鎮南関を「睦南関」に改名した周恩来は，若し知ったら厳しく叱るであろうが，**未熟な秘書の原案の字句を直す時の愚痴**の様に，何故自分が君の国語教員に為らなければ行けないかという心境に陥るであろう。佐野眞一は『凡宰伝』（文藝春秋，'00）で**日本の政治・社会の劣化**を指摘したが，**'57 年体制の隔世遺伝の感が有る '17 年体制でも劣化の進行が急**である。

習近平は '16 年 12 月 12 日に第 1 期文明家庭代表と会見する際の講話で，家庭は人生の最初の教室であり家長は子供の最初の教師であるとし，家庭は子供が人生の最初の釦を掛け最初の階段に上る事を手伝う必要が有ると語った。**最初の釦の掛け違いは後に矛盾や不都合を生じる為，「第一粒扣子」（1 個目の釦）の比喩は言い得て妙**である。彼は要人子弟として良き家庭・学校の教育に恵まれたが，**時代に狂わされた 9～22 歳時の不本意な境遇**が物語る様に，**2 個目以降の釦も掛け間違えればもっと大変な事に為りかねない**。

家庭・家庭教育・家風への重視を喚起する講話の 2 点目は，**家長（特に父母）が子女へ与える重大な影響**を強調した。**中国古来の家庭教育の手本**として先ず**「孟母三遷」**を挙げたが，**孔孟の道を斥ける毛沢東時代の名残**で『現代漢語詞典』の数多い熟語項にはこれは無い。**漢字文化遺産の保護・活用に熱心な日本**では，『広辞苑』には【孟母三遷の教え】（「［劉向列女伝］孟子の母が住居を，最初は墓所の近くに，次に市場の近くに，さらに学校の近くにと三度遷しかえて，孟子の教育のためによい環境を得ようとはかった故事」）と有る。

同じ【孟母】（「孟子の母。賢母の代表とされる」）の成句項として，【孟母断機の教え】（「［劉向列女伝］孟子が遊学の半ばで帰省した時，その母が，織りかけの織布を断って，学問も中途でやめれば，この断機と同じだと，孟子を戒めた故事。断機の教え」）も有り，【断機】（「機の糸を断ち切ること」）には「→孟母断機の教え」の参照指示が付く。より有名な「孟母三遷」との併記には**儒教の亜聖の母親への尊敬**が感じられるが，本家の中国の『現代漢語詞典』には「断機」「三遷」とも入らない。

【三遷】（「［劉向列女伝］孟子の母が，孟子の幼時，住んでいる環境が孟子に及ぼす影響を考えて，墓地の附近から商業地へ，さらに学校附近へ三度居を遷してその教育に心を用いたこと。三遷の教え。孟母三遷」）も，語釈の最後に出る4字熟語を諄い程に説いている。「文革」中に毛沢東語録を引く時の枕詞は「偉大領袖毛主席諄諄教導我們説」（偉大な領袖毛主席は諄諄と我々を教え導かれるよう斯く説いておられます）と言うが，**漢籍の智恵を紹介する日本の国語辞書の教示は正に「諄諄」（丁寧に繰り返し教え戒める様）**である。

『日本国語大辞典』に拠ると一連の語句は上陸順で，「孟母」（1463～64頃）→「三遷の教え」（1529）→「孟母の三遷」（1647）→「孟母の三居」（1786）→「孟母断機」「断機の教え / 戒め」（1892）→「孟母三遷」（1926）と為り，**15世紀から世紀毎に増えて来た**。最後の初出「明治大正見聞史（1926）〈生方敏郎〉憲法発布と日清戦争・二“孟子の話も孟母三遷の話も，父母からも聞き先生からも聞いてゐた”」は，**「大日本帝国憲法」発布（1889）以降の強国形成期に於ける儒教の影響や，近代化に対する伝統的な教育の寄与**を示す。

習近平が次に薦めた「岳母刺字」（岳母刺青を彫る］）は南宋の武将岳飛の母親の故事で，息子の背に彫った入れ墨の**「精忠報国」は幼い頃の習の脳裡に深い印象**を与えた。異説の「尽（jìn）忠」（忠誠を尽す）と微妙に違う「精（jīng）忠」は，『現代漢語詞典』では『広辞苑』の「私心を交えない純粋の忠義。純忠」と異なって，「形（対国家、民族）極其忠誠」（形［国家・民族に対し］極めて忠誠である様）と定義される。用例の「～報国」が示す様に**国家・民族への尽忠に限定**し，**極端・過激な愛国心・自民族至上主義を導く魔力が潜む**。

【報国】は「動為国家効力尽忠」（動国家の為に力を出し忠誠を尽す）の意で，用例の「以身～」（身を以て国に報いる）の次が「精忠～」である。【尽忠】は「動❶竭尽忠誠。❷指竭尽忠誠而犠牲生命」（動❶忠誠を尽す。❷忠誠を尽して生命を犠牲にする事を指す）の両義を持ち，用例は其々「～報国」と「為国～」（国の為に忠誠を尽して犠牲に為る）である。**究極の尽忠は死を賭す覚悟が要り死に至る事が有る**という原理に由って，同じ「尽忠報国」でも『広辞苑』の「［北史顔之儀伝］忠義を尽くして国に報いること」とは**迫力が違う**。

毛沢東はスターリンに中共軍の「視死如帰」精神を語る時，ソ連の通訳官に意味を説明し岳飛が使った表現だと紹介した。『広辞苑』の【死を視ること帰するが如し】（語釈＝「死ぬことを自分の家に帰ることのように考える。従容として死を恐れないことにいう」）には，出典の「大戴礼曾子制言上」が記してあるが，岳飛は確かに**滅亡を恐れず従容たる死を帰着とした**。皇帝下賜の「精忠岳飛」の軍旗を掲げて金の侵攻を撃退した彼の民族の英雄は，**朝廷への愚直な忠誠の悲劇的な結末**として宰相秦檜の奸計で長男雲と共に処刑された。

習近平が**岳飛の忠・勇に魅かれた契機は母親が与えた「小人書」（児童の読み物。絵物語）**『岳飛伝』であり，彼が言う通り子供の家庭教育は「牙牙学語」（あーあーと物を言い始める）の段階に始まる。家庭教育は人間の形成を決定付けると言った極論は若し**社会を「大家庭」**

と捉え，家長に父母を凌ぐ家父長制と統治者も加わるなら，毛沢東時代以来の**中共治下の国家の実情と合致**する。【牙牙学語】を収録した『現代漢語詞典』は各年齢層の**言語学習の指南**に当るが，**毛時代の「家教」は習時代に為っても同類の育成の為に複製されている。**

❶の例文に毛沢東の『長征』の句を充てた【等閑】の項では，❷副「随随便便；軽易」（いい加減に。安易に）の例文は，岳飛の詞「満江紅」の「莫～白了少年頭，空悲切。」（等閑にする莫れ少年の頭も白くなり了り，空しく悲しみのみ切なる）であり，❸副「無端地；平白地」（何の謂れも無く。故無く）の例文「～平地起波瀾。」は，『広辞苑』の【平地に波瀾を起こす】（「［劉禹錫竹枝詞］穏やかなところに強いて波風を起こす。好んで事を荒立てるのにいう」）の通り唐詩を使うが，**毛の作を同じ不朽の名句として普及する意図**が読み取れる。

「紅軍不怕遠征難，万水千山只等閑。」と首・尾を為す「更喜岷山千里雪，三軍過後尽開顔。」（更に喜ぶよ岷山千里の雪，三軍過ぎて後尽開顔）も，【開顔】（「動脸上現出高興的様子」［動顔に嬉しい形相が現れる］）の「～而笑」（破顔一笑）に次ぐ用例と為る。上の「金沙水拍雲崖暖，大渡橋横鉄索寒。」（金沙の水拍ちて雲崖暖かく，大渡の橋横たわりて鉄索寒し）も，【搶渡】（「動搶時間迅速渡過［江河］」［動一刻を争って［大河を］迅速に渡る］）の「紅軍～金沙江」（紅軍が金沙江を強行渡河）に，**毛沢東の遺産と亡霊の一端**を覗かせる。

楊継縄は毛沢東の「試看天地翻覆」から『中国文化大革命史』の題名を取ったが，【試看】（「動試着看看；請看」［動試しに見てみる。見て御覧］）の例文は，毛の雑言詩『八連（第8中隊）頌』（'63.8.1）を結ぶ「軍民団結如一人，～天下誰能敵。」（軍民団結一人の如く，試みに見よ天下誰敵い能るかを）である。模範部隊を讃える旨で建軍36周年の日に書き，生誕89周年の'82年12月26日に軍総政治部機関紙『解放軍報』に発表された詩は，**「初めに国父有りき」の固定観念と「先軍」傾向の選好**を反映して初版から使われている。

【長城】の図❶の紹介も史実と共に**始祖・軍を尊ぶ中国・中共の伝統**に基づいて，「我国古代偉大的軍事性防御工程。始建於戦国時期，秦始皇統一中国後，連接原先秦、趙、燕北面的城墻并加以増築，長度超過一万華里，所以也叫万里長城。後代多有増建或整修。」（我が国の古代の偉大な軍事的防御の工程。戦国時代に建設が始まり，秦の始皇帝が中国を統一した後，元の秦・趙・燕の北側の城壁を繋げて増築した。長さは1万華里を超え，故に万里の長城とも呼ぶ。後世に建て増しや修補が多い）と為る。

初版に基づく❷「比喩堅強雄厚的力量、不可逾越的屏障等：中国人民解放軍是保衛祖国的鋼鉄～。」（強固で充実した力や越えられぬ障壁を譬えて言う。「中国人民解放軍は祖国を防衛する鉄鋼の長城だ」）は，国連教育科学文化機関（UNESCO）が**人類の普遍的な価値観**を認め**世界遺産**に登録した万里の長城を，**中共の特殊な価値観**に由って**政権の樹立・維持の主力の「党（指導下の）軍」**に見立る。**秦の始皇帝が整備した雄大な防壁と中共建党世代が創設した強壮な軍隊の並列**は，**国家の滅亡も政権の転覆も永遠に有り得ない認識を植え付ける**効果が有る。

16.「先軍」等の初心・伝統を銘記・堅持する先祖返り

毛沢東が詩で称賛した部隊は '49 年 5 月から上海の南京路に駐屯し，中国最大の繁華街に身を置きながら誘惑に負けず悪風に染まらぬ節操で名を成した。軍・南京が登場する毛の七律『人民解放軍占領南京』（人民解放軍，南京を占領す。'49.4）では，「天地翻覆」の類義語が第 4 句の「天翻地覆慨而慷」（天を翻し地を覆さんと慨而慷）に出る。流石に【天翻地覆】には盛り込まれていないが，第 2 句の「百万雄師過大江」（百万の雄師大江を過る）は**毛の言説の浸透**として，【雄師】㊀（「雄兵」［強力な軍隊］）の例文「百万～」に使われる。

鄧小平は '84 年 3 月 25 日に中曽根康弘首相から生涯最大の快事を訊かれた時，蔣介石を討伐し長江を渡った時が最高に楽しかったと答えた。彼が第 2（中原）野戦軍政治委員として合同指揮に当った渡江戦役は，4 月 21 日の夜に発動し破竹の勢いで 23 日に首都南京の攻略に至った。長征途中の雲南・四川で金沙江・大渡河を強行に渡った時（'35.5.23・29）の中央紅軍は総数約 1 万人で，僅か 14 年で投入兵力だけで 100 倍に膨らんだから，**赤壁の戦**（208）**の曹操軍の 83 万人を上回る中国史上最大規模の作戦**は確かに**壮観・痛快**である。

毛沢東が「鉄砲から政権が生れる」と唱えた地で 40 年後 '67 年 5 月 16 日（「文革」開始 1 周年）に，公称成員 122 万人の「武漢地区無産階級革命派百万雄師連絡総站」が成立した。武漢で何回も長江を泳いで渡った毛は 7 月に群衆組織の対立を収拾する為に赴いたが，20 日に「百万雄師」成員と武漢軍区独立師団の兵隊が別の要人の処に雪崩込んで抗議した際，至近距離に居た彼は政変と勘違いし慌てて遁走し上海に避難した。毛の詩から名を取った大軍団は当局の断罪で瓦解し，**勇ましい 4 字新熟語は多数の犠牲で血に染まった**。

『新 4 軍軍歌』（集団作詞，何士徳作曲）の冒頭の「光栄北伐，武昌城下，血染着我們的姓名。」（栄光ある北伐，武昌攻略，我等が名は血に染まる）の中で，「血染」は初発表（'39.6.15）で「鐫刻」（歴史に刻む）と作ったが，軍部首脳陣の審議で**流血の貢献**を強調する陳毅の修正案が採用された。陳は 1 年半後の皖南事変で新たな血に染まった同軍の後任首長と為ったが，上海の初代党・政首長在任中も外相に転任した（'58.2）後も「文革」開始に至るまで，**「新 4 軍軍歌」は上海人民広播電台**（無線放送局）**の開始音楽**であり続けた。

陳毅は第 3（華東）野戦軍司令官として上海占領（'49.5.27）を遂げたが，解放者の特権で前身と為る部隊の**軍歌を治下の地盤の国営放送局で毎朝に流させた**のは，**「野・戦」の字面に暗合する個人 / 特定勢力崇拝・「先軍」の嫌い**が有る。国際都市での洗脳も元帥外相の任命も毛沢東時代らしいが，北京の電報大楼（電報局社屋）屋上の巨大な時計も毎日の 7 時・22 時に，毛・中共讃歌『東方紅』の旋律で早・晩の節目を広く告げ，**数十年 1 日の如く毛の存在を主張**しその**亡霊の徘徊を助長**して来た。

「百万雄師」の修飾語は『現代漢語詞典』で，「㊀一百万，泛指巨大的数目」（㊀百万，広く極めて大きな数を指す）と説明され，用例「雄兵～｜～富翁」（「勇兵百万」「百万長者」）の順は，**中共政権の「先軍」→「致富」（財成）の歴程**と合う。【雄兵】（「㊀強有力的軍隊」［㊀強力な軍隊］）の用例も「～百万」であるが，毛沢東を讃える**「胸中自有雄兵百万」（胸中に自ずと勇兵百万有り）**は，［宋］唐庚の詩句「胸中自有百万兵」に無い「雄」が添え，南宋の大儒朱熹著『五朝名臣言行録』に見える「腹中自有数万兵甲」より**数十倍も多い**。

「胸中自有雄兵百万」は建国前の毛沢東の初代護衛長閻長林の言で，所収の建軍30周年回想文集『星火燎原』叢書（総政治部編，'58～61）は，毛が題名揮毫の要請に唯一応じた書籍である。『現代漢語詞典』の【星火燎原】が参照を指示する【星星之火，可以燎原】は，五経中の『書経・盤庚』の「若火之燎於原，不可嚮邇，其猶可撲滅？」（火の原に燎え，嚮邇す可からず，撲滅す可からざるが若き）に由来し，元は小さな面倒が大きな禍に発展し得る事の譬えであるが，**毛が弱小の新しい物事の生命力と前途を形容し「中共語」と化した。**

極小さい火を表す【星火】[1]の「～燎原」，大火が野原を焼く意の【燎原】の「～烈火｜星星之火，可以～」の様に，毛沢東が林彪宛の手紙（'30.1.5）の公刊時に題としたこの8字は，『広辞苑』の【燎原の火】（「勢いがさかんで防ぎとめることができないさまの形容」）とは別の経路で現れ，**古い経典を駆逐した新しい経典として国語辞書で幅を利かせる**。第4代党首秦邦憲の通用名「博古」を含む**「博（bó）古通今」（古に該博で今に精通する）は，毛時代以来の「薄（bó）古厚今」（古を軽視し今を重視する）に取って代えられた。**

国語力が殊に強い温家宝総理は'10年全人代総会閉幕日（3.14）の記者会見で，古訓の「行百里者半九十」（百里を行く者は九十里を半ばとす）を引いて，今後数年の道程は依然として平坦でなく**慢心を戒めればならぬ**と語った。「美女通訳官」と囃された外交部翻訳室の上級翻/通訳者張璐（'77年生）は，“Half of the people who have embarked on a one hundred mile journey may fall by the way side.”（百里の旅で半分の人が途中で諦める）と英語に直し，直ちに「網民」から**古典に対する理解が浅い故の誤訳**として糾された。

『広辞苑』の【百里を行く者は九十里を半ばとす】は，「［戦国策秦策］何事も仕上り近くが肝心であるから，九分通りの所で気を引き締めなおせ，というたとえ。百里の道は九十九里を半ばとす」である。『現代漢語詞典』では**長らく欠落**した後'16年の新版で立項し，「行程一百里，走了九十里才算一半，比喩事情越接近成功越困難，用於勉励人們做事要善始善終。」（100里の行程で，90里を行った処が半分と為る。事が成功に近付く程難しい事に譬え，事を運ぶのに終始を全うする必要が有ると人々を激励するのに用いる）と説明する。

『広辞苑』の漢籍由来の熟語に【亡羊の嘆】が有り，「［列子説符“大道は多岐にして以て羊を亡い，学者は他方にして以て生を喪う”］（逃げた羊を追うのに岐路が多くてその行方を失って嘆く意）学問の道があまりにも多方面に分かれているため，真理の得がたいのを嘆

くこと。また，方法に迷って思案にくれること。多岐亡羊」と為る。【多岐亡羊】の語釈は「転じて，方針が多すぎてどれを選んでよいか迷うこと」とも言うが，羊(ひつじ)の飼育・食用が少ない日本に於ける活用と対照的に，**学者の求道の困難を表す熟語は中国では廃(すた)れ気味(ぎみ)**である。

『現代漢語詞典』に有る【亡羊補牢】は，「羊丟失了，才修理羊圈（語本《戦国策・楚策四》：“亡羊而補牢，未為遅也”），比喩在受到損失之後想辦法補救，免得以後再受類似的損失。」（羊を失った後，始めて羊小屋(ごや)を修理する［出典は『戦国策・楚策四』の「羊を亡(うしな)いて牢を補(おぎな)う，未(いま)だ遅しと為さず」］）。損失を蒙った後に，再び類似の損失を蒙らないよう方法を考えて補う事の譬え）である。総理発言の「行百里者半九十」の誤訳の後に次の次の版で立項されたのも，遅きに失しながら**再発防止の善後策として意義**が有る。

その穴埋めに対し前の頁の【星星之火，可以燎原】の類の**「中共語」は，歴史が浅い割には使用頻度が高く官製辞書の必要性も有って随所に出ている**。「我自巋然不動」の「自」（【自】[1]❶「自己」［自分］の意），「胸中自有雄兵百万」の「自」（同❷「圖自然；当然」［圖自ずと。当然］の意）と違う【自】[2]「㠯従；由」［㠯〈前置詞〉から。より］の用例に，「～北京出発｜選～《人民日報》」（「北京から出発」「『人民日報』より」）と有るが，正(まさ)しく**首都・党中央の「喉舌」発の言説手本を為す国語辞書の影響力が大きい**。

毎日『東方紅』の曲で時を告げる北京電報大楼の1階の営業庁(ホール)は'17年6月15日から移転し，中共中央宣伝部の対外広報庁(ホール)への変貌は**'17年体制の発信拠点の伝統継承の表徴性**を持つ。『人民日報』の創刊はその69年前と「新4軍軍歌」発表の7年後の同じ「6.15」であるが，5年後のこの日に生れた習近平の同紙の利用は**'71年建党記念日（7.1）社説**から，「党政軍民学，東西南北中，党是領導一切的。」（党・政・軍・民・学，東・西・南・北・中，党は一切を指導するのだ）という毛沢東語録を引いて，'17年党規約に入れた事まで有る。

習近平は総書記当選（'12.11.15）後の初地方巡視として12月7～11日に広東を廻り，鄧小平の'92年南巡をなぞって先ず深圳に行き，鄧の彫像に献花し改革・開放路線の堅持の姿勢を示した。胡錦涛は総書記再選（'07.10.22）後の12月5～6日に中央書記処全員を率いて，7期2中全会（'49.3.5～13）の会場跡（河北省平山県西柏坡(はくは)）を訪れ，**建国直前の集団指導と謙抑・清廉(れん)の継承**を印象付けた。書記6人中の筆頭習は党首就任後の第1歩で「第2の開国」の始祖の像を参拝したが，彼が図る第3の新時代は**隔世代の先祖返りの観が強い**。

習近平は'13年初日の全国政治協商会議新年茶話会に於ける講話の結語の冒頭で，「這里，我想起毛沢東同志当年写下的詞句：“東方欲曉，莫道君行早。踏遍青山人未老，風景這辺独好。”」（此処に，私は毛沢東同志が往年に書いた詞(うた)の句を思い起します。「東方暁(あけ)んと欲(ほっ)す，道(い)う莫(なか)れ君(きみ)が行(こう)早し。青山(せいざん)を踏みて遍(あまね)けれども人未(いま)だ老(お)いず，風景は這辺独(こちらのみ)好し。」）と述べた。総書記当選直後の新政治局常委会の御披露目(おひろめ)で行った**所信表明に次ぐ初心吐露**（造語）は，**毛及び**この『清平楽　会昌』（'34年夏）の時代の**紅軍(せき)への心酔(すい)を鮮明に表した**。

孔子は「言必信，行必果」と通じる主旨で，「始吾於人也，聴其言而信其行；今吾於人也，聴其言而観其行。」（始め吾人に於ける也，其の言を聴きて其の行を信ず。今吾人に於ける也，其の言を聴きて其の行を観る）と説いた。人との関りで**先ず相手の言葉を聴き次にその行動を判断する**手順は，「言行」の語順や「初めに言有りき」の原理に合う。**習近平の言は「神」（中共「国父」）と共に在り自ら「神」（神格性）を**含む感じがし，**亡き領袖の言説を好く援引する事は毛沢東時代の「母乳」（中共徴の母語）で育った世代の習性**である。

毛沢東は'66年7月8日に江青宛の手紙で**政治的遺言**めく自己分析や国の未来図を綴ったが，中の「自信人生二百年，会当水撃三千里。」（自ら信ずる人生二百年，会に水を撃つこと三千里なる当し）という若い頃の詩は，習近平が建党95周年記念大会（'16.7.1）と「5.4運動」100周年記念大会（'19.4.30）で引いた。林彪への不安等を記した「文革」初頭の書簡は「9.13事変」後の72年5月に，副統帥・後継者を逸早く洞察した**無謬性の証明**として内部で公開されたが，**青年期の豪語は19歳の習に感激させ血に融け脳裡に刻まれた**であろう。

17.「親父」と一脈相通ずる「申し子」の自家中毒

習近平は党首在任中に平均年5点の頻度で毛沢東の詩作を講話に盛り込み，**毛生誕120周年記念座談会**（'13.12.26）**で堰を切った様に最長・最多の引用**をした。存命中に発表した詩・詞の中で一番早期の『沁園春　長沙』（'25）から，一気に「書生意気，揮斥方遒；指点江山，激揚文字」（書生の意気，揮斥に方に遒かりき。江山を指点い，激むると揚むる文字もて），「問蒼茫大地，誰主沈浮？」（問う蒼茫たる大地よ，誰か沈浮を主る），「到中流擊水，浪遏飛舟」（中流に到りて水を撃ち，浪飛ぶがごとき舟を遏めしこと）を取り上げた。

長征開始の前年～終了年の4点として，『菩薩蛮　大柏地』（'33年夏）の「装点此関山，今朝更好看。」（此の関山を装点りて，今朝更好看），『十六字令三首』（'34～35）中「其二」の「倒海翻江卷巨瀾」（海を倒に江を翻し巨瀾を捲く），『憶秦娥　婁山関』（'35.2）の「雄関漫道真如鉄」（雄関道う漫れ真に鉄の如しと），『清平楽　六盤山』（'35.10）の「不到長城非好漢」（長城に到らざれば好漢に非ず）が**群れを成して出た**が，この時期に集中した密度は**長征の偉業に対する習近平の憧憬**の現れの様に思える。

建国後の2点として，七律『到韶山』（韶山に到る。'59.6.25）の「為有犠牲多壮志，敢教日月換新天。」（為に犠牲となれる壮志は多かりしが，敢て日月をして新しき天に換えしめぬ），七絶『為李進同志題所撮廬山仙人洞照』（李進同志の為に廬山の仙人洞を撮る所の照に題す。'61.9.9）の「乱雲飛渡仍従容」（乱雲飛び渡れども仍従容）が挙げられた。**廬山会議・彭徳懐失脚の直前**の前者と**大飢饉の最中**の後者は，建国前の**戦乱とは別の闘争・受難の投影**が有るが，別名「李進」の**江青に贈った詩作の利用を憚らない**事も印象的である。

党首就任の2週間後に「復興之路」展覧を観る時も「雄関漫道真如鉄」が口に上り，又『人民解放軍占領南京』の「人間正道是滄桑」（人間の正しき道は是滄桑なり）が引かれた。「為有犠牲多壮志，敢教日月換新天。」は党中央・国務院共催の'18年春年団拝会（旧正月新年会，2.14），「敢教日月換新天」は'15年中央扶貧（貧困扶助）開発会議（11.27）で繰り返された。「風景這辺独好」は'13年元日に続いて第18回党大会の精神を学習・貫徹する研（究）討（論）班の始業式（1.5），全国宣伝・思想工作会議（8.19）でも**再三宣揚**された。

中・米企業家座談会（'12.2.14）と米紙『ウォール街日報』の書面取材への回答（'15.9.22）で，七律『和柳亜子先生』（柳亜子先生に和す。'49年夏）の「風物長宜放眼量」（風物は長きが宜し眼量を放げられよ）が2回引かれた。建国前の最後の詩作中の次の句「莫道昆明池水浅」（道いたもう莫れ昆明の池水浅しと）は，習近平が浙江省委書記として'03年6月18日に省委機関紙『浙江日報』の短評欄『之江新語』の政論随想で用いた。異なる時期に於ける1句の複数回引用と1首中の複数句の引用は，**「新語」の毛沢東色の濃さ**を示している。

党首就任前の毛沢東詩詞の引用は米国アイオワ州友好代表団と会見した時（'12.6.3）の，「世上無難事，只要肯登攀。」（世上難事無し，只肯て登攀を用せば）も有る。習近平は中国航天（宇宙航空）科技集団中国空間技術研究院への視察（'13.5.4）で，同じ『水調歌頭　重上井岡山（重ねて井岡山に上る）』（'65.5）の「可上九天攬月，可下五洋捉鱉」（九天に上りて月を攬る可く，五洋に下りて鱉を捉える可し）を，**「毛・習合成語」**の「敢上九天攬月，敢下五洋捉鱉」（敢て九天に上りて月を攬り，敢て五洋に下りて鱉を捉える）に直した。

翌月11日に甘粛酒泉市の衛星発射中心で有人宇宙飛行船『神舟10号』の旅立ちを励ます壮行会で，**「自家新語」**（「之江」［Zhījiāng］と「自家」［Zìjiā］の発音の近似に因んだ諧謔語）の「敢上九天攬月」が再び発せられた。「敢教日月換新天」の3字を含む**微修正**は**毛沢東の枠内に在る習近平の思考回路の所産**で，この詞の発表時（'76.1.1）にニクソンの息子夫妻に闘争を唱えた**毛と共通の敢闘精神**を体現した。ニクソンが毛との会談でも引いた「只争朝夕」も'18年1月5日，習が第19回党大会精神学習・貫徹研討班始業式で持ち出した。

習近平は'15年11月24日に中央軍委改革工作会議で毛沢東の「到中流擊水」に擬えて，「中流擊水，勇進者勝」（中流にて水を擊ち，勇ましく進む者は勝つ）と**檄を飛ばした**。対と為る「百舸争流，奮楫者先」（百しき舸流れに争う，楫を奮う者は先んずる）は，同じ『沁園春　長沙』の「漫江碧透」（漫江碧く透り）に続く「百舸争流」が元である。**先を争う進撃志向は天地・光陰と競争する「只争朝夕」の底流にも有り，習は毛と通底する又は一脈相通ずると言うよりも直伝を得た申し子**の様に思われる。

毛沢東は建国26周年の日（'75.10.1）にこれが人生最後の国慶節に為ろうと用務係に語り，**冷静な予感**の通り次の建国記念日の3週間前に死去した。'76年元旦の『水調歌頭　重上井岡山』『念奴嬌　鳥児問答』の発表は，**冥土へ旅立つ前に置土産や形見を残す心算**であっ

たろう。1首目の前半の「千里来尋故地，旧貌変新顔。」（千里故地に来りて尋ぬれば，旧貌は新顔に変ず），「過了黄洋界，険処不須看。」（黄洋界を過ぎ了り，険処は看るを須いず）は，其々「変故・物故」「黄泉・冥界」の字を含め**図らずも不吉な予告**に為った。

後半の「可上九天攬月，可下五洋捉鱉」の前に，「三十八年過去，弾指一揮間。」（三十八年過ぎ去り，指を弾く一揮の間）と有り，後に「談笑凱歌還」（談笑して凱歌還る）と言う。38年振りに自ら創った中国初の農村革命根拠地を訪れた時の感慨が**言霊の魔力**を現す様に，**38年後「神舟5号」が中国初の有人軌道飛行に成功**し（03.10.15）翌日に無事帰還した。九天への登攀と大地への凱旋を遂げた宇宙飛行士楊利偉中佐は'65年6月21日の生れで，毛沢東の井岡山滞在（5.22～28）の翌月にこの世に遣って来たのも**天授の神秘性**を帯びる。

『広辞苑』の【置土産】の「立ち去るときに贈り物としてそこに置いてゆくもの。比喩的に，去ったあとに残してゆくものにもいう。“台風の―”」は，【形見】の「①過去の事を思い出される種となるもの。記念として残した品物。“青春の―”。②死んだ人または別れた人を思い出す種となる遺品や遺児。“―の帯”」（出典略）と比べて，**負の側面**が目を引く。日本人が日常で恐れるものを列挙する【地震雷火事親父】の4番目は，元が「大山嵐」の訛りで台風を意味したが，**「親父」毛沢東が残した「台風の置土産」は真に恐ろしい**。

毛沢東は同月の『念奴嬌　井岡山』でも，「弾指三十八年，人間変了，似天淵翻覆。」（弾指す三十八年，人間変り了たりて，似たり天淵の翻覆せるに）と詠んだが，逝去20周年を記念する官製『毛沢東詩詞集』（中共中央文献研究室編，中央文献出版社，'96.6）では，副編の25首中の第21首に位置する。正編は毛が偉大な詩人としての地位を定めた上乗の作品とされ，『水調歌頭　重上井岡山』『念奴嬌　鳥児問答』は42首中の最後と為るので，他界前の発表は**有終の美を飾る**事とも言え，2者は**詩詞の形に由る芸術的な遺言状**と思える。

『念奴嬌　井岡山』の前半を結ぶ「江山如画，古代曾云海緑。」（江山画の如く，古代曾て云う海緑と）は，北宋の文学者・書画家蘇軾の『念奴嬌　赤壁懐古』の同じ位置に在る「江山如画，一時多少豪傑（一時多少の豪傑ぞ）」の半分を丸写ししている。「風雷磅礴」（風雷磅礴たり）は『水調歌頭　重上井岡山』の「風雷動」（風雷動み）と雷同し，後者は『水調歌頭　遊泳』（'56.6）の同じ後半の冒頭の「風檣動」（風檣動き）と重なる。毛沢東の詩詞は**本家取りの借用や自己複製の類似**が間々有り，**自家中毒は世を毒する麻薬**に為り得る。

『水調歌頭　重上井岡山』の正編入選は政治的な意図と共に高い格調・独創性も要因であろうが，『念奴嬌　鳥児問答』の掉尾の「不須放屁（屁を放るを須いず），試看天地翻覆」は，『重上井岡山』の「険処不須看」と『念奴嬌　井岡山』の「似天淵翻覆」の字句を用いている。楊継縄が「文革」50年史の題とした**「天地翻覆」は，歿年に発表し正編の結語を為すだけに象徴的な意義**が有る。下らない事を言うなという意の**「不須放屁」は真面な詩詞なら有り得ない**が，**粗野な禁止表現は乱暴な抑圧体制の放恣な独裁君主の正体**を覗かせる。

『念奴嬌　鳥児問答』の冒頭の「鯤鵬展翅，九万里，翻動扶揺羊角。背負青天朝下看」（鯤鵬翅を展げ，九万里，翻動す扶揺羊角を。青天を背負いて下を朝きて看るに）は，『荘子・逍遥遊』の「鵬之徙於南冥也。水擊三千里。摶扶揺而上者九万里」（鵬之南冥に徙る也。水を擊つこと三千里。扶揺に摶ちて上る者九万里），「鯤（中略）摶扶揺羊角而上者九万里，（中略）負青天」（鯤［中略］扶揺羊角に摶ちて上る者九万里。［中略］青天を背負いて）が下敷きで，此処で**同じ頃の「可上九天」と若い頃の「水擊三千里」の源頭**に突き当る。

毛沢東は盛・中・晩唐の「詩仙」李白・「詩鬼」李賀・「詩霊」（造語）李商隠を好み，**「3李」の詩風の浪漫・幻想・晦渋に惹かれた感性**は，夢で胡蝶に為って楽しみ自分と蝶との区別を忘れた荘子の**浮世離れ**と通じる。**高邁な境地**に始まる『念奴嬌　鳥児問答』は次に俗世へ目を転じ，米・英・ソ3国部分的核実験禁止条約（'63.8.5）とソ連首領フルシチョフの「福祉共産主義」主張（'64.4演説）への攻撃を展開する。毛は中ソ共産党の意識形態論戦（'62.12～64.11）に多大な力を投入し，最後の傑作詩詞も**挑発的な闘争心**を顕にしている。

3国部分的核実験禁止条約調印の3年後に毛沢東は中央全会で劉少奇打倒の号砲を鳴らし，当の国家主席は周恩来が伝えた党主席の指令で外賓会見等の職務履行を即日に停止した。彼は小指1本でお前を打倒できると面と向って劉を恫喝した事が有り，自分の意が通らなかったら**再び井岡山に行って遊撃戦を行るという殺し文句で要人等を屈させた**。林彪事変後のNo.2周も末期癌で歿する1週間前に断末魔の病苦に耐えて，当日に発表した毛の例の詞2首を恭しく聴き**精一杯の従順**を示した程である。

詩詞集正編の前・後からの2番目の『西江月　井岡山』と『水調歌頭　重上井岡山』は**首尾対称の形で呼応**し，前者の「黄洋界上砲声隆」（黄洋界上砲声隆し）は副編中の『念奴嬌　井岡山』の「黄洋界上，車子如飛躍（車子飛ぶこと躍するが如く）」と響き合う。'28年秋の旧作中の「我自巋然不動」は85年後の'13年6月18日に，習近平が党の群衆路線教育実践活動工作会議で引いた。故に'17年「8.1」演説の原稿の「巋」に付いた「音kui」の注意書きは必要が無く，**従前の無数回の上塗りで定着した記憶**は複数回の引用でぶれる事が無い。

習近平は'14年「5.4」青年節に北京大学で教師・学生の『沁園春　長沙』の伴奏付き朗読を聴き，座談会で後半中の「恰同学少年，風華正茂」（恰同学の少年，風華正を茂りに）で大学生活を称えた。次の「書生意気，揮斥方遒；指点江山，激揚文字」と最後の「中流擊水，浪遏飛舟」，前半中の「百舸争流」「問蒼茫大地，誰主沈浮？」と合せて，**全114字の内46字分も引用してある**。詩詞集正編の**巻頭作品の特殊な地位に正比例する引用度の高さ**は，**毛沢東時代に青春を過した世代の「単純・限定・反復」型政治学習・復習の結果**でもある。

18.「興亡周期律」支配に繋がる「染缸・醤缸」

「漫江碧透，百舸争流」の前の「看万山紅遍，層林尽染」（看よ万山に紅遍く，層れる林尽く染まりたり）から，画家李可染は着想を得て'62～64年に7枚の『万山紅遍』を描いた。内の1枚は'15年11月15日に競売で1.84億元（≒35.8億円）を以て落札され，習近平党首就任3周年の日に毛沢東の句を題材とする作品が中国現代絵画の史上最高値を記録した事は，**権貴社会主義が生む金満家の急増**と**習体制の助長で益々増す毛の人気**を映したが，**「紅遍」「尽染」**と作者名の**「可染」**は**毛～習時代の思想教育の本質・様態**を示唆する。

国防部の表彰命名（'63.4.25）を受けた「南京路上好八連」（南京路上の好き第8中隊）は，**「身居閙市，一塵不染」（喧噪の都市に居ながら，その悪に微塵も染まらぬ）精神**で知られる。駐屯地は東京の銀座に相当する国際都市内の国内最上級の繁華街だから，物質文明の発達に伴う贅沢な商品や享楽の消費に心を奪われた兵士も出た中で，政治指導員等の教育に由って**「勤倹節約，克己奉公」の良風**が確立した。**「染缸」（染め物甕。人の思想に悪影響を与える場所や環境の譬え）に陥らぬ意志**は，**軍・民の見倣う当き模範**として推奨された。

毛沢東は7期2中全会で**革命勝利後の大敵**として**「糖衣砲弾」（糖衣に包んだ砲弾）**を挙げ，一部の共産党人は銃を持つ敵に征服されず英雄の称号に愧じないが，**「糖弾」の攻撃には耐えず敗戦を喫しかねない**と警告した。'07年の党首・書記処全員の会場跡拝観と共に**全く失われていない今日的な意義**を示す様に，2/3世紀後の『現代漢語詞典』現行版にも甘い誘惑を表すこの4字熟語の項が有り，「比喩腐蝕、拉攏、拖人下水的手段。簡称糖弾。」（人を腐敗させ，人を籠絡し，人を悪の道に引っ張り込む手段の譬え。略称「糖弾」）と為る。

毛沢東は『八連頌』で「拒腐蝕，永不沾。」（腐蝕を拒み，永に沾らず）の清廉を称賛したが，半世紀後に本格化した習近平政権の**「反貪腐（汚職・腐敗）闘争」で失脚した巨悪の面々**には，胡錦涛政権2期目の両軍委副主席・上将（最高階級）の郭伯雄・徐才厚が居り，総参謀長房峰輝・総政治部主任張陽（倶に上将）も異例の同時摘発を受け後者は自殺した。鄧小平軍委主席・中央顧問委員会主任は**「資産階級精神汚染」の除去**を厳命したが，**「文革」の「流毒」（悪影響）に対する除去の不十分**の所為も有って**腐敗の温床は温存された**。

毛沢東は'45年7月2～4日に陝西延安で6人の国民参政会参政員（国会議員）と懇談する際に，黄炎培から**古来の歴代政権を没落へ向わせた「興亡周期律」支配の法則**が指摘され，**共産党は人民が政府を監督する民主の道を発見したので大丈夫**だと見栄を切った。中国民主同盟・民主建国会の指導者で教育家の黄は初代副総理兼軽工業相として厚遇されたが，毛は**'57年に諸民主党派との虚飾の対等に終止符を打ち**，民主党派合同運営の『光明日報』を中共の主管下に置き，上記6民主人士中の章伯鈞を「大右派」と断罪した。

官製『毛沢東伝（1949―1976）』（中共中央文献研究室編，逄先知・金冲及主編，2巻，中央文献出版社，'03）は，中共政権成立直前の新政治協商会議準備会議での講話（'49.6.15）から始まる。毛は引用部分で**斬新・強盛で名が実に合う人民共和国**の成立に自信を表したが，

結語で最初に叫んだ「中華人民民主共和国万歳！」の**「民主」は建国時に消えた**。無党派の教育家張奚若は人民が入るから民主も自ずと有るとして省略を提案し採択されたが，毛の「人民民主専政」の様に人民・民主が出揃っても専政に収斂・帰着されて了うのである。

'52 年に教育相と為った張奚若は '57 年の中共整風で**党の不良気風に苦言**を呈し，**「好大喜功，急功近利，否定過去，迷信未来」（壮観を好み功績を喜び，功を急ぎ利を追い，過去を否定し，未来を迷信する）**という批判が毛沢東の痛い処を突いた。抗日戦争後 1 党独裁への反対を主張し国民党政権の転覆に寄与した彼は，**異論を許さぬ与党の意志**に由って '58 年 2 月に更迭された。'57 年体制確立後の教育相は重要閣僚として全て中共が独占し，他の新閣僚も**覆面中共党員を含む翼賛野党への零れが滅多に無く**現在に至っている。

政治改革より開発独裁を選んだ '87 年体制も「興亡周期律」支配の打破の鍵の民主を軽んじ，「南京路上好八連」命名 26 年後の翌日（'89.4.26）の『人民日報』社説の「動乱」反対の煽りで，軍は同中隊の「熱愛人民」（人民を熱愛する）や『八連頌』の「軍民団結如一人」を逸脱して，**政府を監督する人民の民主化運動への大規模乱射**を敢行し多数の死傷者を出した。黄炎培は延安で全ての人民の生命・生活に責任を持つ中共の態度に信頼を抱いたが，四半世紀前に他界した彼が天国でその惨劇を見ればどの様に思うであろうか。

'17 年体制では党の全面指導に由り政府に対する人民の監督は一層の弱化を呈し，毛沢東時代の再来の様に**「好大喜功，急功近利」の旧弊も増長傾向**に在るが，**'57 年・'87 年体制を堅持する姿勢**で「否定過去，迷信未来」の前半は当らない。毛の『重上井岡山』の「三十八年過去，弾指一揮間」に因んで言えば，内外で指弾される '89 年の武力弾圧は 38 年後の建軍 100 周年に再評価されるか否かは，**'87 年体制発足時の 38 年も続いた台湾戒厳令の解除の様な清算の試金石**に為るが，習近平体制の支配・影響が続く限り望みは無かろう。

『毛沢東伝』建国後篇の劈頭の領袖の言説は習近平出生の恰度 4 年前に発せられ，毛が死の 86 日前（'76.6.15）に華国鋒・「4 人組」等に遺訓を垂らしたのも習の 23 歳の誕生日に巡り合せる。'57 年体制へ逆戻りする '17 年体制の先祖返りは**指導者層の精神形成と関係が有り**，**「紅遍・尽染」（紅［中共色］遍く染まり尽す）環境で生れ育った**この世代は，**「耳濡目染」（耳に慣れ目に染まる。無意識の内に影響を受ける）効果**で，和語「馴染」の字面の様に**「馴服」（馴れ服う）・感染（感化）」の変容が生じ易い**。

字句の長短が自由な雑言詩『八連頌』は結びの 2 句が 7 字と為る以外，「拒腐蝕，永不沾。」の様な 3 字句が 38 句続く。伝・［南宋］王応麟作の初学教材『三字経』の 3 字で 1 句を為し，儒教の基本原理や一般常識等を盛り込む構成と似て，平明な語句で英雄的な部隊の事績と革命的な観念の説教を行う特異な 1 作である。昔の私塾では意味が解らない儘に学童に経典を暗記させたが，『三字経』や四書五経と同じ**『毛主席語録』に対する暗誦の推奨・実践**は，**一神教的な排他性に由る信仰・知識の独占**で**精神的な文盲**を多く作り出した。

禅宗の「只管打座」（余念を混えず只管坐禅する事），達磨が中国の少林寺で壁に面して9年も坐り続け1語も発しなかった故事に由来する「面壁九年」（長年専心に努力する事の譬え）を捩って言えば，只管「修地球」（地球を修理する事。野良仕事を自嘲する諧謔語）の「知識青年」たちは，**越えられぬ人生の壁**に面して**不毛な10年**を過され**知らぬ内に無知**になった。「鴻鵠」の「鵠」を読み間違えた林建華北京大学学長が詫び状で顧みる**「文革」被害**には，**他の選択肢が無い毛沢東言説の学習で知識・思想が狭められた**事が大きい。

台湾で「元首を侮辱」「政権転覆を企図」として投獄された（'68～76）作家柏楊は，'81年8月16日の演説（紐育・孔子大厦）で**中国の「醤缸（漬物甕）文化」**を論った。**社会の停滞・閉鎖性に由る歴史の負の沈澱物で出来た「醤缸」の汚染**の結果，中国人は**思考停止に陥り「醤缸」内の政治・道徳の基準で行為の価値を決め勝ち**だと言う。長江に沈んだ魚・猫・鼠の死骸の様な汚物の累積は古来の糟粕を指すが，「文革」の「破旧立新」後の**「封建的社会主義」の下**でも，**伝統の「換湯不換薬」（［煎じ薬の］湯を変えて薬を変えぬ）**が多い。

毛沢東は建国の月（'49.10）詩人柳亜子に和す詞『浣溪紗』の前半で，「長夜難明赤県天，百年魔怪舞翩躚，人民五億不団円。」（長夜明け難し赤県の天，百年の魔怪舞うや翩躚にして，人民五億団円ならず）と旧社会の暗黒を描き，後半の冒頭の「一唱雄鶏天下白」（一たび雄鶏ときを唱ぐれば天下白む）で新社会の到来を謳った。『念奴嬌　井岡山』の「一声鶏唱」（一声鶏唱せば）も「一唱雄鶏」と重なるが，次の結句「万怪煙消雲落。」（万怪煙消雲落す）とは裏腹に，翌年以降の**「文革」は魑魅魍魎の跳梁で赤県（中国）の大団円を妨げた。**

鄧小平は'80年8月21日に伊太利の報道人・作家ファラーチの面会取材に答える際，天安門城楼に掛った毛沢東の肖像画は永遠に掲げて行くと冒頭で明言した。肖像画への拘りには**「不肖」（父／師に似ず愚か／劣る）の悪評を嫌う忌憚**が感じ取れ，**「親父・導師」に肖らば行けぬ強迫観念**の所為か**亡霊の蘇生・再現**が見られる。**呪縛との訣別が出来ない故に厳冬の百鬼夜行の後の新春の百花斉放は束の間しか続かず，'87年体制で一層固められた'57年体制の根幹**から，更に**'17年体制の「惟妙惟肖」（絶妙に似せる）の模倣**が生れた。

柏楊が**同胞の下劣な根性を暴く『醜陋的（醜い）中国人』**（［台湾］林白出版社，'85）は，'86年に大陸で刊行され**国民性への自省を促す社会的な事件**と為った。同年末の中国科技大学発の**民主化運動が「資産階級自由化」として封殺**された後，'87年から「台湾の魯迅」の著書は発禁と為り'04年に漸く流布が再開した。**「狼の乳を飲んで育った世代」に多い自己嫌悪**の現れの様に，張抗抗の『無法撫慰的歳月』は'10年代半ばに電脳網で拡散された時，何者かに**「醜陋的老三届」（醜い「老3期」**［'66～68年中学・高校卒業生］）と改題された。

習近平は'69年1月13日～75年10月7日に陝西延川県文安驛鎮梁家河村に下郷し，'15年2月13日に**本籍の同省富平県・生地の北京に次ぐ「第3の故郷」**への「帰省」で，「私が人生の第1歩として学んだ物は全て梁家河に在る。梁家河を軽視して為らない。此処は

大学問が有る地だ」と語った。**黄土高原の寒村は党首の１言で忽ち毛沢東・鄧小平の若い頃の滞在地を超える聖地と化し**，65 歳を迎える月（'18.6）に「梁家河の大学問」を感じ取る運動が起り，同省社会科学院で研究課題と為り研究班を組む程に**個人崇拝が過熱**した。

習近平総書記再選の 63 日後（'17.12.27），農業部・環境保護部と住房・都市農村建設部等共催の「2017 尋找中国最美郷村推介（中国の最も美しい村の発見・推奨・紹介）活動」の結果発表が行われた。「緑水青山就是金山銀山――郷村美　中国夢」（緑水・青山こそが金山・銀山――農村の美，中国の夢）の主題に沿って，１省 / 自治区 / 中央直轄市に１村の候補から「十大最美郷村」が専門家と媒体大衆投票に由って選ばれたが，梁家河が**露骨な提灯持ち**で１位に踊り出て，**習体制の，習体制に由る，習体制の為の御祝儀**の印象を与えた。

毛沢東の『水調歌頭　井岡山』の「千里来尋故地，旧貌変新顔。（中略）三十八年過去，弾指一揮間。」は，39 年振りに**人生の第１の階段に足を入れた**習近平の感慨に近いであろう。国の強力な支援で押し上げられたのかも知れない習所縁の村の「天地翻覆」は扨て置き，**党首が「知識青年上山下郷」の体験を人生初の大収穫として宣揚した事は画期的**である。**'17 年体制の「新顔」は毛時代の暗い青春へ抱く郷愁に「旧貌」が隠し持たれようが**，「無法撫慰的歳月」を捩った**「撫慰無法的歳月」（無法の歳月を慰撫する）は時代に逆行**する。

19.「血洗」・「洗劫」と通底する洗脳・人間改造

党首就任後の習近平が公称した「同我們農民兄弟朝夕相処的那二千四百多個日日夜夜」（我々の農民兄弟と毎日共に居たあの 2 400 余りの日々）は，福建省長時代の '00 年に記者に話した経歴より**約 11 ヵ月の水増し**が指摘されている。若くして**強制的に行かされた農村では最初は定住する気が無く**労働も真面目にせず，数ヵ月後に**無断で北京へ戻ったが，不法滞在**に由り「学習班」と派出所で其々半年と 4～5 ヵ月に拘束され，下水道舗設等の重労働を強いられた，という**遁走の事実は不本意な「上山下郷」への反抗として同情を博し得る。**

鄧小平は 11 期 3 中全会で 1 700 万人の「上山下郷」に就いて，国家は 300 億元以上の出費で「知識青年」・親・農民の 3 方の不満を買ったと酷評した。**'87 年体制で否定された大失敗は巡り巡って '17 年体制で提唱され**，'18 年 7 月の于鴻君（北京大学党委常務副書記兼マルクス学院院長・管理学院金融学部教授）の国家「新時期上山下郷工程」発足の発案を始め，共青団中央が '19 年「3.22 通達」で下部組織に「下郷建功」（農村へ行き功労を立てる）動員の号令を掛けた等，**40 年前に唾棄された「上山下郷」の再演の兆**が頭を擡げた。

'63 年生れの于鴻君は「知識青年」未満だっただけに奇妙であるが，「鴻鵠」を読み間違えた林建華学長が**「文革」の洗脳を批判しない歴史認識**と通底する。2 人の名前や事件に有る「鴻」から李鴻忠（政治局委員･天津市委書記）が連想され，林より 1 歳年下（'56 年生）

の彼は「知識青年」を経て '78 年に大学に入ったが，党への絶対的な忠誠心に関する習近平の訓諭を敷延した「忠誠不絶対就是絶対不忠誠」（忠誠が絶対的でないと絶対的な不忠に為る）説（'16.10.10）は，**「文革」中の「表忠心」（忠誠心の表明）の調子**を思わせる。

林建華は『矛盾論』『実践論』（'37）の熟読で世界観･方法論の強い影響を受けたと言うが，国語力の不備よりも**毛沢東の言説に染まり切った事が学者・教育者として残念**である。張抗抗が述べた通り**「知識青年」は人類の経典を渉猟できず毛の著述に束縛された**が，彼女の恰度 1 年前（'49.7.3）に生れた薄熙来は政治局委員・重慶市委書記に在任中，「文革」の迫害で父一波（元政治局委員候補・副総理）は長年監禁され母胡明は自殺したにも関らず，'09 年 4 月 28 日から市内の 1 300 万の携帯電話利用者に短信で毛沢東語録を発信した。

薄熙来の「重慶（統治）模式」は「唱紅（“紅歌”［革命歌］を唱う）･打黒（“黒悪”［“黒社会”〈極道〉・邪悪勢力］を撃つ）が柱と為る。毛沢東時代の「興無滅資」（無産階級思想を興し資産階級思想を滅ぼす）に擬えて，**2 色の政治運動は「興紅滅黒」（「紅色［革命］文化」を興し「黒悪［成らず者］勢力」を滅ぼす）**と呼べる。**「唱紅運動」の「唱紅歌，読経典，講故事，伝箴言」（「紅歌」を唱い，経典を読み，故事を語り，箴言を伝える）**は，**建国の「前 30 年」を止揚した「後 30 年」（改革・開放）を止揚する為の洗脳**にならない。

「洗脳」は中共治下では西側の中傷語として長らく国語辞書に載らなかったが，『漢語大詞典』にも無い項目は '12 年に『現代漢語詞典』で立てられ，「動指向人強制灌輸某種思想観念以改変其原有的思想観念」（動人に強制的にある種の思想を注入し，その元の思想観念を変える事を指す）と定義される。用例の「在活生生的事実面前，一些被邪教洗過脳的人開始醒過来」（生々しい事実を前に，邪教に洗脳された一部の人は目が醒め始めた）も付されるが，前の第 5 版の【邪教】の増設と合せ考えれば**「初めに“邪教”撲滅有りき」**の気がする。

『広辞苑』の同項は「正しくない宗教。世に害毒をながす宗教。また，その国の社会制度や道徳に反するような宗教。邪宗。↔正教」で，『日本国語大辞典』の語釈「誤った教義を持ち，世に害毒を流す宗教。多くはその宗教に反対する立場の人が用いる語。邪宗」に，「日蓮遺文－立正安国論（1260）」等 3 点の用例が有る。『漢語大詞典』の「旁門左道，不正派的宗教派別」（異端で，真面でない宗派）の説明は，『敦煌変文集・維摩詰経講経文』等 3 点の漢籍典拠が付くが，和製ならぬ古来の漢単語は **20 世紀後半の本国で死語に近い**。

「邪教」も「正教」（＝『広辞苑』の❶「正しい宗教」）も長年「中共語」に無かったのは，**マルクスの「宗教は民衆の阿片」の論断の影響に由る宗教有害の偏見**の所為でもあろう。『ヘーゲル法哲学批判序説』（1844）の中の「宗教は民衆の阿片なのだ」の前に，「宗教という不幸は，現実の不幸を表現する物であると共に，現実の不幸に抗議する物でもある。宗教は抑圧された生き物の溜息であり，無情な世界に於ける心情であり，精神無き状態の精神である」（傍点は原文）と有り，「阿片」は**鎮痛剤の意味で使われ麻薬の鴉片に等しい物ではない**。

『広辞苑』の【阿片・鴉片】の「（英語 opium の中国語の音訳から）ケシの未熟な果穀に傷をつけた時に分泌する乳状液を乾燥して得たゴム様物質。モルヒネ・コデイン・パパベリン・ノスカピンなど種々のアルカロイドを含み，鎮痛・催眠作用を呈する。代表的な麻薬であり，日本では，あへん法（一九五四年制定）により，阿片の採取・所持・輸出入・売買を規制」は，同音の「阿・鴉」の混同で前者を主とし，麻酔剤等に使う医療用を明言せず嗜(し)好的な濫(らん)用で中毒症状を起す麻薬の性質を強調するが，**中国語では益･害両面の区分**が有る。

『現代漢語詞典』の【阿片】āpiàn は，「㊀従未成熟的罌粟果里取出的乳状液体，乾燥後変成淡黄色或棕色固体，味苦。医薬上用作止瀉和鎮痛薬。用後容易成癮，是一種毒品。用作毒品時，叫鴉片。」（㊀未熟な罌粟(けし)の果穀から取り出す乳状液，乾燥後に淡い黄色又は褐(かっ)色の固体と為り，味が苦い。医薬用として下痢(げり)止(ど)め・鎮痛薬に使う。服用後に病み付きに為り易く，一種の麻薬である。麻薬に用いる場合，鴉片と言う）で，発音が違う**「鴉」**（yā）**の不吉な形象(イメージ)の故の邪悪の意味**との相異を解説し，言わば**毒を以て毒を制す効用を肯定**する。

【鴉片】（雅片）の項（「㊀阿片用作毒品時叫鴉片。通称大煙」［㊀阿片は麻薬に用いる場合，鴉片と言う。通称大煙］）は，見出し語に有る美称の「雅」（yǎ）の付記が**善悪の相互内包**を思わせて興味深い。次の【鴉片戦争】は日本語の「阿片戦争」と対照的に**災厄(やく)・被害**の意味を字面に出すが，中共史観で中国近代史の起点と為る鴉片戦争（1840～42）の直後のマルクスの件の比喩は，官製定訳の「鴉片」が適切であろう。彼を信奉する**共産党政権の下では信教の自由が憲法で保障される半面，宗教は「精神的な鴉片」の汚名を払拭(ふっしょく)し難い**。

『現代漢語詞典』'05 年版に追加された【邪教】は，「㊀指冒用気功、宗教等名義危害社会秩序、侵犯人身権利的非法組織。」（㊀気功･宗教等の名義を騙(かた)って社会の秩序に危害を加え，人身権利を侵す非合法組織を指す）である。此処で宗教は気功と同じ肯定的な存在に為っているが，**宗教より先に気功を邪教の隠れ蓑(みの)とするのは「中共語」**である。気功修練集団「法輪功」の乱を受けて中央邪教問題防止・処理指導小組(グループ)辦公室が成立し（'99.6.10），「邪教」は**反体制の宗教を取り締る大義名分の必要**から当局に使われ普及に至った。

法輪功実践者 1 万人が活動制限への不服を訴える為に中南海の周りに集まる「4.25 事件」で，当局は **10 年前の首都大衆民主化運動の再来を警戒し「邪教」摘発**に躍(やっ)起と為った。『現代漢語詞典』の初版以来の【3K 党】（K K K（ケー･ケー･ケー） = Ku Klux Klan（クー クラッス クラン））の項は，米国南部諸州に散在する彼(か)の白人至上主義の**秘密結社**の凋(ちょう)落に関らず削除されない。**「反動（的）恐怖(テロ)組織」の「破壊活動」への恐怖**が読み取れるが，第 6 版（'12）の【維穏】（「㊁指維護社会稳定。」［㊁社会の安定を維持する事を指す］）の増設も，**社会の不穏を危惧(ぐ)する心理**の現れか。

鴉片戦争 100 年後の延安では財政難克服の為の鴉片栽(さい)培・対外販売が秘(ひそ)かに行われたとされ，林彪は戦争中の負傷の後遺症を和(やわ)らげる為に建国後も鴉片服用の悪習を断てなかった。彼は毛沢東語録の学習･暗誦を提唱しその絶対的な忠誠で次期領袖に指定されたが，**'57**

年体制の下で軍・民が受動的に吸収した諸々の教条は精神的な鴉片の性質を帯びる。『現代漢語詞典』の【正教】は『広辞苑』の同項の「②キリスト正教の略」の意であるが，**同時代中国の「正（しい宗）教」は「正確」（無謬）神話を植え付けて已まぬ共産党**かも知れぬ。

語源不明の中国語の「洗脳」は英語圏経由か日本に輸出されたが，『広辞苑』の「（第二次大戦後の一時期，中国の思想改造を brainwashing と評したものの訳語か）新しい思想を繰り返し教え込んで，それまでの思想を改めさせること」，『日本国語大辞典』の「その人の主義，思想を根本的に改造すること。第二次世界大戦後の中国で，反革命分子とされた人々に対して行ない，精神的･物理的圧迫による思想改造の工作をさした語による」とは，**持続的な強制に由る思想の刷り込み・書き換えの要諦・実態**を表している。

『日本国語大辞典』の用例「＊赤い国の旅人（1955）〈火野葦平〉四月二十一日“いかな火野さんでも偉大なる新中国の建設の姿を見たら洗脳されるだろう”＊愛と知と悲しみと（1961）〈芹沢光治良〉八“母の愛で娘の気持や考え方を変えようと思いまして，〈略〉母の愛で洗脳しようと思いましたが”」は，**中共縁の新語を逸早く導入し愛の伴う語義を添えた処が漢字文化圏の平和国家らしい**が，brainwashing の訳語として**世界的に広がった契機の朝鮮戦争**は，**「血洗」（血で洗う［残酷で大規模の虐殺］）と通じる洗脳の峻烈**を思わせる。

『ランダムハウス英和大辞典』第 2 版（ランダムハウス英和大辞典第 2 版編集委員会編，編集主幹＝小西友七・安井稔・国廣哲彌・堀内克明，小学館，94）の【brainwashing】は，「1 洗脳法：特に拷問・麻薬・心理的圧力などによって政治的信念などを系統的に変えていく方法．2 系統的教化(法)：特に反復などにより計画的にある考えを人に植えつけること［方法］」と為る。**朝鮮戦争勃発の年に当る初出時期［1950］と拷問等使用の暴力性は時代精神を帯び，誘導的な教化の意は中共流で言う「和平演変」（平和的な変容）**に当る。

米国の報道人ハンター著 *Brain-washing in Red China: the Calculated Destruction of Men's Minds*（赤い中国に於ける洗脳――人間の精神の計画的な破壊。'51）の日本語版『洗脳　中共の心理戦争を解剖する』（福田実訳，法政大学出版局，'53）は，日本に於ける「洗脳」の初出に近い用例と思われる。'32 年「9.16」平頂山事件（遼寧撫順の日本軍の遊撃隊掃討中の住民大虐殺）を暴いたハンターは，**正義感に駆られて返す刀で中共の暗部に斬り込み**，「大躍進」の '58 年に又 *The Black Book on Red China*（赤い中国の黒書）を出した。

洗脳の性質として原題の直訳･意訳中の**精神破壊･心理戦争**に**頭脳占領**を加えても可いが，毛沢東が「文革」中に望んだ「無産階級占領上層建築」（無産階級が上部構造を占領する）は，彼の意に沿って**上部構造**（政治的・法律的・哲学的・宗教的・道徳的・美的な意識形態やそれに対応する制度・組織［国家・政党等］）**を改造する下剋上**である。**思想・輿論・教育等での「陣地占領」は上部構造の各領域の支配**を意味するが，**人間の上部構造は思考・感情・言動を司る頭脳**であり，**洗脳は指令中枢を掌握する究極の人間改造**と言えよう。

漢籍『抱朴子・用刑』が出典の「洗心革面」（心の汚れを洗い落し面目を一新する）は，自ら徹底的に後悔・改心する意で**「洗脳革命」**（造語）の**他力圧迫・受動変質**とは違う。「洗脳」と「浩劫」（大災難）の字を含む**「洗劫」（［ある地域や家宅の］財物を洗い攫い奪う）**は，**「文革」の「10 年浩劫」中の「破四旧」家宅捜査の有様**に合う。「洗劫一空」（奪い尽して空っぽに為る）と有る。2 字が重なる熟語の**「一貧如洗」（貧乏でさっぱり洗った様に何 1 つ無い様）**と共に，**長年の洗脳に由る人々の精神的な「一窮二白」**を形容できる。

中共が行った洗脳は反革命分子の思想改造よりも**民衆に対する思想移植が多く**，旧社会の性質を言う「半封建・半植民地」は民への観念の植え付けに由って，**毛沢東時代の「封建的な社会主義」と上部構造に於ける言わば「植民」**に適用する。洗脳は文字通り脳を洗って空にし，次に**毛思想の教え込みの様な「灌輸」（注入）で脳内を占拠する**のである。『広辞苑』の規定を超えて既成の思想に取って代るのは新しい思想とは限らず，**「悪貨は良貨を駆逐する」と似て旧い思想が割り込んで支配の位置に就く場合も有る。**

「文革」の目的を表す「反修防修」（修正主義に反対し修正主義を防止する）と共に，「防止資本主義復辟」（資本主義の復活を防止する）も呪文の如く叫ばれ続けた。抑々確立しなかった資本主義は復活の余地が小さく，**仮想敵を作る為の過剰な警戒**が煽られたのであろうが，改革・開放後に党が否定した**「文革」や個人崇拝の陋習こそ復活の危険性が現実味**を持つ。現に薄熙来治下の「西紅市」（西部の紅い都市。「西紅柿」［蕃茄］の語呂合せの諧謔語）では，**「唱紅運動」に由って毛沢東時代の情緒・雰囲気の捲土重来**が感じられた。

毛沢東は 8 回（'66.8.18～11.26）に亘って延べ 1 100 人の紅衛兵を観覧し，大勢の交通・宿泊の国費負担を惜しまず己の疲労を厭わぬ挙動は，自分と会った事が**若者の革命の継承を刺激**して行く事への期待に由る。言行を用いて模範的な役割を果す事に言う「言伝身教」（言葉で伝授し身を以て教示する）は，**後世へ言説を遺し典範を垂らそうとした毛の苦心**にも合致する。彼は「一窮二白」の利点として白紙に最も新しく最も美しい絵が描ける事を挙げたが，**人々の白紙化した頭に組み込まれた毛印情報は精神的な遺伝子の一部**と為った。

「8.18」首都各界百万人「文革」祝賀大会は「東方紅」の音楽で始まり，中央「文革」指導小組組長陳伯達と林彪は開会の辞と演説で，「偉大的領袖・偉大的導師・偉大的舵手」と「偉大的統帥」の賛辞で毛沢東を称えた。『現代漢語詞典』の【東方】❶（方位詞）の用例「～紅，太陽昇」は例の讃歌の冒頭の歌詞で，【偉大】形❶「品格崇高；才識卓越」の第 1 の用例「～的領袖」は「4 個“偉大”」に有る。編者が**馴染の定型を条件反射の様に嵌め込んだ**のであれば，**「紅遍・尽染」の浸透・定着**は毛の予想通り又はそれ以上かも知れない。

20.「紅色経典」の魔力と「紅色基因」の呪縛

習近平の農民との長年の「朝夕相処」（朝夕共に居る）は，熟語として【朝夕】❶副「天天；時時」（毎日。何時も）の用例と為るが，❷名「指非常短的時間」（非常に短い時間を指す）の用例「～不保」（明日知らぬ）の次に，毛沢東の句の「只争～」（一刻を争う）が出る。毛は『書経・舜典』の「詩言志，歌詠言」（詩は志を言い，歌は言を詠む）に共感したが，国語辞典の例示に彼の志を表す詩歌が多く有る事は**「紅色経典」として尊ばれる**為で，死後も続く「言伝」は中国流で言う「頑強地表現自己」（頑強に自分を表現する）か。

「唱紅運動」では古今の経典を読む事，革命の故事を語る事，偉人の箴言を伝える事の前に，**革命歌を歌う事は音楽の美感・魅力・親和力を以て目玉**として掲げられた。'03年に和歌山県の民家に侵入し起訴された男性被告が自分の名前すら忘れ，例外的な身元の手掛りの1つは取り調べの捜査員の前で口遊んだ，福岡県に在る小学校の校歌の「遠賀の流れ清らかに……」の1節である。幼児教育の大切さを表す日本の諺には「三つ子の魂は百歳まで」と有るが，**幼少期の精神形成に大きな役割を果す歌も恒久の影響力を発揮し続ける**。

五木寛之は『運命の足音』第1章『五十七年目の夏に』の第1節『一枚の写真』で，敗戦直後に家族の前でソ連軍に蹂躙され翌月に逝った母親の悲劇を公表し，最後に「旧姓，持丸カシヱ。昭和二十年九月二十日，平壌にて没。享年四十一」と記した。その**禁断の歴史証言と墓誌銘風の記述**に続く第2節『許せない歌』は一転して，10歳の頃（'42）父親の口遊みで『ボルガの舟唄』の1節を聞いた体験から始まり，少年期に出会った露西亜の歌の魅力に惹かれ，ソ連に抱く**敵愾心との撞着に苦しんだ葛藤**を克明に描いている。

生れて初めて耳にしたあの露西亜民謡の陰鬱な畳句は長く記憶の底に残って消えず，敗戦前に別の露西亜の歌を聞いた時の柔らかい手で心臓を揉みしだかれる感じも昨日の事の様に憶えていると言う。更に衝撃的な体験は平壌に入城したソ連兵の隊列の帰営途中の合唱と遭遇した事で，その哀しく暗い歌声の**心に響く奥深さに体が痺れて**その場に立ち竦んだ。略奪・暴行・強姦を繰り返し物乞いの集団に映る獣がこんな美しい歌を歌う光景に対し，彼は**感情の混乱の渦巻**に陥りこんな事も歌も絶対に許さないと心で悲鳴を上げた。

その**記憶は消えない拘りと化し**五木の露西亜民謡に対する準則を為し，彼は露西亜の歌の**愛唱を抒情の小道具に止め**せしめようと断念を誓い，そんな屈折した形でしか自分の復讐は果せなかったと自覚する。後に大学の露文学科を受験したいと申し出た時，父親から「ソ連は母さんの敵だぞ」と言われた。彼は早稲田大学（'54～57）中退後'66年に『さらばモスクワ愚連隊』で小説家として出世し，翌年同じソ連を舞台とする短篇『蒼ざめた馬を見よ』で直木三十五賞を獲ったが，露/ソへの**愛憎混在の複合感情**が初期作品の根底に有った。

映画『陽光燦爛的日子』（太陽が燦燦と輝く日々。和訳＝『太陽の少年』。原作＝王朔『動物凶猛』［短篇，'91］，姜文脚本・監督，'94）は，70年代初頭の北京の少年の恋を描く青春劇に「文革」時代の一断面が見られる。中ソ国境武力衝突（'69.3）後の対立に関らず彼

等は敵国の抒情歌『モスクワ郊外の夕べ』を熱唱し，不良少年集団が莫斯科餐庁で手打式を行う場面で名曲『カチューシャ』が盛大に流れる。**建国初の同盟関係に由って中国で普及した世界革命の発祥国の歌**は，**意識形態論戦や海外文化規制を超えて不動の人気**を保った。

全て既成作品を使う映画音楽の中の海外の方は又，露西亜・ソビエト連邦社会主義共和国及びソ連邦の国歌（'18～44）だった『国際歌』，北朝鮮の『金日成将軍の歌』『花売り娘』も有る。**露西亜文化の強い影響**を示す様に「軍隊大院」（軍機関官舎団地）の子弟が親の軍服を着た儘，音盤の旋律に合せて舞台舞踊劇『白鳥の湖』（チャイコフスキー作曲）の踊りをする。同じ**非革命系**の歌劇『田舎の騎士道』（［伊太利］マスカーニ作）の間奏曲が回想の場面で能く出るが，'63 年生れの姜文の少年時代からの愛着は**西洋の経典の魅力の証**である。

北朝鮮の領袖讃歌と革命歌劇の主題歌の登場は人民軍協奏団訪中公演の設定と為るが，当時の人民軍創建（'32）記念日「4.25」は '63 年の「南京路上好八連」表彰の日と '89 年の『人民日報』反「動乱」社説の前日で，直近の**「血盟国」再接近と中国「先軍」強化統治の「北朝鮮化」**と結び付けば興味深い。「無頼派」王朔の出生（'58.8.23）は毛沢東が**台湾と米国の間に楔を入れる金門砲撃**の初日に当るが，**全員が 50 年代生れの現最高指導部の対外強硬は「偉業」を真似る節が有り**，同年齢層の主人公馬小軍の**初心さ**も何処か感じられる。

『太陽の少年』は '96 年に台湾の金馬賞で作品・監督・主演男優 3 部門の最優秀賞を獲り，中華圏の秀作を表彰する同賞に輝く大陸映画の第 1 号と為った。姜文監督の出生の直前の '62 年に行政院（内閣）新聞局が創設した同賞は，反共攻防最前線の金門県・馬祖島（連江県）の頭文字の組み合せや，中共の支配が及ばない地域の映画事業を促進する主旨が表す様に，国共内戦の最後の軍事行動である**金門砲戦と連動して冷戦思考の要素が強かったが**，**冷戦終結後の台湾海峡危機再燃の年の受賞**は歴史の悪戯な巡り合せである。

金門砲撃は '58 年 10 月 5 日から休止を入れて沈静化し，見せ掛けの態度を示す為の隔日→週 3 回の空地を狙う形式的な砲撃も，**改革・開放元年の初日（'79.1.1）に中・米国交樹立と共に終息**した。**鄧小平の対台・対米融和路線は江沢民時代の対台近海誘導弾発射**（'95.7.21～96.3.23）**で修正**されたが，史上初の「中華民国」正・副総統の直接民選は**恫喝の逆効果で中共に不利な結果**と為った。劉連昆少将・邵正宗大佐が対台戦略の機密情報を台湾へ提供し '99 年に死刑に処された事は，'87 年体制下の**「6.4」事変に由る離反・変質**を思わせた。

『太陽の少年』の「文革」中の場面は原題通りの燦爛たる輝きを放つ鮮烈な多色で，終りの改革・開放後の豪華な箱型乗用車内で往年の悪友が歓談する場面は白黒と為る。80 年代以降の拝金主義や車が走る天安門広場一帯で '89 年に起きた武力鎮圧を思い起せば，**暗黒時代の中の青春の多彩を現す色と逆の倒錯**には頷ける。但し「狼の乳を飲んで育った世代」の「青春に悔い無し」と通じて，毛沢東時代は「美好」（素敵）で「文革」は肯定に値する部分が有るという認識を誘発するなら，**河豚の毒の様な美味と危険の同居**も感じ取れる。

映画の冒頭に巨大な毛沢東彫像が現れ，合唱『毛主席，革命戦士敬祝您万寿無疆』（革命の戦士は毛主席の長寿無窮を祈る）が響く。次の女子学生が歌う「想念毛主席」（毛主席を懐かしむ）も個人崇拝の絶頂期の '69 年の流行歌で，更に合唱『頌歌献給毛主席』（頌歌は毛主席に捧げる），男声独唱『北京頌歌』（'72）が相継いで流され，最終場面（ラスト・シーン）に西藏（チベット）歌手の女声独唱で又『想念毛主席』が繰り返される。**領袖讃歌の総出演（オン・パレード）**は後の薄熙来の「唱紅」を連想させるが，西藏（チベット）首長から党首内定者と為った**胡錦涛も「紅歌」愛好者**である。

建国 15 周年の記念行事として大型音楽舞踏史詩（歴史劇）『東方紅』が創作され，**党・毛沢東に賛美を捧げる 3 千人の出演者には清華大学に在籍中の胡錦涛が居り**，彼は '64 年 10 月 6 日の**『人民日報』所載の感想文で先輩の革命を継承して行くと誓った**。12 年後の「4 人組」逮捕で「文革」は幕を閉じたが，'82 年 5 月 26 日の同紙に**全国人民は『社会主義好』（社会主義は好い。'57）を歌おうと唱える投書**が有り，**提言者の栗戦書**（河北省石家庄（そう）地区党委辦公室勤務）は **'17 年体制で党内序列 3 位の全人代委員長**と為った。

栗戦書は「知識青年上山下郷」の被害を蒙った張抗抗の翌月（50.8）に，胡錦涛・習近平等が拝観した **7 期 2 中全会会場跡の所在地平山県の革命者一家**で生れ，**習の首都・要人家庭出身と同工異曲の「紅色基因」（革命的な遺伝子（D N A））の持主**である。「反右派闘争」で出来た社会主義の讃歌は右派分子を貶（けな）す歌詞で改革・開放後に廃れたが，創作の四半世紀後の復活要求と習政権下の栗の重用は **'57 年体制に対する '17 年体制の接近**を物語り，河北省正定・無極県の党責任者（'83～85）を務めた 2 人は**毛沢東時代を極めて好意的に捉える**。

富坂聰（報道人（ジャーナリスト）。'14 年より拓殖（たく）大学教授）は『習近平が消えた 2 週間 / “深刻な病状”』（『文藝春秋』'12 年 11 月号）で，習が党首就任の直前の 9 月 19 日に米国防長官と会見した際，激しい対米強硬とも取れる言葉が出た事を取り上げた。日本と主権を争う尖閣諸島（中国側名称は「釣魚島」）への介入を明確に拒絶する発言以外にも応酬（しゅう）が有り，中南海の内情に通じたある関係者は非公表の中身を知った時に鳥肌（とりはだ）が立ったと言うが，その紹介・論評は**違和感が有りながら後に鮮明と為って行く習の本質に触れている**。

「習副主席はパネッタ氏と笑顔で意見を交わすなかで，『昔の中国にはこんな言葉があるのですよ』と言って，七〇年代の中国で大流行したある中国の京劇の一節を披露したのです。それは『朋友来了　有好酒　豺狼来了　有刀銃（友人が訪ねて来れば良き酒で出迎える。狼やヤマイヌならば刀と銃で歓迎する）』という言葉です。習副主席の青年時代に全国的に流行した歌です。（中略）習は表情を変えることもなかったといわれています」，という興味深い情報には事実誤認が複数有り，その真実は**習の意識の深層の旧時代の遺物を垣間（かいま）見せる**。

21.「美帝（べい）野心狼」との抗争を夢見る深層の情念

「豺狼」は『現代漢語詞典』で「㊀豺和狼，比喩凶悪残忍的人」（㊀豺と狼。凶悪・残忍な人）と説明され，「～成性」（豺狼の様に凶悪・残忍な習性と為る）の前の用例「～当道」は単独の項で，「比喩壊人当権」（悪い人が権力を握っている譬え）と言う。『広辞苑』の「①やまいぬとおおかみ。貪欲残酷な獣。②残酷で貪欲な人，極悪無慈悲な人のたとえ」，【豺狼当路】の「［後漢書張綱伝］巨悪の者が政治の要路について権勢を恣にしていることのたとえ」と比べて，「**極・巨・要」でなくても算える処に悪人の多さが実感できる。**

「刀銃」は両国の最大規模の国語辞書に無いが，『現代漢語詞典』の【銃】の「㊀一種旧式火器：火～｜鳥～。」（㊀旧式の火器の一種。「火銃」「鳥銃」），【火銃】の「㊀旧式管形火器，用火葯引燃発射鉄弾丸、鉛弾丸等。」（㊀旧式の管状の火器，火薬で鉄の弾丸・鉛の弾丸等を引火・発射する），「鳥銃」の不採録の様に，日本語で拳銃・小銃・機関銃・レーザー銃を含む個人携帯可能の火器を指す「銃」は，稍原始的な鉄砲として使用頻度が低く，習近平時代の要人演説の原稿で**用心の為**「音 chòng」と**注意書きを付す必要が有る難読字**である。

『広辞苑』の【鳥銃】の「①鳥をうつ銃。②小銃の異称」と半分違って，『現代漢語詞典』の【鳥槍】の両義は「㊀❶打鳥用的火槍。❷気槍。」（㊀❶鳥を撃つ用の火銃。❷空気銃）と為る。熟語項【鳥槍換砲】（鳥銃を大砲に換える）は，「表示条件有很大的改善或情況有很大的好転。」（条件が大いに改善される事や状況が大いに好転する事を表す）である。**鳥銃の低次元**を現す「鳥槍」対「大砲」の比喩は，和製漢語「銃砲」の「小銃と大砲」の意に当る「槍・砲」の対を含み，「刀銃」の由来と思われる和製漢語「銃刀」も中国語で「刀槍」と言う。

毛沢東が '27 年「8.7 会議」で提起した**「先軍」思想の名言**は，**「槍桿子里面出政権」（鉄砲から政権が生れる）**と言う。【槍桿子】は「㊀槍身，借指武器或武装力量。也説槍桿。」（㊀銃身。転じて武器又は武装力を指す。「槍桿」とも）で，「政権は銃口から生れる」といった和訳は発砲しか念頭に無いが，**「槍口」（銃口）と共に「槍身」（銃身）を成す「槍刺・刺刀」（銃剣）・「槍托」（銃座）も殺傷力を持つ。**実際にも銃弾が少ない状況で交戦双方が銃剣を使って死闘する時が多く，中共の建国前の内部粛清等で銃剣に由る処刑も有った。

「槍刺・刺刀」の各 1 字を含む【刀槍】は，「㊀刀和槍，泛指武器」（㊀刀と銃。広く武器を指す）の意で，用例に「～入庫，馬放南山（形容戦争結束，天下太平）」（刀剣・銃砲を庫に入れ，馬を南山に放つ［戦争が終了し，天下が太平な様の形容］）が有る。『広辞苑』の【銃刀法】（「銃砲刀剣類所持等取締法の略。銃砲・刀剣などの所持の規制，違反者に対する罰則などを定めたもの。一九五八年［昭和三三］制定」）に有る「銃刀」（立項せず）と比べて，**同じ「乱」でも社会の不穏の比でない内外の戦争が多発する国柄**を窺わせる。

奇異な「刀銃」の合理的な解釈として情報源は中国人ではないと推測でき，件の「中南海の内情に通じた関係者」の別の話は傍証に為る。曰く，日本が魚釣島（中国側の名称＝「釣

魚島」）を国有化したと聞いた李克強副総理は，直ちに中央書記処会議を招集し，劉雲山中央宣伝部長・徐才厚中央軍委副主席・栗戦書中央辦公庁主任等が顔を揃えた席で，「劉部長に向かい『給顔色看日本！』（我々の怒りを日本に見せてやれ！）と叫びました。」臨場感が溢れた様な「原語再現」は真に逼るが，中国語であり得ない言い方は信憑性を損ねる。

『現代漢語詞典』の【顔色】名❹「指顕示給人看的厲害的臉色或行動」（人に見せる恐ろしい表情又は行動）は，『東方中国語辞典』（［東京］東方書店・［北京］商務印書館共同編集，相原茂・荒川清秀・大川完三郎主編，東方書店，'04）で，3「他人に誇示する恐ろしい顔つきや行為」と為り，同じ用例の「給他点児～看看」は「彼の目にものを見せてやろう」と訳される。「顔色に日本を見せてやれ」の意と為る問題の**擬似中国語**は規範例文と照合するまでもなく，外国人でも初修段階の習得が可能な二重目的の語順まで間違えている。

『広辞苑』の【顔色】は「顔の表情。かおいろ」の1義で，出典・用例の「万五“一壮年にして，病の為に横困めらるる者や”。“一を失う”」，熟語項【顔色無し】（「［白居易，長恨歌］相手に圧倒され，手も足も出ないさま」）が付く。『現代漢語詞典』の同項目の❶は色を意味し，❷は面貌・容貌を表す文章語（用例＝「～憔悴」［憔悴した面相］）で，❸「指臉上的表情：現出羞愧的～。」（顔の表情を指す。「恥じらう表情が浮かぶ」）は輸出されたが，**示威の顔付きや行動**に言う❹は**中国の特色の有る語義**として日本に入っていない。

「豺狼来了　有刀銃（狼やヤマイヌならば刀と銃で歓迎する）」の**違和感**は，「豺狼」と「狼やヤマイヌ」の語順の逆様の他に，**凶暴な豺狼とその猛威に到底敵わない刀との非対称・不整合**も有る。「刀槍」は武器の汎称で実際に習近平がその場で使った可能性も否定できないが，毛沢東の詞に有る「巋然不動」を読み間違えるはずが無いのと同様に「口誤」は考え難い。何しろ件の1節は**彼の3歳時から人口に膾炙して来た愛国**歌の最終段落の結句で，全軍・全国人民の歌姫から「第一夫人」と為った彭麗媛の十八番の1つでもある。

70年代に大流行した京劇と誤認した「中南海事情通」は仮に中国人だとしても，60年代半ばから流行った「革命現代京劇模範劇」にも50年代の「紅歌」にも疎い若者なのであろう。薄熙来の「唱紅運動」の契機は'08年5月30日（児童節の前々日）の幼稚園・小学校視察で，一緒に数首の50年代の「老歌」（懐かしの古い歌）を唄った後，『歌唱祖国』（祖国を歌唱す。王莘作詞・作曲，'50）を歌えない子供が複数居るのに失望した事で，彼は**次世代への思想教育を強化**す当く市委「7.24通達」で「紅色経典歌曲広範伝唱」を呼び掛けた。

70年代の京劇の1節とは思い込まず電脳網で「朋友来了有好酒」を入力して検索すれば，「若是那豺狼来了，迎接它的有猟槍。」（若し豺狼が来たら，迎えるのは猟銃だ）という下の句が簡単に見付かる。この『我的祖国』（我が祖国。喬羽作詞，劉熾作曲）は元々，映画『上甘嶺』（'56）の劇中歌『一条大河』（ある大河）である。朝鮮戦争の上甘嶺戦役で陣地を死

守した部隊を顕彰する作品は，**毛沢東の指示で作られた政治宣伝の「紅色経典」**で，**画龍点睛の『我が祖国』の影響力は60年経っても衰えない**。

当代中国の代表的な洋琴演奏家郎朗は‘11年1月19日に米国の大統領府で，胡錦涛主席を歓迎する国家晩餐会の席上オバマ大統領の前で『我が祖国』を即興風に弾いた。暗に米兵を豺狼に譬え猟銃で迎え撃つと換喩する歌詞の所為で米国の世論に非難されたが，彼は中国人の心の中の最も美しい曲の1つとして中国の強大と中国人の団結力を世界に訴えた事の名誉･誇りを公言した。習近平が29歳に為る前日（’82.6.14）に生れた彼の成人（満18歳）後の**確信犯的な発信**は，**’57年体制を継承した’87年体制の思想教育の成果**と見て可い。

翌年9月11日に日本政府が魚釣島を地権者から買い上げ国有化した事は中国を激怒させ，習近平の言は「尖閣諸島は日米安保条約の範囲内」とする**米国への牽制**に他ならない。歌詞には攻撃的な意味は無いものの，中国は決して脅かしには屈しないという情報内容は確実に相手に伝わったはずだ，という「中南海内情通」の見解は至極順当である。中国で有り触れた言い回しに鳥肌が立ったのはやはり外野からの反応であろうが，**「美帝野心狼」と抗争する時代の終盤に生れた習の最も深層の情念**を覗かせる意義が大きい。

50年代の「紅歌」の歌詞で中国人も鳥肌が立つ程の凄い威嚇表現は寧ろ，『歌唱祖国』の「誰敢侵犯我們就**叫他死亡**」（我々を侵攻して来る者には**死を与える**）である。大型音楽舞踏史詩『東方紅』を結ぶこの愛国歌は周恩来の発案に由って，’51年9月15日『人民日報』で発表した原型の中の**「滅亡」が「死亡」に改められた**。「文革」中「第2国歌」と為り毛沢東・「文革」礼賛の内容に書き換えられ，北京五輪開会式に於ける少女の独唱では**物騒な部分は削除**されたが，**’17年体制の下で「文革」直前の『東方紅』版が復活**した。

清華大学合唱団の一員として『東方紅』に出演した胡錦涛の首領時代の北京五輪開会式では，『歌唱祖国』は**「和諧社会」の建設及び国際社会との調和を図る時代精神**に沿って，「勤労・勇敢・解放」を割愛して専ら「繁栄・富強・団結・友愛」を謳歌する様に為った。後に’17年の香港返還20周年祝賀夕べ（6.30，香港）まで習近平は公の場で’08年版を歌ったが，’17年体制形成（10.25）の2年後の第7回世界軍人運動会開会式（’19.10.18，南京）では，彼の目の前で数万人の大衆が『東方紅』版を歌い**「新時代」の懐古嗜好**を現した。

「我們領袖毛沢東，指引着前進的方向。」（我等が領袖毛沢東，前進の方向を指し示している）等の歌詞は，此処で**毛時代の再来の息吹**と**「第2の毛」の’57年体制への回帰・超越**を感じさせる。党首就任直前の「豺狼を猟銃で迎撃する」は第19回党大会初日（’17.10.18）の2年後，**2期目の対外強硬姿勢の「逐歩昇級」と連動して「侵略者を死滅させる」へと激化**した。**総書記再選が「中国人民志願軍赴朝（朝鮮に赴く）作戦記念日」（10.25）に当る**事は，『上甘嶺』の劇中曲への愛着や外交での活用と共に**毛の朝鮮参戦への敬服**が元と為ろう。

李克強の「給日本点顔色看看」（前出の文法上可笑しい文に対する修正）の「顔色」，人に見せる「厲害的」（凄味が有る）顔付き又は行動を指す。憲法改正に由る国家主席任期撤廃と習近平主席2選の同月の初頭（3.2），**国威の発揚を顕示**する宣伝映画」『厲害了，我的国』（凄いぞ，我が国）が上映された。中央電視台・中国電影股份有限公司（映画株式有限会社）が制作した凄い作品は，前回党大会以来の習政権の近代化建設の功績を見せる半面，国力急増の現実・展望で米国に不要の刺激を与え直後の**両国貿易戦の火種**を撒いた。

貿易戦が尖鋭化した中で中央電視台は5月16日から急遽予定を変更して，毛沢東・胡錦涛時代の「抗美援朝」題材の映画を5夜連続で放送した。『英雄児女』（英雄的な児女，'64）を皮切りに『上甘嶺』，『奇襲』『鉄道衛士』（共に'60），実録『氷血長津湖』が（'11）が流された期間は，所謂**「硝煙無き戦争」と暗合して「文革」勃発53周年～北京戒厳令実施30周年に巡り合せた**。習近平が'18年3・5・6月と'19年1月に北朝鮮の3世首領金正恩を款待した事と共に，**毛沢東を踏襲する'17年体制の「抗美援朝」志向**は更に鮮明と為った。

22.「老い易い」世代の「新長征」の前途多難

習近平は'18年9月25日に黒龍江省農（業開）墾建三江管理局七星農場を訪れ，中・露国境に近い北大荒の耕地を見渡し**食糧自足への高度な関心**を示した。翌日に中国第1重型機械集団公司（斉斉哈爾市富拉爾基区）を視察する時，貿易保護主義の擡頭が中国に自力更生の道を歩むよう迫っていると語った。同年の除夜に発表した新年賀詞でも力説した**「自力更生」**は，**延安時代と「大躍進」失敗後に孤立・苦境を打開する為に使われた自己鼓舞の標語**で，**改革・開放後に死語と化した合言葉の再提起は追い詰められた状況を物語る**。

黒龍江・松花江・烏蘇里江の合流地域に在る建三江は国内農墾区の中の最北・最東端に当り，最初に日の出を迎える地域の内15の農場が有り党首は北斗の称と為る方で指示を出した。本名「抗美」の張抗抗は同じ雪国の広漠・未開が広域名に現れる北大荒で開墾作業に従事し，私は同じ下放先の黒龍江で「文革」後の初大学入試に合格した後，卒業時に危うく今の中国1重集団所在地の東北重型機械学院に行かされそうになった事が有るが，上記の報道・言説で「郷愁」の字を含み意が違う**「上山下郷」経験者としての憂愁**を覚えた。

『現代漢語詞典』の【郷愁】は「㊟深切思念家郷的憂傷的心情」（㊟家郷を深く切に懐かしむ憂愁の気持）の1義で，用例に「離郷多年，～日増」（長年故郷を離れており，郷愁が日増しに強まる）と有る。『広辞苑』の「①他郷にある人が故郷をなつかしんで寄せる思い。ノスタルジア。“―にかられる”②過去をなつかしむ気持。“若き日への―”」は，『日本国語大辞典』が示す様に何れも漢籍由来の語義であるが，中国で愁傷の意味が付く①しか無

くなったのは，**多難の世相や人生につき懐かしむ過去が少ない所為**であろうか。

盛唐の詩人崔顥の七律『黄鶴楼』の「日暮郷関何処是，煙波江上使人愁。」（日暮郷関何れの処か是なる，煙波江上人をして愁えしむ），晩唐の張祜の七絶『胡渭州』の「郷国不知何処是，雲山漫漫使人愁。」（郷国知らず何れの処か是なる，雲山漫漫人をして愁えしむ）は，「郷愁」の正統的な語義である。李白の五絶『秋浦歌　其十五』の「白髪三千丈」は**中国的な誇張表現**の典型とされるが，続く「緣愁似箇長」（愁いに縁り箇の似く長し）の様に，**懸念や悲哀が積り易い**故に長年の憂いで頭髪が白くなり伸び放題になる事が現実に有る。

名勝を詠む崔顥の「黄鶴一去不復返，白雲千載空悠悠。」（黄鶴一たび去って復返らず，白雲千載空しく悠悠）と上記の2句から，同じ武漢で武装闘争に由る政権奪取を唱えた毛沢東は3字を取って，『西江月　秋収起義（蜂起）』（'27）で「地主重重圧迫，農民個個同仇。秋収時節暮雲愁，霹靂一声暴動。」（地主重ね重ね圧迫し，農民個り個り仇を同じくす。秋収の時節暮雲愁い，霹靂一声暴動す）と書いた。中共が**都市への包囲を図った農村での「仇・愁」**（同じ chóu）**爆発**は，別種の「郷（田舎）愁」に駆られた下剋上の強襲と言える。

『日本国語大辞典』の「2昔のことを懐かしく思ったり，ひかれたりする気持」の和文初出は，「上海（1928－31）〈横光利一〉二五“ただ夕暮れの疲労の上に，不意に輝いた郷愁に打たれた自分を感じると”」である。**「輝いた郷愁」は『太陽の少年』の「文革」懐旧や「知識青年」の「青春無悔」と通じる**が，上海に於ける諸勢力の闘争を描く彼の「新感覚派」小説家の長篇の創作・発表の期間中，蒋介石・汪精衛の反共政変（'27.4.12，上海 / 7.15，武漢）で大打撃を受けた中共は，上海潜伏中の**中央が壊滅寸前まで来た程の暗黒な窮境**に落ちた。

第1次国共内戦（'27～37）中の党・軍の「輝いた郷愁」は精々，'27年「8.1」南昌蜂起・「9.9」秋収蜂起と遵義会議・長征勝利ぐらいである。建国で完全に輝きを取り戻した後の**別の「郷（田舎）愁」**として，未だに**治世の重荷と為る深刻な「三農」（農業・農村・農民）問題**が有り，其故習近平は建国69周年の前夜に食糧安全保障を喫緊の要務とした。金正恩も翌年4月11日の労働党中央第7期第4回総会で27回も「自力更生」を繰り返したが，**国際社会で暴れる「窮鼠」は「文革」時代の中国と重なって既視感が有る。**

北朝鮮・中国の1党独裁は中国本土 / 台湾の国民党に由る世界2位の68年5ヵ月を超え，'22・23年に露西亜 / ソ連の共産党の74年1ヵ月を上回って新1・2位と為る見通しである。建国68周年の当月に発足した**中共の'17年体制は国内の宿敵以上に専政を堅持して行き，習近平の党首再続投（'22年秋～27年秋）に為れば世界革命の最初の総本山をも凌げる**。北朝鮮は民主主義人民共和国の成立（'48.9.9）が1年早い「登頂」に**時の利**が有るが，両国の地縁と**両党の政治的な「血縁」**を思わせる様に毛沢東の命日も「9.9」である。

「9.9」は陰暦9月9日の重陽（中国の五行思想で陽の数に属す9が重なる意）を連想さ

せ,「登頂」は中国古代の重陽「登高」（一家揃って郊外の丘に登る行楽の行事）と重なる。日本で奈良時代から宮中の観菊の宴が催された事に由り菊の節句と為るこの日は，米国の文化人類学者ベネディクトが「日本文化の型」（副題）を論じる著書（'46）の題を借りて言えば，毛沢東の『採桑子　重陽』（'29.10）の第3・4句の「今又重陽，戦地黄花分外香。」（今又も重陽，戦地の黄花の分外香るかな）に，**「菊と刀」の両面**を以て登場している。

故領袖生誕100周年記念の『毛沢東年譜（1893―1949)』（中共中央文献研究室編，逢先知主編，全3巻，中央文献出版社，'93）の修訂本（'13）で，この詞は'29年の10月11日（重陽節）の項に全文収録されている。病気療養中の福建省上杭県の臨江楼で庭中の「黄菊盛開」（黄菊が咲き乱れる），汀江両岸の「霜花一片」（一面に降りた霜）を見て，景色に情感が触発され填詞（定型に文字を填める）に至ったと言うが，**戦乱・降格**（紅4軍対敵前線委員会書記落選，6.22）**・罹患の3重苦**から**秋の心境に相応しい「愁」**を隠し持つ。

冒頭の「人生易老天難老，歳歳重陽。」（人の生は老い易く天は老い難し，歳歳に重陽のめぐりきて）は，白居易の七絶『白鷺』の「人生四十未全衰，我為愁多白髪垂。」（人生四十未に全くは衰えず，我は愁い多きが為に白髪垂る），李賀の七言古詩『金銅仙人辞漢歌』（金銅仙人漢を辞するの歌）の「天若有情天亦老。」（天若し情有らば天も亦老いん），初唐の詩人劉希夷の同『代悲白頭翁』（白頭を悲しむ翁に代る）の「年年歳歳花相似，歳歳年年人不同。」（年年歳歳花相似たり，歳歳年年人同じからず）の**白髪・哀愁・悲情**が下敷と為る。

『人民解放軍占領南京』の第7句で引かれた「天若有情天亦老」は，天が若し人の情を持っているなら感傷の所為で老い込むだろう意で，**革命や戦争の非情・残酷**の形容として解釈できる。『重陽』填詞の時の毛沢東は古稀の半分に当る35歳で老いには程遠いが，遵義会議の2日後（'35.1.19）に生れた柴田翔の中篇小説『されど　われらが日々――』（'64，芥川龍之介賞受賞）の主人公（'55年頃の左翼の東大院生）が自称する**「老いやすい世代」**は，**艱難の時代を生き抜く為の消耗を強いられた開国世代や「知識青年」世代にも適用する。**

闘争に関して無情な毛沢東も「自信人生二百年」の41.4%しか達成せず，「会当水撃三千里」の豪語も81歳に為る前の老衰に由る水泳不能で空しく響いた。算盤の2桁以上の割算や御破算に因む中国語の**「九九帰一」（九九一に帰す）**は，「九九還原」と同じ「行ったり来たりして最後には元に戻る。結局の処」の意を表す。香港が英国に租借された99年（1898.7.1より）は，2桁の最大の数と同音（jiǔjiǔ）の「久久」（長久）の含みも考えられるが，毛が9の重なる月・日に他界した事は**恒久・至高の地位の無と為る帰着**を象徴する。

中国の陰陽思想では**陽の極は陰に転じる**故99は1や0へと向い，『易経・乾卦』の「上九，亢龍有悔。」（上九，亢龍悔い有り）の様に**「無上」と「上→無」は紙一重**である。天安門に付いた飾り物の巨大釘の縦横各9本も**陽の極を窮める発想**であるが，その**究極は皮肉に**

も「一窮二白」と化しかねない。毛沢東の『重陽』の 9 年後の西暦「9.9」に生れ契機と同名の黄菊（こうぎく）は，朱鎔基に継ぐ上海首長を経て党内序列 6 位の筆頭副総理に昇ったが，**毛の命日の不吉**が現れる様に胡耀邦以来の在任中に歿す政治局常委と為った（'07.6.2，68 歳）。

『現代漢語詞典』'16 年版では【両個一百年】（2 つの 100 年）が立項され，「指到 2020 年中国共産党成立一百年時全面建成小康社会，到本世紀中葉中華人民共和国成立一百年時建成富強民主文明和諧的現代化国家。」（中国共産党成立 100 周年の 2020 年に一応の余裕が有る社会の建設を完成し，今世紀中葉（なかば）の中華人民共和国成立 100 周年の際に富強・民主的・文明的・和諧の近代化国家の建設を完成する事を指す）と定義される。建党・建国 100 周年は厳密に言えば '21 年と '49 年であるが，**'17 年体制の下で「第 3 の 100 年」が追加**された。

「両個一百年」は習近平が中央委員候補（151 人中最下位）に当選した第 15 回党大会で，江沢民が政治報告（'97.9.12）で祖型を示し，以降の逐次の肉付けを経て習党首誕生直前の第 18 回の初日（'12.11.8）に胡錦涛が上記の規定を述べた。「“両個一百年”概括了這段時期内建設中国特色社会主義的奮闘目標。」（「2 つの 100 年」は当該時期内の中国の特色有る社会主義を建設する奮闘の目標を概括している），と**「中共語」の普及に余念が無い**『現代漢語詞典』新版は言うが，習は初の政治報告（'17.10.18）で独自の中間目標を設定した。

建党 99 年に当る '20 年は '10 年の域内総生産（GDP）が倍増する計画の到達点で，習近平は其処が起点と為る第 2 の 100 年への追求を 2 期に分け，'35 年に社会主義近代化を基本的に実現するよう唱えた。順当とも唐突とも思える **'35 年は遵義会議・長征勝利 100 周年**なので，**毛沢東・紅軍を先賢・模範として担ぎ出す「新時代」の「新長征」の特色**を持つ。習は '14 年 9 月 9 日に北師大視察で「大大（おじさん）」の尊称を快（こころよ）く是認したが，**準「革命聖地」の遵義の教師が画期的な個人崇拝の表現**をした処に，**'35 年に対する特別視**が火を見るよりも明らかである。

23.「革命英雄主義」の表徴と時代遅れの流儀

中澤克二（『日本経済新聞』編集委員兼論説委員）は『習近平帝国の暗号　2035』（日本経済新聞社，'18）で，前年の党大会の最終日と 1 中全会の開催日（10.24，25）と露西亜（ロシア）10 月革命の勃発・成功の日付（ユリウス暦）との**出来過ぎた一致**に着目し，現代化国家建設の基本完成の中途半端な目標設定から，当該年に毛沢東の歿年と同じ 82 歳に為る習の続投の可能性や，ソ連の寿命を上回る中共政権の超長期存続を目指す至上命題に党首集権の正当化の理屈を見出したが，**内側の視座や歴史鑑に基づいて解読すれば別の暗号**が見えて来る。

「10.25」は「志願軍赴朝作戦記念日」と '71 年の国連総会で中華人民共和国の加盟と台湾政権の追放が可決された日で，**前日は '45 年の国際連合設立の日**だから，**朝鮮戦争で米**

国主導の国連軍と渡り合えた軍事大国，国連安保理常任理事国を為す政治大国として，世界で権勢の拡張を強める意欲に暗合する。’35 年は**中央紅軍の長征（’34.10.10〜35.10.19）中の遵義会議と勝利の 100 周年**に当り，**指導部会議で頂上陣入りを果した毛沢東と潰滅に瀕しても再起力が保てた紅軍を貴び，先達に肖る「革命的英雄主義」の志向**が見て取れる。

対米貿易戦の白熱化に対応する中央電視台の「抗美援朝」映画緊急放送の 5 日目（5.20），習近平は江西で反撃の切札を示す可く贛州の稀土企業を視察し，同市于都県の中**央紅軍出発記念碑に献花し同記念館を参観**した。又 8 月 20 日に甘粛省張掖市高台県の**紅軍西路軍記念碑・戦没者墓地に献花し同軍記念館を参観**したが，ソ連へ繋がる西域の支配地域の開拓の為 ’36 年 10 月下旬に組成した西路軍は，中央の指揮の過誤で 5 ヵ月後に 2 万人余りが殆ど全滅したので，歴代党首が敬遠した同軍への慰霊参拝の**不吉を顧みない挙動**は訝られた。

毛沢東生誕 97 周年（’90.12.26）に落成した于都革命烈士記念館では，第 1 次国共内戦中の死者 16 336 人が祀られ内 147 人の著名人の事績が展示してある。職位が一番高い肖大鵬（紅 20 軍軍長，23 歳）は毛主導の AB 団（敵の諜報組織）摘発の際，部下が打倒毛の反乱を起した事で大量処刑の対象と為り軍の番号も抹消された。**党・軍史上第 1 の「大殺界」の ’31 年の「血洗」は冤罪の名誉回復後も汚点が洗浄できず，出身者が数多く戦乱や粛清で命を落した于都での英霊参拝は，征西の敗軍への追悼と合せて習近平の紅軍崇拝を現した。**

抗米宣伝攻勢の集中砲火や聖地・戦地巡礼の連続実施は「苦しい時の神頼み」の感が有るが，類義の中国語の「臨時抱佛脚」（いざと言う時には仏様の脚に取り縋る）は，「平素は御参りをしないのに」という前提は**毛沢東・紅軍信仰が篤い**習近平には当て嵌らない。9 期 2 中全会（’70.8.23〜9.6，廬山）の 3 日目「文革派」政治局委員張春橋は毛沢東を訪れ，多くの出席者から非難された窮境を訴え支持を乞うた。**跪いて領袖の腿を抱えて号泣する嘆願は正に「抱佛脚」**であるが，毛はその 1 齣が示す様に**略全ての人が足元にしか及ばない。**

毛沢東の学習歴・学力と政治・軍事の実践は習近平とは桁外れで，習は**幾ら毛並みの強豪を演じても毛時代の知の空白を埋め得ない。**未来の官製年譜は縦令「梁家河の大学問」を美化しても，下郷初頭の脱走・収容・労役の暗部を粉飾し難い。’15 年の北師大視察で握手を交した学生は彼の掌に胼胝が有る様だと語ったが，長年の労働の証として称える心算の美談は**時代遅れの価値観**を露呈させた。対照的に毛は日頃労働せず頭脳で勝負するから手が軟らかく，手に胼胝が有ったとしても今の個人用電脳胼胝（造語）に当る筆胼胝であろう。

習近平は読書体験の豊富さを顕示する為に内外で既読名著の題を数々披露して来たが，**「書毒」（読書中毒）患者と自称した毛沢東の後塵を拝する程度にも為らない。**毛は田中角栄首相に贈った朱熹著『楚辞集注』を熟知し，西独の政治家シュトラウスとの会見（’75.1.17）で相手が読んでいない独逸の動物学者・思想家ヘッケルの『宇宙の謎』（1899）を取り上げ，

素粒子複合模型を提唱した坂田昌一（理論物理学者・名古屋大学教授）の論文にまで目を通し，**典籍を始め活字情報への渉猟は量・質とも中共要人の頂点**に在る。

習近平は北師大視察で血液型の人格への影響に就いて劉嘉心理学学部長（'72 年生）に訊き，訝った相手に対し古代希臘の医学者の発見として紹介し，董奇学長（'61 年生）にも見解を求めた。董は一理が有るものの限界も有ると答え，劉は習の心理学の知識が多いと見たが，濠太剌利の医学者ラントシュタイナーが 1900 年に発見した血液型と前 4 世紀の希臘の医者ヒポクラテスが唱えた 4 体液（血液・粘液・黒胆汁・黄胆汁）の混同は雑過ぎ，科学性が疾っくに否定された血液型性格分類への関心は**毛の知的な好奇心より次元が低い**。

毛沢東は '55 年 10 月 15 日に日本国会議員訪中団と会見した時，日本で印刷された成員名簿を手にして読んだ。浜野清吾の「浜」を Bang，堀内一雄の「堀」を Ku と読んだ処，中国側の 1 人が Bin, Jue と直し，毛は前者に素直に頷き後者を疑って怪訝そうに相手を見た。時の通訳者劉德有（'31 生，'86 年文化部次官就任）は回顧録で毛の方が正しかったとしたが，この一幕が物語る**毛の幼少期からの漢字力・国語力の強さ**は，「濱」「掘」の発音で間違え毛の読み方に異論を重ねた関係者の**知力不足**に由って際立った。

第 4･5 句の「看万山紅遍，層林尽染」を始め習近平が再三引いた『沁園春　長沙』は，「独立寒秋，湘江北去，橘子洲頭。」（独り寒き秋に立てば，湘江北に去る，橘子洲頭）で始まる。18～29 歳（'12～23）の毛沢東は表題の湖南省都で学生・教員等として過し，'25 年のこの詞は**学識を蓄え心身を鍛え視野を広げ交遊を深めた青春時代**を懐かしむ。生前に発表した一番古い詩作の劈頭の「独立」は，**主席として党・国を君臨する「独坐大雄峰」**（独り大雄峰に坐る。［唐］百丈懐海僧の禅語）と暗合する。

中共建国の 1 200 年前（749）に生れた禅師のその「奇特事」（特に優れて珍しい事）は，「独立」の 1 字を含む**「鶴立鶏群」（鶏群鶴立）**と共に**「奇人」毛沢東の有り形**を表せる。『広辞苑』の【鶏群の一鶴】の「［晋書忠義伝・嵇紹“昂昂然として野鶴の鶏群に在るが如し”］多くの凡人の中にいる一人のすぐれた人のたとえ」の通り，**抜群**を形容するこの熟語は「野鶴」（同辞書の項＝「野にいる鶴。仕官しないで民間にいる人のたとえ。“閑雲―”」）に由来したが，毛は**野性的な気質と 1.8㍍超の高身長・鶴の一声の独裁で異種の「野鶴」**と為る。

同辞書の【鶴の一声】は「権威者･有力者などの，衆人を威圧し，否応なく従わせる一言。“雀の千声”と対にしてもいう」，【雀の千声鶴の一声】は「つまらぬ者の千言より，すぐれた人の一言がまさっている」と為るが，対応する中国語の「（千錘打鑼，）一錘定音」は，銅鑼を作るには何度も鎚で打つが，音色を決めるのは最後の一打ちである事から，権威有る人の一言で最終決定が為される事に言う。**鶏群に立つ野鶴の高潔さや「鶴の一声」の人物の優秀さと関係無く，秦の始皇帝から習近平まで続く「定於一尊」の専制の伝統に沿う。**

『日本国語大辞典』の【鶴の一声】の語釈は「衆人の千言を一声で鎮めるようなすぐれた声。有力者・権威者の一言」で，『広辞苑』の表現と合せれば**権力者が威勢で有無を言わせぬ言論・意志の鎮圧**に思い当る。「一鎚 / 槌定音」とも言う中国の成語は**厳しい制裁を行う利器の鉄鎚**を連想させ，毛沢東は正に**権勢の威力で「一言堂」（指導者が衆人の意見を聴かず独断で事を行う流儀。討議の場で衆人の主張を受け入れず自分の一存で決める行り方）を進め，自ら提唱した「群言堂」（大衆の正しい考えを汲み取って事を運ぶ方法）を否定した。**

雀は「大躍進」初期の「除四害」（4 害撲滅）運動の 2 位の駆除対象とされ，専門家が利点を指摘した事で「四害」は '60 年に再定義され鼠・蜚蠊・蠅・蚊と為った。日本語の「雀の声＝詰らぬ者の言」と「五月蠅い＝煩い」の発想は此処で妙に繋がるが，**鶴の一声が雀の千声を消す結果として「鴉雀無声」（鴉や雀の鳴き声さえ聞えない。静まり返った様）が有る。**毛沢東が 71 歳の誕生日（'64.12.26）の祝宴で政敵への非難を放言した時，一座は黙り込んでその様相を呈したが，鄧小平は '78 年に**社会の「鴉雀無声」は一番恐い**と警告した。

『念奴嬌　鳥児問答』の冒頭の「鯤鵬展翅，九万里，翻動扶揺羊角。背負青天朝下看，都是人間城郭。」の次に，「砲火連天，弾痕遍地，嚇倒蓬間雀。」（砲火天に連なり，弾痕地に遍し，嚇倒さす蓬間の雀を）と雀が出る。後半は「借問君去何方，雀児答道：（下略）」（借問す「君何方へか去かんとす」，雀児答えて道く，［下略］）で始まり，草叢の中の雀（小人物の譬え）の口吻でフルシチョフの融和外交・福祉共産主義の論調を擬し，「不須放屁，試看天地翻覆。」と続くが，**毛沢東の鶴の一声には「放屁」（馬鹿馬鹿しい）の一喝が間々有った。**

「鴉雀無声」の類義成句「噤若寒蝉」（寒蝉の如く口を噤む。「寒蝉」の『広辞苑』の説明は「秋の末に鳴く蝉。ツクツクボウシまたはヒグラシの古称か。かんせん。〈和名鈔一九〉」）は，声を出す勇気が無い状態の形容である。**鄧小平の鶴の一声に由る「6.4」鎮圧で民主化要求は「鴉雀無声」**と為り，**習近平時代の「7 不講」規制や「妄議」封殺で非主流言説は「噤若寒蝉」の沈黙**に陥った。毛沢東は**人の話す権利を奪う権力者は必ず失墜する**と言ったが，**権力を維持する為に人の言説を抑圧する中共の統治術は彼が元祖**を為した。

『沁園春　長沙』の「漫江碧透，百舸争流。」と「問蒼茫大地，誰主沈浮？」の間の句は，「鷹撃長空，魚翔浅底，万類霜天競自由。悵寥廓，」（鷹長けき空を撃ち，魚浅き底を翔ぶ，万　類　霜ふりし天に自由を競うかな。寥廓たるにむかいて悵き）と言う。『採桑子　重陽』の「寥廓江天万里霜」の内 5 文字を含む最後の 2 句の中で，**謳歌の主眼の自由は若い頃に学問・言論の分野で享受した物**とも解釈できる。彼が学問・言論の自由を人民に与えなかったのは，孔子が説く**「己所不欲，勿施於人。」（己の欲せざる所は人に施す勿れ）に反する。**

「文革」発動を決める政治局拡大会議（'66.5.4～26）で失脚した陸定一中宣部長は，'68 年投獄・'75 年党籍永久剥奪の後'78・79 年に釈放・復権と為った。彼は逝去の 2 日前の '96 年

5 月 7 日に最後の力を振り絞って，**「要讓孩子上学，要讓人民説話。」（子供が学校へ行ける様にせねば為らぬ。人民が物を言う事を許さねば為らぬ）**と言い遺した。北京八宝山革命公墓で '16 年 9 月 29 日に落成した墓の碑文にこれが刻まれたが，**『狂人日記』の「救救孩子」と通じる悲願は '57 年体制への反省**と共に，**後世の旧態再演を戒める予防注射**とも思える。

24.「愚民」政策犠牲者の初老「知青」治国の危険

「4 人組」中の張春橋は '58 年に資産階級的権利を制限する理論の提唱で毛沢東の眼鏡に適い，上海市委宣伝部長を経て中央「文革」副組長，上海党･政首長，政治局常委に為った。毛が**林彪に次ぐ後継者**と目した彼は**領袖の「大秘書」**と自任し**派閥の「軍師」**を務めたが，**中卒の学力**で 18 歳時（'35）『中国文学珍本叢書』の漢文に句読点を施す際，［清］宋長白撰『柳亭詩話』の中の漢・魏楽府と古風詩形の変則を知らず，唐・宋の律詩・絶句の方式で施した為，雑誌社で解職と為り 11 月 18 日の上海『小晨報』に名指しの諷刺の記事が出た。

40 年後の '75 年 11 月 20 日に毛沢東は政治局会議で「文革」総括決議の起草を提起し，「7 分の功績，3 分の過誤」の評価を定着させる為の任務を鄧小平に振った。「文革」に否定的な鄧は陶淵明の『桃花源記』の言で「桃花源中人」と自称し，「不知有漢，何〔ママ〕論魏晋」（漢有るを知らず，魏・晋は論無し），6 年も圏外に置かれた「文革」の総括には適任でないとして辞退した。毛・江青結婚 37 周年と胡耀邦の還暦に当るこの日は 5 年後「4 人組」裁判の初日と為ったが，**毛との決裂を招く鄧の拒否は古典名文を用いた処が味わい深い**。

『広辞苑』には【桃花源記】が有り，「東晋の陶淵明作。武陵の漁夫が道に迷って桃林の奥にある村里に入りこむ。そこは秦の乱を避けた者の子孫が世の変遷を知ることなく，平和な生を楽しむ仙境であった。歓待されて帰り，また尋ねようとしたが見つからなかったという内容」と説明される。参照指示が付く【桃源】は「（陶淵明の『桃花源記』に書かれた理想郷から）俗世間を離れた別天地。仙境。武陵桃源。桃源郷」で，「桃源に同じ」の【桃源郷】も立項され，【陶淵明】の上の【桃園に義を結ぶ】と共に**中国以上の漢籍重視**を物語る。

『現代漢語詞典』の【桃花源】は「見 1192 頁〖世外桃源〗」（1192 頁の【世外桃源】を見よ）で，中国で珍しい程の親切な所在頁の附記は拼音検索が苦手な**低学力者の多さ**を思わせる。当該主項目の「晋代陶潜在《桃花源記》中描述了一個与世隔絶、没有戦乱的安楽而美好的地方。後指不受外界影響的地方或幻想中的美好世界。」（晋代に陶潜が『桃花源記』で，世間と隔絶し戦乱が無く安逸で素晴らしいある場所を描いた。後に外部の影響を受けない場所，又は幻想の中の素晴らしい世界を指す）は，出典の紹介が『広辞苑』に及ばない。

中国語で「桃源」と同音（táoyún）の「桃園」は『広辞苑』には収録され（「桃の樹を多

く植えてある場所。ももぞの」），成句項【桃園に義を結ぶ】（「［三国志演義］劉備・関羽・張飛の三豪傑が桃園で義兄弟の契りを結んだ故事）」が付く。「桃園三結義」の「結義」（義を結ぶ）の『現代漢語詞典』の項は「動結拝。」のみで（「結拝」は血縁関係の無い者同士が仲が良いか共通の目的を持つ故，何らかの形式で義兄弟・姉妹の契りを結ぶ意），**古代「4大奇書」中の名著に出た義理縁故契約の話**は**中共の倫理に抵触**する為か選に漏れた。

毛沢東は長年の転戦中『三国志演義』『十八史略』を智嚢として手元に置き，歴史・文学の典籍を中心に万巻の書を読破する姿勢は失明寸前の末期まで続いた。「愚者は経験に学び，賢者は歴史に学ぶ」という独逸帝国の鉄血宰相ビスマルクの命題に従えば，**毛の建国・長期統治は歴史の鑑を借りた賢者の成功**と言えるが，**「知識青年」に労働の経験から学ばせたのは「愚民（民を愚かにする）政策」**の所為で，**党・軍・民に教条を学ばせたのは最悪の愚者量産**で，**歴史に逆行する「梁家河の大学問」の典範化・推奨は愚の真骨頂**と思えて為らない。

遵義会議閉幕85周年と趙紫陽逝去15周年の'20年1月17日，**幽閉中の失格党首が懸念した「権貴社会主義」の乱脈を示す騒ぎ**が起きた。謎の女性が天安門の裏の故宮に高級車で乗り入れた写真を電脳網上に投稿し，世界遺産を保護する為に外国首脳も車輌を使えないのに，閉館日に自宅の庭で遊ぶ感覚で燥ぎ富と特権を誇示した事は，大衆の義憤を引き起し博物院の謝罪に至らせた。「網民」の正体暴露作業で老革命家の3世関係者等の容疑が噂されたが，**傍若無人の振舞いは「狼の乳を飲んで育った世代」の「無法無天」**に映る。

当日は日本の**「第2の敗戦」元年**の阪神大震災の25周年に当るが，翌日から'90年以来の大学入試センター試験の最終回が行われた。55万人超の志願者が挑む紙上競争は有終の美を飾れず初日の「世界史B」で出題過誤が有り，'13年振り3回目の全員正解扱いに為った。歴史上の様々な国が実施した制度や政策に関する4択設問の内，「魏で屯田制が実施された」のみが正解だと意図された。三国時代の魏と違って戦国時代の魏は行っておらず，試験中の受験生の指摘で不備が発覚したが，**日本の歴史教育の広さ・深さ**が印象付けられた。

同日の国語の第4問は六朝時代の詩人謝霊運の五言詩から漢文力を試す6問が出題され，原文の「樵隠俱在山　由来事不同 / 不同非一事　養痾亦園中 / 園中屏雰雑　清曠招遠風 / 卜室倚北阜　啓扉面南江 / 激澗代汲井　挿槿当列墉 / 群木既羅戸　衆山亦対□ / 靡迤趨下田　迢遞瞰高峰 / 寡欲不期労　即事罕人功 / 唯開蒋生径　永懐求羊蹤 / 賞心不可忘　妙善冀能同」（返り点・送り仮名は略す。□は穴埋め問題，選択肢「①窓②空③虹④門⑤月」の内①が正解）は，**建国後生れで改革・開放前に成人と為った中国人には読解困難の高い水準**に在る。

『桃花源記』の独立王国で閑適の暮しを過す人々は秦の乱を避けて来た亡命者で，鄧小平が北京での軟禁と江西への下放を「桃花源」在住としたのは，意図に関らず**現代の秦の始皇帝が惹起した動乱への皮肉**にも聞える。仙境の原型が在る湖南省桃源県は毛沢東の故郷

韶山県の150キロ西北に位置するが，220キロ南に在る同省零陵地区道県等10数の県・市では'67年夏～秋の2ヵ月余り中，成らず者等が「黒5類」（「4類分子」＋「右派分子」）撲滅の名で9千人余りの命を奪い，**1寸の浄土も無い暗黒時代の「凶境」**（造語）を端的に示した。

「文革」2年目の暴走は1月初めの陶鋳解任から始まり，彼は同じ副総理の陸定一に継ぐ中央宣伝部長と書記処常務書記，政治局常委（4位）に抜擢されたが，自ら顧問を務める中央「文革」の江青等の工作と毛沢東の首肯で打倒され，'69年に賀龍・劉少奇に次いで監禁中に迫害死を遂げた。随筆集『思想・感情・文采』（広東人民出版社，'64）・『理想・情操・精神生活』（中国青年出版社，'65）で有名な**政界文筆家の失脚**は，**文人革命家が「文化革命」の荒波に呑まれた悲劇**と通じる。

中共中央理論誌『紅旗』'66年13号（10.10）社説『在毛沢東思想的大路上前進』（毛沢東思想の大道を前進しよう）は，初めて「資産階級（の）反動（的）路線」への批判を呼び掛けた。審査責任者の陶鋳は張春橋等が執筆した原稿で「反革命路線」に作る表現を和らげる為，「反対革命（革命［を］反対［する］）路線」に直した。張は『人民日報』事前転載の前日の国慶節祝典で**文法的に可笑しい**と直訴し毛の裁定を得たが，この挿話は**新中宣部長の国語力の意外な不備**と**毛の想像以上の英単語の蓄積力**を現した。

周恩来は社説発表後「資産階級反動路線」への違和感を毛沢東に訴え，党内の路線問題に於いて従来「“左”傾・右傾」の言い方をして来たと指摘した。毛は**異次元の闘争を促す尋常ならぬ命題を維持する為に英語で力説**し，当初は“Counter-revolutionary Line”（「反革命路線」）を使い，後に“Anti-revolutionary Line”（「反対革命路線」）に改め，最後に矢張り“Reactionary Line”（「反動路線」）が好いと言った。英語を使う風習が無い時代の「赤い皇帝」の説明は，**以後の歴代党首が超えていない高度の総合的な知力の片鱗**を示した。

毛沢東は70の手習いの心構えで晩年に英語の勉強に力を入れ，80歳に為る前の'73年7月4日に極左「宮廷派」中「上海幇（閥）」の張春橋・姚文元（宣伝工作主管の政治局委員）に対し，外務官僚等に騙されぬよう外国語を学べと忠告した。張も文芸評論家出身の姚も重要性を承知しつつ57・43歳の年齢が障碍と為り，張はどんなに頑張っても数種類の外国語を操れる総理には一生追い付けず，総理の様に党大会文献の翻訳を監修する仕事は全く出来ないと嘆いたが，**毛の鎖国・教育破壊で1～2世代の「外国語音痴」が生み出された**。

習近平は'15年「9.9」北師大視察で教科書の古典文学の分量削減に反対し，30年後を見据える人材育成の一環として古典詩歌の暗記を推奨した。**1.5世代に当る30年後の影響の顕在化**は**「文革」終了30年（'06）後の薄熙来が典型**で，彼は'79～82年に中国社会科学院研究生院（大学院）国際新聞学部で勉強し修士号も取り，商務相として貿易を主管し対外交渉も熟したが，息子を英国に留学させ資産を海外へ移す半面，**骨の髄に沁み込んだ毛沢**

東時代の遺伝子は一向に変らず，同時代人の習も**同工異曲の習性**を執政後に発揮している。

1党独裁・領袖専制を確立した'57年体制から始まり，**長老院政・「先軍」統治を維持した'87年体制**を経て，**集権強化・「核心」独尊を主張した'17年体制**が固(かた)まっている。**毛沢東時代の個人崇拝と鄧小平時代の老害硬直(こうちょく)は漸く禁則で否定されたが，「初老"知識青年"治国」は往年の洗脳で仕込まれた思考に由り逆戻りの恐れ**が有る。その**志向の再生産で次世代以降に類似の体制**が生れるかも知れないので，**「文革」の大罪**として**1代の国民の人生を狂わせた破壊に止(とど)まらず，**精神的な「一窮二白」の遺伝子を後世へ遺す負の連鎖も有る。

現最高指導部の任期は現代史開始（「5.4」運動）100周年・建国70周年（'19）と建党100周年（'21）を含み，'22･27年に選出される予定の次と次の次の方には建軍100周年（'27）・建国80周年の節目が有る。5年毎の刷(さつ)新に由って成員の年齢は単純化すれば順次5歳ずつ若返(わかがえ)って行き，**第20・21期の数人の「文革」勃発時の年齢は**第19期の数値を踏まえて，**小学生乃至幼稚園児の4〜10歳と－(マイナス)1〜5歳**であろうと予想するが，**終了時の9〜15歳と4〜10歳は小学生〜中・高校生に当り，依然として精神的「12歳世代」の尾(お)を曳(ひ)いて行く**。

（夏　剛，立命館大学国際関係学部教授）

受难的岁月 求道的历程（1）

笔者将于 2020 年 4 月 1 日因达退休年龄而由立命馆大学国际关系学院终身教授转任本校名誉教授暨特别任用教授，值此转机之际 1 月 14 日于所在学院以本文标题作纪念演讲，回顾先后在中国、日本度过的第 1、2 期人生（1954.7～87.6，87.7～20.3），审视自身及母国之受难的岁月、求道的历程，以提供近来部分中国历史教科书粉饰为“探索”的“文化大革命”及毛泽东时代的黑暗、灰暗常态等的实感证言，并拓展 20 年来关于中国政治、社会及与日本比较的研究。

由此衍生的这一回忆及随想录的连载第 1 部分，侧重分析“文革”对同年龄层人的深刻的不良影响，尤其是锁国自闭、文教停滞、言论管制、洗脑强化所致与物质生活相同的“一穷二白”。借改革开放元年（1979）邓力群（80 年代“左王”）就反“文革”志士张志新惨遭封喉枪决（75）所疾呼，张抗抗在《无法抚慰的岁月》（98）中戳穿“知识青年”名称掩盖无知的欺瞒所赞同的说法，将毛泽东治下度过青少年时代的群体称为“喝狼奶长大的一代”。笔者鉴于与张抗抗相仿的不堪回首的“知青上山下乡”经历（自上海［张为杭州］被迫赴黑龙江），及本人出生年月恰合本届中共中央政治局常委 7 人的平均，指出“初老知青治国”含难以补全的缺陷、局限而带应高度警惕的复旧、误国风险。

笔者参照日本战后“55 年体制”（1955 年出现的保守、革新两大政党制，实际上自由民主党长期单独执政［～93］），将“反右斗争”形成 1 党独裁、领袖专断格局的“57 年体制”视为偏离民主共和建国初衷的重大转向，“反资产阶级自由化”导致胡耀邦总书记辞职及邓小平不顾高龄继任军委主席的“87 年体制”使改革开放变质，又 30 年后确立习近平为党中央“核心”的“17 年体制”渐露摈弃“87 年体制”、复活“57 年体制”的趋向。笔者 2013 年在论文中断言中共 1 大开幕 90 周年之日（11.7.23）温州发生的高速铁路列车冲撞、脱轨事故标志着经济高速成长终结，而今又须强调打破毛泽东所定禁止国家主席连任 3 届之政治规矩的修改宪法（18.3.11）成为国运持续下降的起点。

（夏　刚，立命馆大学国际关系学院教授）